※ポリシーとの関連性　琉球列島と周辺諸国はどのような文化的・歴史的つながりがあるのか。考古学から物証で理解していく。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	アジア考古学	前期	火５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新里　貴之、-上原　静、他	２年	t.shinzato@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい
琉球列島とアジア世界とのつながりを各時代で考古学的に理解できる。

メッセージ
アジア諸国の考古学専門家で構成された複数教員による講義です。

到達目標
１）考古学的見地から周辺諸国との関りを理解することができる。
２）琉球列島がアジア世界の中でどう位置づけられるのか，年代観とともに理解できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス/アジア考古学の概要（新里）	シラバスの精読
2	琉球と日本（貝塚文化と縄文・弥生・古墳文化）（新里）	関連資料を配布するので読むこと
3	琉球と朝鮮半島１（考古学からみる韓国）（主税）	関連資料を配布するので読むこと
4	琉球と朝鮮半島２（考古学からみる琉球と朝鮮半島）（主税）	関連資料を配布するので読むこと
5	琉球と朝鮮半島３（高麗陶器の考古学）（主税）	関連資料を配布するので読むこと
6	琉球と中国１（沖縄出土の中国陶磁）（森）	関連資料を配布するので読むこと
7	琉球と中国２（中国考古学から見た琉球王国）（森）	関連資料を配布するので読むこと
8	琉球と中国３（琉球と中国を結ぶ海路）（森）	関連資料を配布するので読むこと
9	琉球と南中国・台湾１（土器文化の形成と展開（後藤）	関連資料を配布するので読むこと
10	琉球と南中国・台湾２（貝塚の形成と展開、漁撈技術の変遷）（後藤）	関連資料を配布するので読むこと
11	琉球と南中国・台湾３（稲作文化の波及と定着）（後藤）	関連資料を配布するので読むこと
12	琉球と東南アジア１（琉球列島～東南アジア島嶼にみる人類史）（山極）	関連資料を配布するので読むこと
13	琉球と東南アジア２（琉球列島・東南アジア島嶼の関係性）（山極）	関連資料を配布するので読むこと
14	瓦からみた東アジア１（高麗時代の三別抄と琉球）（上原）	関連資料を配布するので読むこと
15	瓦からみた東アジア２（中国華南の造瓦技術と琉球）（上原）	関連資料を配布するので読むこと
16	試験課題・レポート（新里）	課題に取り組む

テキスト・参考文献・資料など

１）テキスト：なし
２）講義資料：毎回、資料を配布
３）参考文献：沖縄考古学会2018『南島考古入門』ボーダーインク、宮城弘樹2022『琉球の考古学』敬文社、韓国考古学会編（武末純一 監訳）2013『概説韓国考古学』同成社、小野林太郎ほか（編）（2018）『海民の移動誌：西太平洋のネットワーク社会』昭和堂

学びの手立て

①「履修の心構え」
受講時の不必要な私語は認めない。
出欠確認については，毎回厳格に実施する（遅刻・欠席は事前の[直前ではない]連絡が必要）。
対話方式の講義の進め方も採用するため，積極的発言を期待したい。

②「学びを深めるために」
専門科目であるため，専門用語の理解が必要である。講義後30分以上の復習を勧める。

評価

１）試験結果（第16回：70%）と平常点（第１～15回のリアクションペーパー：30%）を加えて総合的に成績評価する。
２）無断欠席５回以上は「不可」とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

１）関連科目：継続学習やその発展のため，南島先史学Ⅰ・Ⅱ，南島考古学Ⅰ・Ⅱ，考古学特講Ⅰ・Ⅱの受講を勧める。
２）次のステージ：考古学のより深い知識と実践法を学ぶため，３年次以降の個別テーマを掘り下げて深く学ぶ他領域の関連講義も含めて受講して下さい。

※ポリシーとの関連性　19世紀以降のアジアの歴史を通して歴史事象の関連性を考え、現代社会に繋げて歴史を考える視点を養う。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 アジア史	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	土２	2
担当者 -前田　勇樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

本講義では主にアヘン戦争以降、近代への大きな転換期を迎える１９世紀以降の東アジアの歴史や文化を通して、世界的な大きな流れを掴み、その中で地域社会にどのような変化が生じたのか受講者と共に考えていきます。アヘン戦争や欧米列強の進出、日本帝国の誕生、伝染病などいくつかのトピックを通して東アジア社会の変化を捉え、最終的には現代社会の問題に繋げて考えることが目標です。

メッセージ

高校までの「歴史＝暗記」とは異なり、本講義では歴史事象を通して「考える」ことを受講者に求めます。なので、本講義では受講者に歴史事象や年号の「暗記」を課すことは一切ありません。一つ一つの出来事にはどのような意味があり、どのような繋がりがあるのか、担当教員も含めて受講者全員で考えていきましょう。

到達目標

１９世紀末から始まる東アジアの近代化について学ぶことで、単純な一国史(例えば日本史や中国史など)を超えた広い視野で歴史を捉える能力の獲得を目指します。何がどのように影響し合って歴史が動いてきたのか、欧米列強＋日本の植民地侵出や近代化と戦後への影響を学んでいきます。その一方で、この大きな歴史の流れが地域社会にどのような影響を与えたのか、琉球(沖縄)や台湾・朝鮮の事例を中心に地域の視点から学びます。マクロとミクロ双方の視点を関連させて歴史を考える事は、今後皆さんが各自の研究を進める上でも重要な能力と言えます。また、今私たちが生きている近代国家は、アジアでは本講義で扱う１９世紀末から形成されていきます。本講義を通して、自分が生きている現在を考える視点を養うことができるでしょう。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスの熟読
2	「アジア」とは何か？	配布資料を使った予習・復習
3	アジア史とは①	配布資料を使った予習・復習
4	アジア史とは②	配布資料を使った予習・復習
5	琉球版人生ゲーム「聖人上」からみた儒教	配布資料を使った予習・復習
6	琉球版人生ゲーム「聖人上」からみる近世琉球社会	配布資料を使った予習・復習
7	東アジアから見たアヘン戦争	配布資料を使った予習・復習
8	ペリーが琉球にやってきた時代	配布資料を使った予習・復習
9	中間テスト	２～８の授業資料の見直し
10	感染症と東アジア①　ペスト・梅毒・豚疫	配布資料を使った予習・復習
11	感染症と東アジア②　コレラ・天然痘	配布資料を使った予習・復習
12	沖縄の近現代史	配布資料を使った予習・復習
13	台湾の近現代史	配布資料を使った予習・復習
14	朝鮮の近現代史	配布資料を使った予習・復習
15	まとめ	配布資料を使った予習・復習
16	期末テスト	１０以降を中心に全配布資料の熟読

テキスト・参考文献・資料など

講義は配布資料とパワーポイントを中心に行い、資料は毎回担当教員から授業連絡システムを使って配布します。

参考文献：前田勇樹、古波藏契、秋山道宏『つながる沖縄近現代史』(ボーダーインク、2021年)、岩崎育夫『アジアの国家史』(岩波現代全書、2014年)、吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学』(ミネルヴァ書房、2022年)、宮城弘樹他編『大学で学ぶ沖縄の歴史』(吉川弘文館、2023年)など。

学びの手立て

講義は基本的に配布資料やパワーポイントを用いた座学形式で行います。各講義はYouTube上にアーカイブで残しますので、復習に活用してください。授業内容で重要だと思った内容に関しては適宜メモをとり、不明な点や疑問的についてはそのままにせず、リアクションペーパーに書くか、担当教員に直接質問してください。授業の内容を聞いて特に興味深いと思ったことについて、受講者自ら文献や論文を探して読んでおくことを推奨します。また、出席の確認も兼ねて受講者に意見や考えを聞くことがあります。

評価

中間考査３０％(穴埋め問題と論述問題)、期末考査４０％(穴埋め問題と授業内容に関する論述問題)、平常点３０％（毎回の授業態度と授業後のリアクションペーパーの内容）　無断欠席５回以上は不可とします。

学びの継続

次のステージ・関連科目

このアジア史の講義を通して歴史をみる時に重要なマクロ(アジア)とミクロ(各地域社会の変化)両方の視点が身に付くと思います。これは歴史研究のみに限らず、現代社会が抱える多くの問題を考える上でも重要な能力と言えます。受講者各自の今後の研究や日々の実践の中で生かしてもらいたいです。

※ポリシーとの関連性　本講義は、 社会文化学科の「発展科目」として設定されている。
「アジアのなかの沖縄・日本」を考えるために必須の科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 アジア社会文化論Ｉ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火４	2
担当者 石垣　直	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

中国は歴史的に沖縄と深い関わりあいをもってきた国である。また、近代になって沖縄が日本に組み込まれてきた歴史、日本の近代、さらには21世紀のアジアおよび世界を考えるうえで、とても重要な対象である。本講義では、地理、歴史、宗教・思想、社会変化、現代生活といったさまざまなトピックから多面的に迫ることで、「巨大な隣人」についての理解を深めることを目指す。

メッセージ

「中国」を知らずして、東アジアを語ることはできない。東アジアにおける文明の中心としての「中国」を学ぶことは、翻って、私たちが住む沖縄・日本の理解にも繋がるはずである。「アジアの時代」が叫ばれている今こそ、「巨大な隣人」である「中国」を学ぶ必要がある。

到達目標

「巨大な隣人・中国」に関する基礎的な情報を学び、歴史、言語、親族、社会関係、思想・宗教など個別のトピックを理解する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	「中国」に対する関心を深めよう。
2	中国の概要――概要・基礎データ	諸統計データを調べてみよう。
3	中国の歴史――華夷秩序と王朝の交代劇	日本史・琉球史と比較しよう。
4	映像鑑賞（１）――中国史と二人の「皇帝」	中国史関連の映像を探そう。
5	中国語の世界（１）――漢語・漢字の歴史と「中国人」	漢字・漢語の成り立ちを調べよう。
6	中国語の世界（２）――中国語入門	中国語学習に挑戦しよう。
7	中国社会の構造（１）――親族関係	朝鮮・日本・沖縄と比較よう。
8	中国社会の構造（２）――人間関係、社会関係	〈関係〉の重要性を理解しよう。
9	映像鑑賞（２）――中国（漢族）の習俗・宗教世界	思想・宗教関連の映像を探そう。
10	中国の思想と宗教（１）――中国の祭日、儒教	日本・沖縄への影響を考えよう。
11	中国の思想と宗教（２）――仏教、道教、風水	日本・沖縄への影響を考えよう。
12	中国の思想と宗教（３）――民俗宗教の世界	日本・沖縄と比較してみよう。
13	現代中国の現状と課題――政治・経済、民族問題	時事問題との関連を考えよう。
14	映像鑑賞（３）――現代中国	関連する映像を探してみよう。
15	まとめ――中国文化と現代社会	「中国」の全体的理解を目指そう。
16	期末テスト	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特になし。（毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する）
参考文献については、毎回の講義の際に適宜紹介する。

学びの手立て

高校の頃に学んだ世界史や日本史の知識、そして各自の日本文化・沖縄文化に関する知識を頼りに、「比較」という視点から「中国」について考えよう。「他者」を知ることは「自己」を深く理解することに繋がる。

評価

平常点（30点）＋期末テスト（70点）＝計100点
授業参加姿勢を確認するためのリアクション・ペーパー（感想、コメント、質問）の提出を求める。
また、学期末には講義内容に関する筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

中国だけでなく、朝鮮半島や東南アジアそしてオセアニア地域に対する理解も併せて学ぼう。文化人類学、民俗学、比較民俗学、アジア文化概論、琉球アジア文化論などの講義が、様々な視点を提供してくれるだろう。

※ポリシーとの関連性　本科目は、「フィールドワーク」・「比較文化的観点」を強調する本学科の教育目標の実現において不可欠なものである。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 アジア社会文化論Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月２	2
担当者 -神谷　智昭	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後教室にて受付	

学びの準備

ねらい

近くて遠い国といわれる隣国、韓国の社会と文化について理解することを目指す。

メッセージ

一見、奇妙に思える異文化の慣習・制度でも、その文化なりの論理や価値観の上に成り立っています。「なぜ異文化の人々はそう考えるのか、自分達の場合はどうなのか」という疑問を常に持ち、受講して下さい。

到達目標

①韓国の社会・文化を理解するための基礎的知識を身につけることができる。
②ある文化の中で、歴史・家族親族・村落・民俗・宗教などが相互に関連しあっていることを理解できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義全体の説明	
2	韓国の歴史（1）	韓国の古代史について調べる
3	韓国の歴史（2）	韓国の中世史について調べる
4	韓国の歴史（3）	韓国の近世史について調べる
5	韓国の言語	韓国（朝鮮）語について調べる
6	韓国の家族・親族（1）	韓国の家族・親族について調べる
7	韓国の家族・親族（2）	韓国の家族・親族について調べる
8	韓国の祖先祭祀	韓国の祖先祭祀について調べる
9	韓国の村落（1）	韓国の村落について調べる
10	韓国の村落（2）	韓国の村落について調べる
11	韓国の村落祭祀	韓国の村落祭祀・年中行事を調べる
12	韓国のシャーマニズム	シャーマニズムについて調べる
13	変貌する韓国社会（1）	現代韓国の社会・文化を調べる
14	変貌する韓国社会（2）	現代韓国の社会・文化を調べる
15	変貌する韓国社会（3）	現代韓国の社会・文化を調べる
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

特定の教科書は用いず、毎回配布するレジュメと資料、映像資料などを使用します。

学びの手立て

履修に際しては、通常の出席確認だけでなく、リアクション・ペーパー（感想・質問・意見）の提出を求める場合がある。他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意すること。

評価

期末試験（論述式）80%、授業態度（リアクションペーパーの内容）20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習Ⅰ　演習Ⅱ　アジア社会文化論Ⅲ　比較民俗学

※ポリシーとの関連性　自ら課題を発見し、多様な観点と専門知識を整えて課題を分析する

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	アジア社会文化論Ⅲ	後期	月４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲村　務	２年	tinamura@grs.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

特定の民族集団の文化を通してアジア文化を理解させようとすること。講義は英語のテキストを使うが日本語で行う。

メッセージ

東南アジア山地の人々の文化の比較は様々な文化の比較を行うのによいトレーニングになります。英語のテキストも比較的読みやすく、なにより私のよく知る社会ですのでわかりやすく講義できるでしょう。

到達目標

このコースは、中国、ラオス、タイ北部、ミャンマー東部に住んでいるアカ族に焦点を合わせ，そのレンズを通して，アジアの文化と社会を論じる。下記の内容について検討する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション　講義概要	講義の概要をよく理解する
2	タイ北部の６つの民族と中国のハニ族	専門用語を英語とともに理解する
3	アカ族の歴史	専門用語を英語とともに理解する
4	神話と伝説	専門用語を英語とともに理解する
5	アカ族の民族衣装	専門用語を英語とともに理解する
6	リネージと親族関係	専門用語を英語とともに理解する
7	村落制度	専門用語を英語とともに理解する
8	年中儀礼	専門用語を英語とともに理解する
9	伝統工芸	専門用語を英語とともに理解する
10	宗教と信仰　祖先崇拝	専門用語を英語とともに理解する
11	農業と経済	専門用語を英語とともに理解する
12	薬草知識と伝統的治療	専門用語を英語とともに理解する
13	中国ハニとアカ族	専門用語を英語とともに理解する
14	移民と人口の拡散	専門用語を英語とともに理解する
15	政治と民族集団	専門用語を英語とともに理解する
16	期末テスト	よく復習すること

テキスト・参考文献・資料など

テキスト　Lewis,Paul and Elaine. People of the Golden Triangle.
参考文献
稲村務　祖先と資源の民族誌：中国雲南省を中心とするハニ＝アカ族の人類学　めこん
その他　稲村の論文など

学びの手立て

細かなことを記憶する必要はありません。比較することの面白さを学んでほしい。

評価

発表・参加度　60%
テスト・レポート　40%

学びの継続

次のステージ・関連科目

アジア社会文化論Ⅰ、アジア社会文化論Ⅱ、アジア社会文化論Ⅳ、卒論
外国語で書かれている専門分野の資料・論文を読んで、理解し、発見した問題の分析する力を養成する。

※ポリシーとの関連性　専門選択必修科目（異文化理解科目）

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 アジア社会論	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火２	2
担当者 河村　雅美（7回）・小金丸　美恵（8回）	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	メールは河村ptt503@okiu.ac.jp 坪井ptt1217@okiu.ac.jp。相談等は授業後の時間も。	

学びの準備

ねらい

アジア・特に東南アジア（主にタイとベトナム）の社会を理解するための授業です。前半は他地域を理解するとはどのようなことか、異文化を理解するとは何かを考える時に、必要な知識、視点を養っていきます。後半は主にベトナムの言語や食文化などの身近なテーマからベトナム社会について学びます。

メッセージ

担当講師2人のオムニバス授業となります。講師はそれぞれタイとベトナムを専門としているので、東南アジアのトピックが多くなります。東南アジアのことはあまりなじみがないかもしれませんが、とても面白い地域なので、皆さんに興味をもってもらえるように身近な物をとりあげたり視覚的に楽しみながら学べるようにしていきたいと思います。

到達目標

(1)アジア社会についての基本的な知識を学ぶ
(2)アジアと日本・沖縄の関係についての知識を学ぶ
(3)他者や異文化を理解するとはどのようなことが必要かについての視点を持つ

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（特）前半　オリエンテーション・ガイダンス　授業の方針・アジアを知る手がかりの紹介等	シラバスや授業の流れの理解
2	（特）セッション1　アジア社会を理解するとは？(1)背景知識としての東南アジア	リアクションペーパー執筆
3	（特）セッション1　アジア社会を理解するとは？(2)「地図」「地名」からみるアジア	リアクションペーパー執筆
4	（特）セッション1　アジア社会を理解するとは？(3) 知っておいてほしい理論の紹介①	リアクションペーパー執筆
5	（特）セッション2　異文化を理解するとは？（1）″文化”が違うとは何か？を考える	リアクションペーパー執筆
6	（特）セッション2　異文化を理解するとは？（2）″文化”が違うとは何か？を考える	リアクションペーパー執筆
7	（特）セッション2　異文化を理解するとは？知っておいてほしい理論の紹介②	レポート準備
8	後半 オリエンテーション・ガイダンス　授業後半部への導入	リアクションペーパー執筆
9	ベトナムの食と地理（1）コメ食文化と南北のデルタ/ベトナム食卓風景	配布資料の理解
10	ベトナムの食と地理（2）生態と食「照葉樹林文化論」	リアクションペーパー執筆
11	ベトナムの言語（１）ベトナム語ってどんな言葉？	配布資料の理解
12	ベトナムの言語（2）クオック・グー（国語）成立史	リアクションペーパー執筆
13	ベトナムの都市（1）街並みと都市の歴史：ハノイ①	配布資料の理解
14	ベトナムの都市（2）街並みと都市の歴史：ハノイ②、フエ	レポート準備
15	ベトナムの都市（3）街並みと都市の歴史：ホーチミン市	リアクション執筆・レポート準備
16	レポート質疑応答・ベトナムトピック（カルチャーなど）紹介	

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは指定せず、講師の作成した資料を使います。
・説明資料をオンラインで配布します（配布方法は各講師が初回に紹介します）。
・参考文献等も各講師から提示します。
・講義とディスカッションで構成されます。
・オンラインに切り替わる際は教員からの連絡に注意してください

学びの手立て

［履修の心構え］
アジア社会の細かい知識を覚えることは、要求しません。「他者」「他地域」「異文化」を知るとはどのようなことなのか、アジアと私達の関係を具体的な例を通じて考えることを重視します。
［学びの手立て］
積極的にアジアのニュースに接したり、映画や書籍に触れることを心がけてほしいと思います。

評価

河村（前半、50点）：授業への参加姿勢・平常点（20点）+中間レポート(30点）、坪井（後半、50点）：授業への参加姿勢・平常点（20点）＋期末レポート（30点）で評価します。詳細は講義の中で提示します。
[授業への参加姿勢]授業に対するリアクションペーパーや小課題の提出により評価します。
[中間：期末レポート]各担当分終わりにレポートを課します。レポートの提出のみでは単位取得は不可です。
リアクションペーパーが規定提出数の2/3に達していない場合は不可となります。

学びの継続

次のステージ・関連科目

外国語資料講読演習Ⅰ・Ⅱ、社会・平和領域の選択科目

※ポリシーとの関連性　本講義は「沖縄をとりまく世界の社会や文化」を知るためのものである。「アジアのなかの沖縄」を考える際の必須知識を提供する。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 アジア文化概論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火４	2
担当者 石垣　直	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

「アジアの時代」が叫ばれて久しい。しかし、私たちの「アジア」理解は極めて限られたものである。沖縄・日本の社会・文化的特徴を考察し、その未来を構想する上でも、周辺アジア地域との比較は欠かせない。本講義では、東アジア、東南アジア、オセアニアの諸社会・文化に関する基本的な知識の習得を基礎としながら、そこにみられる差異と共通点について講義する。

メッセージ

「沖縄を知る」ことは重要である。周辺アジア地域の社会・文化を理解することは、自社会・自文化の理解を深めることにつながる。ぜひ、「アジアのなかの沖縄」を考え、沖縄・日本の未来を切り拓く人材を目指して欲しい。

到達目標

周辺アジア地域の文化に関する基礎的な知識を身に着け、比較という視点からこれらの諸地域ならびに沖縄・日本の文化を考察することができるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス ――なぜいま「アジア」を学ぶのか？	アジア関連の情報を調べる。
2	「アジア」とは何か？	アジア概念の変遷を調べる。
3	中国の社会と文化（１）――概要／歴史／民族	中国に関する情報を調べる。
4	中国の社会と文化（２）――親族関係	沖縄の親族関係と比較する。
5	朝鮮半島の社会と文化（１）――概要／歴史	朝鮮に関する情報を調べる。
6	朝鮮半島の社会と文化（２）――親族・社会関係と宗教	沖縄の親族・宗教と比較する。
7	日本の社会と文化――文明の生態史観／タテ社会論／民族性論	日本人論を読んでみる。
8	台湾の社会と文化（１）――概要／歴史／民族	台湾に関する情報を調べる。
9	台湾の社会と文化（２）――映像鑑賞	台湾映画を鑑賞する。
10	台湾の社会と文化（３）――原住民族の歴史と現在	原住民文化について調べる。
11	東南アジアの社会と文化（１）――概要／歴史／宗教	東南亜に関する情報を調べる。
12	東南アジアの社会と文化（２）――インドネシア・バリ島	沖縄の観光文化と比較する。
13	オセアニアの社会と文化（１）――太平洋島嶼世界の基層文化	太平洋に関する情報を調べる。
14	オセアニアの社会と文化（２）――ハワイの歴史・文化・現在	ハワイの文化について調べる。
15	まとめ―― アジア・太平洋的視座の重要性	アジアの中の沖縄を考える。
16	期末テスト	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特になし。
（毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する）　参考文献については、毎回の講義の際に適宜紹介する。

学びの手立て

・周辺アジア地域の諸文化について関心をもち、沖縄・日本の文化をそれらとの比較において考察することを心掛けてほしい。
・毎回講義の際に出席確認をかねて受講生にレスポンス・ペーパーの提出を求めるので、毎回の講義の要点を自分なりに整理する癖をつけること。
・他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意すること。

評価

平常点（30点）、期末テスト／課題（70点）

学びの継続

次のステージ・関連科目

アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、文化人類学理論、etc.

※ポリシーとの関連性　学科のカリキュラムおよびディプロマ・ポリシーに謳われる「地域理解能力」や「社会的コミュニケーション能力」と関わる。　[　　／　　]

科目基本情報				
科目名 インターンシップⅠ	期 別	曜日・時限	単 位
	その他	その他	2
担当者 学科インターンシップ運営委員 秋山　道宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学習を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。
参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。

メッセージ

事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える機会にしましょう。

到達目標

①社会人としてのマナーを修得する。
②職業観を養い、自らの適性を見定める。
③組織の構造と機能を理解する。
④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。
⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	第1回オリエンテーション（募集説明会）　※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等）※欠席不可	実習先に関する情報収集
4	事前ガイダンス1　インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
5	事前ガイダンス2　ビジネススキル①	社会人に必要なマナー習得
6	事前ガイダンス3　ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
7	事前ガイダンス4　インターンシップに必要な企業研究	実習先業界の情報収集（新聞等）
8	事前ガイダンス5　インターンシップの目標設定	社会人基礎力ベースの目標設定
9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等）※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学(業種、業界研究)
12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験(接客、事務)
13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ(実習振り返り)
14	事後ガイダンス1　インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
15	事後ガイダンス2　学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り

テキスト・参考文献・資料など

実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て

【応募資格】 ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）　②連続して２週間または３週間のインターンシップを意欲的に行える者　③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】 ①各学科担当教員による面接を受けること　②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可）　③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること）　④報告会を運営・参加すること　⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価

【出席について】出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。【評価方法・割合】①実習先による学生評価調書２０％ ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）６０％ ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度､インターンシップを通して得られたこと等について確認）２０％

学びの継続

次のステージ・関連科目

本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性　学科のカリキュラムおよびディプロマ・ポリシーに謳われる「地域理解能力」や「社会的コミュニケーション能力」と関わる。　[　　／　　]

科目基本情報				
科目名 インターンシップⅡ	期 別	曜日・時限	単 位
	その他	その他	4
担当者 学科インターンシップ運営委員 秋山　道宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学習を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。
参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。

メッセージ

事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。

到達目標

①社会人としてのマナーを修得する。
②職業観を養い、自らの適性を見定める。
③組織の構造と機能を理解する。
④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。
⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	第1回オリエンテーション（募集説明会）　※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等）※欠席不可	実習先に関する情報収集
4	事前ガイダンス1　インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
5	事前ガイダンス2　ビジネススキル①	社会人に必要なマナー習得
6	事前ガイダンス3　ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
7	事前ガイダンス4　インターンシップに必要な企業研究	実習先業界の情報収集（新聞等）
8	事前ガイダンス5　インターンシップの目標設定	社会人基礎力ベースの目標設定
9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等）※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学(業種、業界研究)
12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験(接客、事務)
13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ(実習振り返り)
14	事後ガイダンス1　インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
15	事後ガイダンス2　学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り

テキスト・参考文献・資料など

実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て

【応募資格】 ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）　②連続して２週間または３週間のインターンシップを意欲的に行える者　③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】 ①各学科担当教員による面接を受けること　②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可）　③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること）　④報告会を運営・参加すること　⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価

【出席について】出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。　【評価方法・割合】①実習先による学生評価調書２０％ ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）６０％ ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度､インターンシップを通して得られたこと等について確認）２０％

学びの継続

次のステージ・関連科目

本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性　①専門分野における調査・研究能力の育成、卒論作成を目的とした「演習科目」。②社会調査士資格認定　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅰ	通年	木２	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱　佳代	３年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

本演習では、社会現象としてのグローバル化をめぐる現代的課題を中心テーマに、現代社会が直面する様々な課題を発見し、社会階層・エスニシティ・移民といった分析軸からその課題を実証的・論理的に分析、広い視野と多角的視点にたち解決策を考察していきます。

メッセージ

社会学の考え方（ものの見方）と方法を学びながら、ゼミで共有する調査テーマを追究していきます。
同時に、4年次の卒業研究に向けて、個人の研究テーマも探求していきましょう。フィールドで見たり考えたりしたこと、本や資料を見て考えたことを、ゼミの仲間とじっくり議論し、新しい知性を生みだす、そんなゼミのあり方目指します。

到達目標

①社会科学的思考を身につけながら、社会学の各領域についての見識を深める。
②社会調査の基礎をふまえ、ゼミで共有する研究テーマを、データに基づいて追究することができる。
③現代世界のさまざまな社会的課題・社会現象に関心を広くもつことができる。
④個人の研究テーマを探求・設定することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	授業内で指示する
2	ゼミで共有する研究テーマの選定	授業内で指示する
3	ゼミで共有する研究テーマの展開	授業内で指示する
4	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
5	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
6	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
7	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
8	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
9	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
10	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
11	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
12	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
13	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
14	調査実習の準備	授業内で指示する
15	調査実習の準備	授業内で指示する
16	後期ガイダンス（学籍番号が奇数の学生）	授業内で指示する
17	後期ガイダンス（学籍番号が偶数の学生）	授業内で指示する
18	受講生による報告と討論（実習中間報告）（学籍番号が奇数の学生）	授業内で指示する
19	受講生による報告と討論（実習中間報告）（学籍番号が偶数の学生）	授業内で指示する
20	受講生による報告と討論（実習中間報告）（学籍番号が奇数の学生）	授業内で指示する
21	受講生による報告と討論（実習中間報告）（学籍番号が偶数の学生）	授業内で指示する
22	調査報告書草稿の提出（オンライン提出）	授業内で指示する
23	調査報告書の校正・推敲（学籍番号が奇数の学生）	授業内で指示する
24	調査報告書の校正・推敲（学籍番号が偶数の学生）	授業内で指示する
25	調査報告書の校正・推敲（オンライン）	授業内で指示する
26	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）（学籍番号が奇数の学生）	授業内で指示する
27	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）（学籍番号が偶数の学生）	授業内で指示する
28	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）（学籍番号が奇数の学生）	授業内で指示する
29	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）（学籍番号が偶数の学生）	授業内で指示する
30	調査報告書の完成・提出（オンライン提出）	授業内で指示する
31	1年間のふりかえり（前半45分学籍番号奇数の学生、後半45分学籍番号偶数の学生）	授業内で指示する

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業で適宜紹介します。
	学びの手立て ①共通の研究テーマに関する知識・情報を増やし理解・思考を深めるために、文献調査や読解、事前調査を授業に合わせて主体的に行うこと。 ②本演習で共有するテーマとは一見関係ないと思われる、沖縄や世界の社会的課題について、各自で主体的に知識を得ること。 ③調査実習はグループワークを軸とする。受講生は、調査の企画設計から実査、報告書作成までの社会調査の全過程に主体的・協力的に取組むこと。他のゼミ生との共同作業であることを自覚し、協同性を磨くこと。調査倫理に則った節度のある行動を行うこと。
	評価 平常点および報告・討論への参加姿勢（30%）、グループでの調査と報告（実習）および実習報告書（ゼミレポート）（40%）、個人研究レポートの内容（30%）に基づいて総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 （次のステージ）演習Ⅱ （関連する科目）領域演習・社会平和領域、ジェンダー論、国際社会学、社会学理論、マスコミ論、家族社会学、都市社会学、南島社会学、アジア社会論、社会調査法Ⅰ・Ⅱ、社会統計学Ⅰ・Ⅱ

※ポリシーとの関連性　専門分野における調査・研究能力を育成するための演習科目

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	通年	木２	4
担当者 秋山　道宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	オフィスアワーおよび学内メールで随時対応する。	

学びの準備

ねらい

本演習は、2年次の領域演習で学んだ内容を踏まえながら、フィールドでの調査研究を通して、平和学の視点と調査方法を習得する。また、4年次の演習Ⅱ（卒業論文作成）にもつながるよう、テーマ設定の手法（問いの立て方）についても学んでいく。

メッセージ

フィールドでの調査や報告書のまとめを通して、自身の問題関心の幅を広げ、卒業論文で取り組むテーマを掘り下げ、探っていってほしい。

到達目標

演習を通した到達目標は以下の3つとなる。
（１）自らでテーマを設定し、必要とされる調査方法を実践・習得できるようになる。
（２）調査で得られた結果について的確にまとめ、資料作成や報告を行うことができるようになる。
（３）上のような作業に取り組むことを通して、卒業論文で扱うテーマを絞り込むことができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	演習の年間スケジュールと課題についてのガイダンス	配布資料の精読
2	調査実習のテーマ案に関するディスカッション①（ブレインストーミング）	調査実習のテーマ案の検討
3	調査実習のテーマ案に関する報告①	報告の準備
4	調査実習のテーマ案に関する報告②	報告の準備
5	調査実習のテーマ案に関する報告③	報告の準備
6	調査実習のテーマに関するディスカッション②（テーマ案の報告を受けたディスカッション）	報告資料の精読とテーマ案の検討
7	調査実習のテーマに関する文献・資料報告①	文献・資料調査と報告の準備
8	調査実習のテーマに関する文献・資料報告②	文献・資料調査と報告の準備
9	調査実習のテーマに関する文献・資料報告③	文献・資料調査と報告の準備
10	調査計画案の報告とディスカッション①	関連情報の収集と報告の準備
11	調査計画案の報告とディスカッション②	関連情報の収集と報告の準備
12	調査計画案の報告とディスカッション③	関連情報の収集と報告の準備
13	調査実習に向けた準備①（事前調査の内容やアポイントの実施状況などを確認）	調査実習に向けた準備
14	調査実習に向けた準備②（事前調査の内容やアポイントの実施状況などを確認）	調査実習に向けた準備
15	調査実習の実施に向けた諸確認	配布資料の精読
16	調査実習の概要報告と報告書作成に向けた検討①	調査実習のまとめと報告の準備
17	調査実習の概要報告と報告書作成に向けた検討②	調査実習のまとめと報告の準備
18	調査実習の概要報告と報告書作成に向けた検討③	調査実習のまとめと報告の準備
19	報告書の構成案の報告とディスカッション①	報告書の作成と進捗報告の準備
20	報告書の構成案の報告とディスカッション②	報告書の作成と進捗報告の準備
21	報告書の構成案の報告とディスカッション③	報告書の作成と進捗報告の準備
22	報告書作成の進捗報告	報告書の作成と進捗報告の準備
23	報告書作成の進捗報告と統一事項などの確認	報告書の作成と配布資料の精読
24	卒論に向けたテーマ案の報告とディスカッション①	卒論のテーマ案の検討と報告の準備
25	卒論に向けたテーマ案の報告とディスカッション②	卒論のテーマ案の検討と報告の準備
26	卒論に向けたテーマ案の報告とディスカッション③	卒論のテーマ案の検討と報告の準備
27	卒論のテーマ案に関連する文献・資料の概要報告①	文献・資料調査と報告の準備
28	卒論のテーマ案に関連する文献・資料の概要報告②	文献・資料調査と報告の準備
29	卒論のテーマ案に関連する文献・資料の概要報告③	文献・資料調査と報告の準備
30	卒論執筆の注意事項やスケジュールの確認	配布資料の精読
31		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。 調査実習のテーマに応じて、その都度必要な文献や資料について紹介する。
	学びの手立て 演習では、講義と異なり、調査テーマの設定から調査の実施、そして、報告書のまとめまで主体的に取り組む姿勢が必要となる。グループやゼミでのディスカッションの場を大切にし、課題について協力して取り組んでほしい。
	評価 参加態度30%、報告・課題の内容70%

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次の演習Ⅱ（卒業論文作成）につながる。

※ポリシーとの関連性　領域分野における調査・研究能力を育成し，南島を中心とした考古学研究を深く学ぶ科目

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅰ	通年	木２	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新里　貴之	３年	t.shinzato@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

集団生活を中心とした発掘調査への参加，埋蔵文化財調査に不可欠である発掘技術の習得，遺跡報告書の作成などを通じて，実地に考古学のフィールドワークとデスクワークの方法論とともに遺跡への理解を深める。グループごとの調査成果の発表，参加者全員による討論によって，より深い知識を得る。

メッセージ

いよいよ考古学のメインであるフィールドワークです。これを通じて，肌で歴史・文化を感じ，自ら掘り起こし，資料化していく過程を学んでほしい。

到達目標

１）フィールドワークによって，遺跡調査を学ぶ。
２）モノを資料化する方法を学ぶ。
２）遺構・遺物を通して，文化を構築する方法を学ぶ。
３）参加者全員で発掘調査の内容を詳細にまとめた報告書を作成できる。
４）卒論のテーマを絞り込むことができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス（年間スケジュールと演習の方法）	シラバス，配布資料の精読
2	課題演習１	配布資料の精読
3	課題演習２	配布資料の精読
4	課題演習３	配布資料の精読
5	課題演習４	配布資料の精読
6	課題演習５	配布資料の精読
7	課題演習６	配布資料の精読
8	課題演習７	配布資料の精読
9	課題演習８	配布資料の精読
10	課題演習９	配布資料の精読
11	課題演習10	配布資料の精読
12	課題演習11	配布資料の精読
13	課題演習12	配布資料の精読
14	課題演習13	配布資料の精読
15	課題演習14	配布資料の精読
16	ガイダンス（報告書章立て，関連遺構・遺物調査，刊行まで）	シラバス，配布資料の精読
17	調査成果の整理（経過，地形測量・土層・遺構図面，写真），遺物実測準備	配布資料の精読
18	遺物実測	配布資料の精読
19	遺物実測	配布資料の精読
20	遺物実測	配布資料の精読
21	遺物実測	配布資料の精読
22	遺物実測	配布資料の精読
23	遺物実測	配布資料の精読
24	遺構図・遺物図のトレース，遺物写真撮影	配布資料の精読
25	遺構図・遺物図のトレース，遺物写真撮影	配布資料の精読
26	遺構図・遺物図のトレース，遺物写真撮影	配布資料の精読
27	文章作成，関連遺構・遺物調査	配布資料の精読
28	文章作成，関連遺構・遺物調査	配布資料の精読
29	文章作成，関連遺構・遺物調査	配布資料の精読
30	編集作業	配布資料の精読
31	発掘調査報告書輪読	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など １）テキスト：なし。 ２）参考文献：講義において随時紹介する。
	学びの手立て ①「履修の心構え」 出欠確認については，毎回厳格に実施する（遅刻・欠席は事前の[直前ではない]連絡が必要）。 ②「学びを深めるために」 発掘調査報告書を作成するため，専門用語・知識の理解が必要である。参考となる発掘調査報告書に目配りすること。
	評価 １）随時試験を課す。 ２）無断の遅刻・欠席５回以上は「不可」とする。 ３）平常の受講態度70%, 課題30%とする。

学びの継続	次のステージ・関連科目 遺跡を理解するには，多様な視点が必須となるため，社会文化学科の専門科目を広く受講することが望ましい。

※ポリシーとの関連性　問いを持って研究テーマを設定し、フィールドワークによって学びを深める

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅰ	通年	木２	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	阿利　よし乃	３年	①講義終了後 ②E-mail：y.ari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本科目では調査テーマを決めてフィールドワークを行い、その成果を報告書にまとめます。テーマ設定から調査の実施、資料整理と補足調査の繰り返し、報告書刊行を経験することで、４年次での卒業論文作成に向けた技能や思考を身につけます。

メッセージ

フィールドワークの実践とその成果をまとめる一連の作業は、４年間の大学生活の中でとても貴重な経験となります。グループで大きな目標に向かって活動を行うのは、３年次が最後です。ゼミの仲間と協力して社会文化学科の醍醐味であるフィールドワークからたくさんの刺激を受けて多くのことを学んでいきましょう。

到達目標

①ゼミ生や教員と意見交換ができるようになる（評価項目：参加姿勢）
②期限を守って課題を提出するためのスケジュール管理ができるようになる（評価項目：参加姿勢）
③調査テーマを設定し、関連情報を収集して整理することができる（評価項目：報告書発刊の取り組み）
④調査の目的と計画を明確化してフィールドワークを実行できる（評価項目：報告書発刊の取り組み）
⑤仲間と協力して一連の作業に取り組むことができる（評価項目：報告書発刊の取り組み）
⑥フィールドワークの技能や思考を身につける（評価項目：報告書の内容）

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	調査テーマの検討
2	調査テーマの探し方、調査地設定に向けて	調査テーマの検討
3	基本文献の決定と文献発表スケジュールの決定	文献精読
4	基本文献のレジュメ発表（２名）	文献精読、レジュメ作成
5	基本文献のレジュメ発表（２名）	文献精読、レジュメ作成
6	基本文献のレジュメ発表（２名）	文献精読、レジュメ作成
7	基本文献のレジュメ発表（２名）	文献精読、レジュメ作成
8	基本文献のレジュメ発表（２名）	文献精読、レジュメ作成
9	基本文献のレジュメ発表（２名）	文献精読、レジュメ作成
10	基本文献のレジュメ発表（２名）	文献精読、レジュメ作成
11	基本文献のレジュメ発表（１名）	文献精読、レジュメ作成
12	調査地選定、班編制、実習の日程調整、調査項目の立て方	調査項目の検討と調査計画作成
13	予備調査の概要報告、調査項目の検討と調査計画作成	調査項目の検討と調査計画作成
14	班ごとの調査計画発表	調査計画の見直し
15	班ごとの調査計画発表	調査計画の見直し
16	予備日	
17	実習の感想発表、調査地へのお礼状書き	お礼状の宛名書き、発送
18	報告書発刊に向けたスケジュール調整と調査報告の割り当て	発刊計画の作成と資料整理
19	調査報告（４名）	資料整理と見直し
20	調査報告（５名）	資料整理と見直し
21	調査報告（５名）	資料整理と見直し
22	資料整理の進捗報告と検討	資料整理と見直し
23	資料整理の進捗報告と検討	報告書原稿執筆
24	報告書原稿作成と検討	報告書原稿執筆
25	報告書原稿作成と検討	報告書原稿執筆
26	報告書原稿作成と検討	報告書原稿執筆
27	報告書原稿作成と検討	報告書原稿執筆
28	原稿印刷、製本作業	原稿印刷、丁合
29	原稿印刷、製本作業	原稿印刷、丁合
30	報告書完成発表会	調査地への報告書発送準備
31	調査地への報告書発送	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はありません。 授業内容に応じて、必要な資料を配付します。 授業の中で適宜参考文献を紹介します。
	学びの手立て ①履修の心構え ・毎回出席をとります。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に必ず連絡してください。 ・遅刻厳禁（調査地で迷惑をかけない、就活や実習で失敗しないために、普段から気をつけましょう）。 ・ゼミで大切なことは仲間を尊重する姿勢です。 ゼミ生の発表を聞き、自分の考えをしっかりと伝えましょう。 ・グループ活動は仲間との助け合いです。スケジュール調整をしてみんなと一緒に 報告書作成に向けて取り組みましょう。 ・毎回の授業で課題を課します。期限を守って提出してください。
	評価 ①参加姿勢30%（ゼミ生や教員と意見交換ができているか、期限を守って課題を提出しているか） ②課題の取り組み40%（調査テーマを設定し、関連情報を収集・整理できたか、調査の目的と計画を明確化してフィールドワークを実行できているか、仲間と協力して一連の作業に取り組むことができたか） ③調査報告の内容30%（フィールドワークの技能や思考を身につけられたか、資料整理の成果を分かりやすい文章にまとめることができたか）

学びの継続	次のステージ・関連科目 ①上位科目　演習Ⅱ、卒業論文 ②次のステージ 本科目やその他の科目での学びをもとに、就職活動のスケジュールを考慮しながら卒業論文のテーマ選定や取り組み方を考えて欲しい

※ポリシーとの関連性　専門分野における調査・研究能力を育成し、卒業論文作成を目的とする「演習科目」　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅰ	通年	木２	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波　潔	３年	研究室（5434）、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義は３年次を対象とし、近現代史研究を専攻とするゼミです。前期には南島地域に関する近現代史の専門知識の修得し、夏期休業期間に実施する実習の準備をおこないます。実習を通じて史料収集と読解の技能を学んだうえで、後期には収集した史料の翻刻を基軸とする報告書を作成する一方で、卒業論文作成に向けた各自の調査テーマの設定と先行研究の調査・報告をおこないます。

メッセージ

歴史研究は史料の読解が中心となるため、地道な作業が多くなります。そうした作業に集中して取り組む根気強さが必要となります。その一方で、歴史的事象が発生した現場へのフィールドワークにも積極的に取り組んで、五感をフル活用して歴史理解を深めましょう。

到達目標

（１）南島地域に関する近現代史の専門的な知識を修得することができる。
（２）近現代史に関する史料の読解に、積極的に取り組むことができる。
（３）自らの研究課題に関する先行研究を調査し、まとめることができる。
（４）自らの卒業論文作成に向けて、研究課題を設定し、研究計画を作成することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	04/13 ガイダンス	シラバス内容の理解
2	04/20 実習調査の概要確認、要旨報告の概要確認	配付資料精読
3	04/27 要旨報告の準備	テキスト精読／報告準備
4	05/11 文献の要旨報告①	テキスト精読／報告準備
5	05/18 文献の要旨報告②	テキスト精読／報告準備
6	05/25 文献の要旨報告③	テキスト精読／報告準備
7	06/01 文献の要旨報告④	テキスト精読／報告準備
8	06/08 文献の要旨報告（予備）、史料読解の準備	テキスト精読／報告準備
9	06/15 フィールドワーク①（宜野湾市立博物館）	報告書原稿の提出
10	06/22 史料読解演習①	配付資料精読／課題提出
11	06/29 史料読解演習②	配布資料精読／課題提出
12	07/06 史料読解演習③	配布資料精読／課題提出
13	07/13 史料読解演習④	配布資料精読／課題提出
14	07/20 フィールドワーク②（資料保存機関）	報告書原稿の提出
15	07/27 前期振り返り、実習の確認	仮テーマの選定／実習の準備
16	09/21 後期ガイダンス、文献リストの作成、卒論仮テーマの設定	先行研究の収集、読み込み
17	09/28 報告準備	報告準備／先行研究調査
18	10/05 第１回報告：先行研究について①	報告準備／先行研究調査
19	10/12 第１回報告：先行研究について②	報告準備／先行研究調査
20	10/19 第１回報告：先行研究について③	報告準備／先行研究調査
21	10/26 第１回報告：先行研究について④	報告準備／先行研究調査
22	11/02 第１回報告：先行研究について⑤（予備日）、補充調査	報告準備／先行研究調査
23	11/09 第２回報告：研究史の整理と研究課題について①	報告準備／先行研究調査
24	11/16 第２回報告：研究史の整理と研究課題について②	報告準備／先行研究調査
25	11/30 第２回報告：研究史の整理と研究課題について③	報告準備／先行研究調査
26	12/14 第２回報告：研究史の整理と研究課題について④	報告準備／先行研究調査
27	12/21 研究課題の確定	研究課題の確定
28	01/04 調査計画書の作成①	調査計画書の検討
29	01/11 調査計画書の作成②	調査計画書の検討
30	01/18 まとめ、春季休業の過ごし方	調査計画書の提出
31	卒業論文発表会への参加（日程未定）	発表会の準備・運営

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しません。 要旨報告に用いる文献については、講義の最初に提示します。 読解する史料は、複写して配布します。
	学びの手立て ①　２年次対象の領域演習の単位を修得済みで、演習Ｉの振り分けで近現代史ゼミに配属されていること。 ②　夏期休業中に実施する実習の計画、準備、実習後の報告書作成も併行して実施する。 ③　南島地域の近現代史に関する文献を、積極的に読み込むこと。 ④　日本、中国、台湾といった周辺地域の歴史にも、関心をもって学ぶこと。 ⑤　対面授業を基本とするが、状況に応じてteamsによる遠隔授業とする。
	評価 到達目標（１）の評価：レポート課題（10%）、文献の要旨報告（20%） 到達目標（２）の評価：史料読解に関する課題（20%） 到達目標（３）の評価：後期の２回の報告（40%） 到達目標（４）の評価：調査計画書の作成（10%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習Ｉおよび実習の成果を踏まえて、演習Ⅱで卒業研究に取り組んでもらいます。 また、歴史領域の発展科目はもちろんのこと、社会・平和領域、民俗・人類学領域の発展科目や異文化理解科目のなかで、自らの研究課題に隣接するものは積極的に履修することを勧めます。

※ポリシーとの関連性　沖縄の社会・文化に関するフィールドワークを実践し、現地調査・報告書／論文作成の基礎を学び修得する。　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅰ	通年	木２	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣　直	３年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本演習の目的は、実際に現地調査を通じて収集した資料を整理・検討し、個別テーマに関する報告書を完成させることにある。前期には、調査予定する地域の社会・文化ならびに具体的な調査テーマに関する文献を輪読し、調査に備える。後期には、夏休み行った調査実習の成果を整理し、報告書の完成を目指す。

メッセージ

①テーマ設定→②関連情報の収集・検討→③フィールドワーク→④調査データの整理・分析・発表（他者への説明・説得）。このプロセスを大学時代に経験することは、学生たちが本学卒業後どの分野に進もうとも、必ず役に立つはずである。社会文化学科の真骨頂であるフィールドワークから、ぜひ多くのことを学んで欲しい。

到達目標

沖縄文化の諸トピックに関する知識を文献とフィールドワークから学び、それを説得的な形で整理・発表する作法を身に着ける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	調査実習の重要性を学ぶ。
2	調査テーマ／調査地設定（１）	興味あるテーマを献索する。
3	調査テーマ／調査地設定（２）	関心あるテーマの論文を探す。
4	調査テーマ／調査地設定（３）	調査テーマを準備する。
5	関連文献研究（１）	関連文献を読み要約する。
6	関連文献研究（２）	関連文献を読み要約する。
7	関連文献研究（３）	関連文献を読み要約する。
8	関連文献研究（４）	関連文献を読み要約する。
9	関連文献研究（５）	関連文献を読み要約する。
10	関連文献研究（６）	関連文献を読み要約する。
11	調査計画	調査計画を立てる。
12	調査準備	調査協力依頼その他。
13	調査項目の設定（１）	調査項目を考える。
14	調査項目の設定（２）	調査項目を考える。
15	前期のまとめ	前期の内容を振り返る。
16	（予備日）	
17	班毎の調査成果発表（１）	班発表を準備する。
18	班毎の調査成果発表（２）	班発表を準備する。
19	班毎の調査成果発表（３）	班発表を準備する。
20	班毎の調査成果発表（４）	班発表を準備する。
21	補足関連文献の検討（１）	関連文献を読み要約する。
22	補足関連文献の検討（２）	関連文献を読み要約する。
23	補足関連文献の検討（３）	関連文献を読み要約する。
24	調査報告書の作成（１）	班毎での作業を進める。
25	調査報告書の作成（２）	班毎での作業を進める。
26	調査報告書の作成（３）	班毎での作業を進める。
27	調査報告書の作成（４）	班毎での作業を進める。
28	調査報告書の印刷・製本（１）	ゼミ生全員で印刷作業をする。
29	調査報告書の印刷・製本（２）	ゼミ生全員で印刷作業をする。
30	調査報告発表・検討会	発表・検討会の準備をする。
31	（予備日）	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 演習の中で適宜紹介する。
	学びの手立て 各自の身の回りあるいは沖縄各地で行われている祭りや行事などに関心を持ち、その内容を自身で調べてみよう。またその際、こうした祭りや習俗がどのような歴史の中ではぐくまれてきたのか、そして周辺地域と比較した場合の特徴とは何なのかを考えてみよう。
	評価 ゼミ内への参加姿勢＝平常点（40点）、報告書の内容・成果（60点）。

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだ内容は、4年次の演習Ⅱ（卒論演習）でさらに活かされることになる。なお、フィールドワークで調査する項目に関連した科目、ならびに調査スキルやライティング・スキルの向上に関連した科目の履修も推奨する。

※ポリシーとの関連性　専門分野における調査・研究能力を育成し、卒業論文作成を目的とする演習科目に当たる。　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅰ	通年	木２	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤　秋人	３年	水曜日２限のオフィスアワーに研究室（５４２２）で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

本演習のねらいは、琉球・沖縄の前近代史の先行研究（文献）を把握し、引用史料を丁寧に確認しながら、卒業論文の課題を設定するところにあります。前期は『沖縄県史』各論編第３・４巻の論考を読み、先行研究・引用史料・論点に関する報告をしてもらいます。後期は、卒業論文のテーマを決め、先行研究を踏まえ、当該史料を用いる意味を理解のうえ卒業論文の課題を文章化してもらいます。

メッセージ

学内外の研究会やシンポジウムに参加して雰囲気や議論に触れてください。県内博物館の常設展や企画展に足を運んで琉球・沖縄の前近代史をめぐるモノに接してください。

到達目標

・琉球・沖縄の前近代史をめぐる先行研究（文献）と引用史料を把握することができるようになる。
・卒業論文のテーマを決定し、先行研究を踏まえ、関連史料を確認したうえで、卒業論文の課題を的確に設定できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	前期の授業計画と報告日程の確認、『沖縄県史』各論編第３巻・第４巻の担当論考割り当て	到達目標を理解する
2	レジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
3	『沖縄県史』各論編第４巻「総論」を読む	「総論」を読み込む
4	担当論考の先行研究と引用史料に関する報告・質疑応答①	報告の準備をする
5	同上②	報告の準備をする
6	同上③	報告の準備をする
7	同上④	報告の準備をする
8	レジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
9	論文の構成について―序論・本論・結論の関係―	論文の構成を理解する
10	担当論考の問題の所在と論点に関する報告・質疑応答①	報告の準備をする
11	同上②	報告の準備をする
12	同上③	報告の準備をする
13	同上④	報告の準備をする
14	卒業論文のテーマに関する説明	卒業論文のテーマを考え始める
15	前期のまとめ、「実習」の内容・計画の確認	「実習」の内容を理解する
16	後期の授業計画と報告日程の確認、卒業論文のテーマ（仮）の提出	到達目標を再確認する
17	卒業論文準備報告１）レジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
18	卒業論文のテーマに関わる先行研究について	先行研究を的確に把握する
19	卒業論文準備報告１）と質疑応答―先行研究と引用史料リスト―①	報告の準備をする
20	同上②	報告の準備をする
21	同上③	報告の準備をする
22	卒業論文準備報告２）レジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
23	研究の論点と引用史料に関係について	論点と史料の関係を理解する
24	卒業論文準備報告２）と質疑応答―先行研究の論点と引用史料―①	報告の準備をする
25	同上②	報告の準備をする
26	同上③	報告の準備をする
27	同上④	報告の準備をする
28	「卒業論文の課題」の文章化に関する説明	論文の課題の意味を理解する
29	課題と先行研究の論点との関係について	各自の課題を文章化する
30	課題と先行研究との整合性について	各自の課題を文章化する
31	「卒業論文の課題（仮）」の提出	各自の課題をより明確にする

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】教科書は使用しません。レジュメと図表などの参考資料は必要に応じて配布します。『沖縄県史』各論編第４巻「総論」は２回目の講義、担当論考は前週までに全員に配布します。 【参考文献】 ・『沖縄県史』各論編第３巻 古琉球（沖縄県教育委員会、２０１０年） ・『沖縄県史』各論編第４巻 近世（沖縄県教育委員会、２００５年）
	学びの手立て ・『沖縄県史』各論編第３・４巻の担当論考と各自が決めた卒業論文のテーマに関わる先行研究はあきらめずに最後まで読み切ってください。 ・先行研究（文献）と史料の区別がつかなければ理解できるまで質問してください。
	評価 報告・質疑応答・「卒業論文の課題」設定に取り組む姿勢（６０％）、「卒業論文の課題」の的確性と完成度（４０％）によって総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・【重要】「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」を確実に履修してください。「実習」（集中）での役割や責任と直接関係します。当科目を履修しないと「実習」での取り組みに支障が生じます。 ・卒業論文のテーマを考えるためにも「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」を履修してくれること希望します。４年次の「演習Ⅱ」では卒業論文に取り組みますが、３年次の頑張りが４年次のスタートに直結すること自覚してください。

※ポリシーとの関連性　研究テーマを設定してフィールドワークを実践し、他者とのコミュニケーションを重ねることで地域を理解する。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	通年	木１	4
担当者 阿利　よし乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	①講義終了後に教室で ②E-mail：y.ari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本科目では、卒業論文の作成を目的とする。これまでの学びをもとに卒業論文のテーマを設定し、前期にはテーマに関わる文献を精読して問題点を発見し、問題解明のための調査項目を立てる。夏休みなどを利用してフィールドワークを実践し、後期には調査で得た資料を整理、分析し、卒業論文の章立てを行って論文執筆に取り組む。

メッセージ

大学生活の集大成である卒業論文の完成を目指しましょう。自分の好きなテーマを探して文献を読み込み、自分の興味が研究史のどの部分に位置づけられるのかをしっかりと考えて現地調査や話者の方々と向き合い、資料整理に臨みましょう。ゼミの仲間の取り組みから刺激を受けて、自身の課題を見つめ直すことが大切です。ゼミの最後には仲間と一緒に卒論完成の喜びを分かち合いましょう。

到達目標

①ゼミ生の発表に対する自分の意見を述べることができる（評価項目：参加姿勢）。
②計画的に卒論作成に取り組むことができる（評価項目：卒論の取り組み）。
③自身の興味を明確化し、研究史の中に卒論のテーマを位置づけることができる（評価項目：卒論の取り組み）。
④フィールドワークを実践し、資料分析を行うことができる。（評価項目：卒論の取り組み）
⑤資料分析をもとに論文構成を作成できる（評価項目：卒業論文の内容）。
⑤資料分析の結果を分かりやすい文章に表して伝えることができる（評価項目：卒業論文の内容）。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	就活、各種実習のスケジュール整理
2	卒業論文とは、論文完成までのながれ	卒論テーマの検討と作業計画
3	卒論完成までのスケジュール確認、テーマ設定	卒論作成計画づくりとテーマの検討
4	先行研究のまとめ方、文献リストの検討	文献リスト作成、文献精読
5	研究史の整理と基本文献の発表（２名）	文献精読と整理、卒論の目的の検討
6	研究史の整理と基本文献の発表（２名）	文献精読と整理、卒論の目的の検討
7	研究史の整理と基本文献の発表（２名）	文献精読と整理、卒論の目的の検討
8	研究史の整理と基本文献の発表（２名）	文献精読と整理、卒論の目的の検討
9	研究史の整理と基本文献の発表（２名）	文献精読と整理、卒論の目的の検討
10	研究史の整理と基本文献の発表（２名）	文献精読と整理、卒論の目的の検討
11	研究史の整理と基本文献の発表（２名）	文献精読と整理、卒論の目的の検討
12	夏休みの作業計画を立てる	夏休みの作業計画作成
13	夏休みの作業計画発表	夏休みの作業計画作成と見直し
14	夏休みの作業計画発表	夏休みの作業計画作成と見直し
15	夏休みの作業計画発表、前期のまとめ	夏休みの作業計画作成と見直し
16	予備日	
17	調査成果の発表と質疑応答	資料整理と発表準備、章立ての構想
18	調査成果の発表と質疑応答	資料整理と発表準備、章立ての構想
19	調査成果の発表と質疑応答	資料整理と発表準備、章立ての構想
20	調査成果の発表と質疑応答	資料整理と発表準備、章立ての構想
21	卒論の章立ての構想と進捗報告	資料整理と発表準備、章立ての構想
22	卒論の章立ての構想と進捗報告	資料整理と発表準備、章立ての構想
23	論文作成・指導	卒論執筆と修正
24	論文作成・指導	卒論執筆と修正
25	論文作成・指導	卒論執筆と修正
26	論文作成・指導	卒論執筆と修正
27	論文作成・指導	卒論執筆と修正
28	論文作成・指導	卒論執筆と修正
29	論文作成・指導	卒論執筆と修正
30	論文作成・指導	卒論執筆と修正
31	卒業論文発表会	4年間の振り返り

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はありません。 授業内容に応じて、必要な資料を配付します。 授業の中で適宜参考文献を紹介します。
	学びの手立て ①履修の心構え ・毎回出席をとります。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に必ず連絡してください。 ・就活を理由に欠席する場合は、欠席理由を示す書類等を事前に提出してください。 ・遅刻厳禁（調査地や実習、就活でミスをしないために普段から気をつけましょう）。 ・４年次は就職活動や教育実習、学芸員実習などでとても忙しくなります。 スケジュールを管理を徹底しましょう。 ・毎回の授業で課題を課します。期限を守って提出してください。 ・卒業論文は前期のうちにできるところからコツコツと書いていきましょう。
	評価 ①参加姿勢30%（ゼミ生の発表に対する自分の意見を伝えることができたか、期限を守って課題を提出しているか）②卒論作成の取り組み40%（テーマを設定し、関連情報を収集・整理できたか、卒論の目的と計画を明確化してフィールドワークを実行できているか）③卒業論文の内容30%（卒論作成に必要な資料を収集することができたか、資料分析をもとに論文構成を作成できたか、資料分析の結果を分かりやすい文章に表して伝えることができたか。）

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ 本科目やその他の科目での学び、卒業論文での経験を卒業後の進路に生かしてほしい

※ポリシーとの関連性　専門分野における調査・研究能力を育成し、卒業論文作成を目的とした「演習科目」です。　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅱ	通年	木１	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱　佳代	４年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

本演習では、学生各自の関心にもとづいて研究テーマを設定し、主体的に調査・分析を行い、先行研究の知見にも目を配りながら、論理的・実証的記述により、卒業論文作成を行うことを目指します。

メッセージ

現代社会が直面するさまざまな課題を発見し、移民・エスニシティ・社会階層といった分析軸をすえながら、その課題を実証的・論理的に分析しましょう。フィールドで見たり考えたりしたこと、本や資料を見て考えたことを、ゼミの仲間とじっくり議論し、卒業研究につながる知性を生みだす、そんなゼミのあり方を目指します。

到達目標

①個人の研究テーマを設定し、主体的に調査研究を行うことができる。
②自分の研究課題について、実証的・論理的に説明できる。
③ゼミで研究報告を行い、学生同士で意見交換を行うことができる。
④学術的ルールに則って、自分の研究課題を追究した卒業論文を書くことができる。
⑤卒論発表会（口頭試問）における質疑に適切に応答できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	授業内で指示する
2	講義:卒論作成までのプロセス	授業内で指示する
3	講義:卒論の書き方	授業内で指示する
4	受講生による報告と討論（論文概要）	授業内で指示する
5	受講生による報告と討論（論文概要）	授業内で指示する
6	受講生による報告と討論（論文概要）	授業内で指示する
7	受講生による報告と討論（論文概要）	授業内で指示する
8	受講生による報告と討論（論文概要）	授業内で指示する
9	受講生による報告と討論（論文概要）	授業内で指示する
10	受講生による報告と討論（論文概要）	授業内で指示する
11	受講生による報告と討論（論文概要）	授業内で指示する
12	受講生による報告と討論（論文概要）	授業内で指示する
13	受講生による報告と討論（論文概要）	授業内で指示する
14	受講生による報告と討論（論文概要）	授業内で指示する
15	前期のふりかえりと夏期休暇中の研究計画報告	授業内で指示する
16	後期イントロダクション（学籍番号が奇数の学生）	授業内で指示する
17	後期イントロダクション（学籍番号が偶数の学生）	授業内で指示する
18	受講生による報告と討論（中間報告）（学籍番号が奇数の学生）	授業内で指示する
19	受講生による報告と討論（中間報告）（学籍番号が偶数の学生）	授業内で指示する
20	受講生による報告と討論（中間報告）（学籍番号が奇数の学生）	授業内で指示する
21	受講生による報告と討論（中間報告）（学籍番号が偶数の学生）	授業内で指示する
22	受講生による報告と討論（中間報告）（学籍番号が奇数の学生）	授業内で指示する
23	受講生による報告と討論（中間報告）（学籍番号が偶数の学生）	授業内で指示する
24	卒業論文仮提出（オンライン提出）	授業内で指示する
25	卒業論文校正・推敲（原稿指導）（学籍番号が奇数の学生）	授業内で指示する
26	卒業論文校正・推敲（原稿指導）（学籍番号が偶数の学生）	授業内で指示する
27	卒業論文校正・推敲（原稿指導）（学籍番号が奇数の学生）	授業内で指示する
28	卒業論文校正・推敲（原稿指導）（学籍番号が偶数の学生）	授業内で指示する
29	卒業論文提出	授業内で指示する
30	卒業論文発表会（形式未定）	授業内で指示する
31	卒業論文集完成（形式未定）	授業内で指示する

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ①授業で配布する「卒論作成までのプロセス」「卒論の書き方」「卒論のしおり（改訂版）」および『社会学評論スタイルガイド』を共通テキストとする。 ②参考文献は、木下是雄『理科系の作文技術』(中央公論社,1981)、栩木伸明『卒論を書こう（第2版）』（三修社,2006)、早稲田大学出版部編『卒論・ゼミ論の書き方（第2版）』（早稲田大学出版部,2002)など。 ③個人の研究テーマに関する参考文献は、授業で適宜紹介する。
	学びの手立て ①各自の研究テーマに関する知識・情報を増やし理解・思考を深めるために、指示された課題に積極的に対応し、文献精読および社会調査を、授業に合わせて主体的に行ってくること。 ②他のゼミ生の研究テーマについて、自分の研究テーマや関心にひきつけて、意見が述べられるようにすること。 ③新聞と文献を継続してしっかり読むこと。
	評価 平常点（30%）、研究報告の内容・討論への参加姿勢（30%）、卒業論文への取組みと内容（40%）で総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 （関連する演習科目）演習Ⅰ （関連する講義科目）ジェンダー論、国際社会学、社会学理論、マスコミ論、家族社会学、都市社会学、南島社会学、アジア社会論

※ポリシーとの関連性　専門分野における調査・研究能力を育成し、卒業論文作成を目的とする「演習科目」　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅱ	通年	木１	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波　潔	４年	研究室（5434）、もしくはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義は４年次を対象とした、近現代史研究を専攻とするゼミです。演習Ⅰで修得した知識、技能を前提として、卒業論文を作成することをめざし、前期には史料内容、後期には卒業論文の実際の執筆内容について報告してもらいます。

メッセージ

卒業論文作成の道のりは、とても大変です。就職活動や各種実習もあり、大変忙しい１年になります。また、感染状況によって研究活動が制約される可能性もありますので、計画的かつ積極的に取り組み、早めに作業を進めるようにしてください。

到達目標

（１）自らの卒論テーマに関する専門的な知識を十分修得することができる。
（２）自らの卒論テーマに関する歴史資料を収集し、正確に読解できる。
（３）自らの卒論テーマに関する調査を行い、その内容について論理的に報告できる。
（４）他者の報告に対して、建設的な意見を述べることができる。
（５）歴史学の作法に基き、論理的かつ実証的な卒業論文を作成できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	04/13 ガイダンス	シラバスの精読
2	04/20 調査の進捗状況の報告、史料報告の方法確認	史料調査／収集史料の読解
3	04/27 史料に関する１次報告①	史料調査／収集史料の読解
4	05/11 史料に関する１次報告②	報告準備／史料の内容把握
5	05/18 史料に関する１次報告③	報告準備／史料の内容把握
6	05/25 史料に関する１次報告④	報告準備／史料の内容把握
7	06/01 史料に関する１次報告（予備日）	報告準備／史料の内容把握
8	06/08 史料に関する補充調査①	史料調査／収集史料の読解
9	06/15 史料に関する補充調査②	史料調査／収集史料の読解
10	06/22 史料に関する補充調査③	史料調査／収集史料の読解
11	06/29 史料内容に関する２次報告①	報告準備／史料の内容把握
12	07/06 史料内容に関する２次報告②	報告準備／史料の内容把握
13	07/13 史料内容に関する２次報告③	報告準備／史料の内容把握
14	07/20 史料内容に関する２次報告④	報告準備／史料の内容把握
15	07/27 史料内容に関する２次報告（予備日）、夏期休業中調査の検討・確認	報告準備／史料の内容把握
16	09/21 後期ガイダンス	報告準備
17	09/28 報告準備	報告準備／補充調査
18	10/05 卒論中間報告①	報告準備／補充調査
19	10/12 卒論中間報告②	報告準備／補充調査
20	10/19 卒論中間報告③	報告準備／補充調査
21	10/26 卒論中間報告④	報告準備／補充調査
22	11/02 卒論中間報告（予備日）	報告準備／卒論の執筆
23	11/09 卒論最終報告①	報告準備／卒論の執筆
24	11/16 卒論最終報告②	報告準備／卒論の執筆
25	11/30 卒論最終報告③	報告準備／卒論の執筆
26	12/14 卒論最終報告④	報告準備／卒論の執筆
27	12/21 卒論最終報告（予備日）、卒論執筆に関する最終確認	報告準備／卒論の執筆
28	01/04 卒業論文の執筆と添削①	卒論の執筆
29	01/11 卒業論文の執筆と添削②	卒論の執筆
30	01/18 卒業論文集の作成	卒業論文の最終点検
31	卒業論文発表会への参加（日程未定）	卒業論文集の作成

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しません。 参考文献については、個別に紹介します。
	学びの手立て ① 特別の場合を除いて、藤波担当の演習Ｉの単位を修得済みの者が履修できます。 ② 卒論テーマに応じた史料の収集を自ら積極的におこなうこと。 ③ 史料の精読は地道で時間のかかる作業なので、早めに取り組むこと。 ④ 報告が中心となるので、準備をきちんと整えた上でゼミに参加すること。 ⑤ 対面授業を基本としますが、状況に応じてteams等を利用した遠隔授業となる場合があります。
	評価 到達目標（１）の評価：卒論中間報告の内容（20%） 到達目標（２）の評価：史料内容に関する２回の報告（20%） 到達目標（３）の評価：卒論最終報告の内容（20%） 到達目標（４）の評価：ゼミでの発言内容（10%） 到達目標（５）の評価：卒業論文の提出（30%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文作成を目指すこのゼミは、社会文化学科での４年間の学びの最終段階です。ゼミにしっかり取り組んだことを自信として、社会に羽ばたいてください。

※ポリシーとの関連性　専門的な学びの集大成として論文作成に取り組む。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅱ	通年	木１	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	秋山　道宏	４年	オフィスアワーおよび学内メール等で随時対応する。	

学びの準備

ねらい

各自が選択したテーマに沿って考察と調査を進め、その成果を卒業論文としてまとめることができるように、継続的に作業を進める。そのために必要とされる研究方法の修得・資料の収集・調査の実践について、ゼミの場で報告・議論しながら進めていく。

メッセージ

学部4年間の集大成として、自身の設定したテーマにこだわり、大いに知的好奇心を発揮して論文の完成まで取り組んでほしい。

到達目標

卒業論文を作成するために必要とされる情報収集を自分自身の判断に基づいて行い、その成果を論文としてまとめ上げる思考力を身に着ける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	課題とスケジュールの確認	配布資料の精読
2	卒論テーマ案の報告とディスカッション①	報告の準備
3	卒論テーマ案の報告とディスカッション②	報告の準備
4	卒論テーマ案の報告とディスカッション③	報告の準備
5	卒論テーマに関する文献調査の報告①	文献調査と報告の準備
6	卒論テーマに関する文献調査の報告②	文献調査と報告の準備
7	卒論テーマに関する文献調査の報告③	文献調査と報告の準備
8	卒論テーマに関する調査内容の報告とディスカッション①	文献調査と報告の準備
9	卒論テーマに関する調査内容の報告とディスカッション②	文献調査と報告の準備
10	卒論テーマに関する調査内容の報告とディスカッション③	文献調査と報告の準備
11	卒論テーマに関する調査内容の報告とディスカッション④	文献調査と報告の準備
12	卒論テーマに関する調査計画の報告とディスカッション①	調査計画の検討と報告の準備
13	卒論テーマに関する調査計画の報告とディスカッション②	調査計画の検討と報告の準備
14	卒論テーマに関する調査計画の報告とディスカッション③	調査計画の検討と報告の準備
15	卒論テーマに関する調査計画の報告とディスカッション④	調査計画の検討と報告の準備
16	後期のスケジュール確認と夏季休暇中の調査内容の概要報告	夏季休暇中の調査内容のまとめ
17	夏季休暇中の調査内容についてのディスカッション①	夏季休暇中の調査内容のまとめ
18	夏季休暇中の調査内容についてのディスカッション②	夏季休暇中の調査内容のまとめ
19	夏季休暇中の調査内容についてのディスカッション③	夏季休暇中の調査内容のまとめ
20	夏季休暇中の調査内容についてのディスカッション④	夏季休暇中の調査内容のまとめ
21	卒論の構成案の報告とディスカッション①	卒論の構成案の作成と報告の準備
22	卒論の構成案の報告とディスカッション②	卒論の構成案の作成と報告の準備
23	卒論の構成案の報告とディスカッション③	卒論の構成案の作成と報告の準備
24	卒論の執筆状況についての進捗報告とディスカッション①	報告の準備
25	卒論の執筆状況についての進捗報告とディスカッション②	報告の準備
26	卒論の執筆状況についての進捗報告とディスカッション③	報告の準備
27	卒論の執筆状況についての進捗報告とディスカッション④および卒論提出に向けた課題確認	報告の準備
28	卒論概要の報告①	報告の準備
29	卒論概要の報告②	報告の準備
30	卒論概要の報告③	報告の準備
31		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 指定しない（各自で積極的に資料・文献を集めること）。
	学びの手立て 関連する文献や資料を主体的に調査・収集しながら卒論の方向性を定めていく作業が最も重要である。
	評価 参加姿勢30%、卒論作成の取り組みと報告内容70%

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習Ⅱを通した卒業論文作成は4年間の学びの集大成です。 どのような進路に進むとしても、ここでの学びは生きてくると思います。 ぜひ、新たな場で生かしいってください。

※ポリシーとの関連性　沖縄の社会・文化を自らのフィールドワーク通じて明らかにし、それをより広い視野の中に位置づけて理解することが求められる。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅱ	通年	木１	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣　直	４年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本演習の目的は、領域演習（2年生）と演習Ⅰ＆実習（3年生）で学んできた成果を踏まえ、各ゼミ生自らが設定する研究テーマにそって、文献収集・研究、調査計画の策定、実地調査、調査・研究成果の整理・分析をへて、卒業論文を作成することにある。夏休みなどを利用して各自で現地調査を実施し、後期には調査・研究成果の発表・議論をへて卒業論文の作成・編集を目指す。

メッセージ

本学科の核心は、「沖縄」の社会・文化を幅広く理解することにあり、フィールドワークを踏まえて作成される卒業論文は、その集大成である。ぜひ、沖縄の社会・文化をミクロな視点で学ぶ姿勢とともに、他地域との比較を通じて鳥瞰的かつマクロな視点から「沖縄」を理解する視座を身に着けてほしい。

到達目標

沖縄に関する個別の主題をフィールドワークを通じて明らかにし、それをより広い視野の中に位置づけて理解することが出来る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	卒論を構想し、文献を探す。
2	テーマ・構想設定（１）	卒論のテーマ・構想を考える。
3	テーマ・構想設定（２）	卒論のテーマ・構想を考える。
4	学術論文作法（１）	論文作成の作法を理解する。
5	学術論文作法（２）	論文作成の作法を理解する。
6	文献研究（１）	関連文献を要約し発表する。
7	文献研究（２）	関連文献を要約し発表する。
8	文献研究（３）	関連文献を要約し発表する。
9	文献研究（４）	関連文献を要約し発表する。
10	文献研究（５）	関連文献を要約し発表する。
11	文献研究（６）	関連文献を要約し発表する。
12	調査計画、質問事項等の作成（１）	研究計画＆質問事項を考える。
13	調査計画、質問事項等の作成（２）	研究計画＆質問事項を考える。
14	調査計画、質問事項等の作成（３）	研究計画＆質問事項を考える。
15	前期のまとめ	前期の内容を振り返る。
16	（予備日）	
17	ガイダンス	調査成果をまとめる。
18	調査成果発表と質疑応答（１）	調査成果の発表準備をする。
19	調査成果発表と質疑応答（２）	調査成果の発表準備をする。
20	調査成果発表と質疑応答（３）	調査成果の発表準備をする。
21	調査成果発表と質疑応答（４）	調査成果の発表準備をする。
22	中間発表会（１）	中間発表会の準備をする。
23	中間発表会（２）	中間発表会の準備をする。
24	論文作成・指導（１）	卒論を執筆する。
25	論文作成・指導（２）	卒論を執筆する。
26	卒業論文仮提出	卒論草稿を作成する。
27	論文作成・指導（３）	卒論を執筆・推敲する。
28	論文作成・指導（４）	卒論を執筆・推敲する。
29	論文作成・指導（５）	卒論を執筆・推敲する。
30	論文作成・指導（６）	卒論を執筆・推敲する。
31	卒業論文発表会	卒論発表の準備をする。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 演習のなかで適宜紹介。
	学びの手立て 日本の他府県はもちろんのこと、周辺アジア地域の情報に関心をもち、常に沖縄を内側と外側という視点から考える習慣をつけよう。それを繰り返すことが「沖縄の再発見」につながるはずである。多様な情報をゲットするために欠かせないのが語学能力である（e.g. 英語、中国語、韓国語、etc.）
	評価 出席・授業への参加姿勢＝平常点（40%）、調査成果・論文評価（60%）。 卒業論文の内容はもとより、演習への参加姿勢を重視して総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業後、どの分野に進むにしても、①テーマを設定し、②それに関連する情報を調べ、③実際に現場を取材・理解し、④その成果をまとめて発表し、⑤他者に説明・説得するするという作業を重要である。その意味で、本ゼミで学んだ知識や経験は、必ずやあなたが社会に出たときに活きてくるはずである。

※ポリシーとの関連性　南島を中心としながらも周辺地域に目配りした専門領域の研究思考
・研究法を深く学ぶ。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅱ	通年	水１	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新里　貴之	４年	t.shinzato@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

１）自ら選択したテーマで専門領域論文を執筆することができる。
２）遺跡調査報告書編集作成で代替することも可。

メッセージ

いよいよ研究領域に足を踏み入れます。関心のあるひとつのテーマに向かって調査・研究し，論理的に文化復元を行う，大学生活の集大成です。

到達目標

１）専門領域論文を作成することができる。
２）あるいは自ら計画し編集した遺跡調査報告書を作成することができる。
３）南島文化を論理的に復元できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス（卒論テーマ設定，計画書など）	シラバス・配布資料精読
2	卒論テーマ案と計画書の提出，修正　1	随時学会・研究会への積極的参加。
3	卒論テーマ案と計画書の提出，修正　2	随時学会・研究会への積極的参加。
4	卒論テーマ案と計画書の提出，修正　3	随時学会・研究会への積極的参加。
5	進捗状況報告　1	随時学会・研究会への積極的参加。
6	進捗状況報告　2	随時学会・研究会への積極的参加。
7	進捗状況報告　3	随時学会・研究会への積極的参加。
8	進捗状況報告　4	随時学会・研究会への積極的参加。
9	進捗状況報告　5	随時学会・研究会への積極的参加。
10	進捗状況報告　6	随時学会・研究会への積極的参加。
11	進捗状況報告　7	随時学会・研究会への積極的参加。
12	進捗状況報告　8	随時学会・研究会への積極的参加。
13	進捗状況報告　9	随時学会・研究会への積極的参加。
14	進捗状況報告　１０	随時学会・研究会への積極的参加。
15	夏季休暇中の計画書作成，提出	随時学会・研究会への積極的参加。
16	中間報告　1	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
17	中間報告　2	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
18	中間報告　3	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
19	中間報告　4	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
20	論文作成指導　1	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
21	論文作成指導　2	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
22	論文作成指導　3	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
23	論文作成指導　4	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
24	論文作成指導　5	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
25	論文作成指導　6	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
26	論文作成指導　7	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
27	論文作成指導　8	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
28	論文作成指導　9	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
29	論文作成指導　１０	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
30	論文最終確認	随時遺跡・遺物の資料調査を行う。
31	卒論発表会	日程未定

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など １）テキスト：なし。 ２）参考文献：各自のテーマに沿った書籍を推薦する。
	学びの手立て ①「履修の心構え」 出欠確認については，毎回厳格に実施する（遅刻・欠席は事前の[直前ではない]連絡が必要）。 ②「学びを深めるために」 人文科学系の論文の書き方に関する図書を読む。 実際にモノをみることが基本的姿勢。 情報を得るために各研究機関，調査機関に足を運ぶこと。
	評価 課題（80%）と受講態度（20%）を加えて総合的に成績評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：卒業論文をもとに追補して，研究雑誌などに積極的に投稿して欲しい。

※ポリシーとの関連性　専門分野における調査・研究能力を育成し、卒業論文作成を目的とする演習科目に当たります。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅱ	通年	水１	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤　秋人	４年	水曜日２限のオフィスアワーに研究室（５４２２）で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

本演習のねらいは、大学生活の集大成である卒業論文を、先行研究の引用史料と指摘を丁寧に踏まえ、史料を適切・効果的に用いたうえで説得力のある論点を提示できるよう指導するところにあります。前期では主に関連史料の読解と解釈、後期では卒業論文での指摘と論点について報告してもらいます。

メッセージ

卒業論文のテーマに関わる報告がある学内外の研究会やシンポジウムに積極的に参加してください。アンテナの感度を高めておけば、報告や議論からヒントをつかめることもありますよ。

到達目標

先行研究の指摘を丁寧に踏まえ、史料を適切・効果的に用いた説得力のある卒業論文を作成できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション、前期の授業計画と報告日程の確認、『回顧と展望』の紹介	到達目標を理解する
2	卒業論文準備報告１）のレジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
3	卒業論文の課題に関する報告①	報告の準備をする
4	卒業論文の課題に関する報告②	報告の準備をする
5	卒業論文準備報告１）と質疑応答―先行研究における引用史料の読解と解釈―①	史料と報告の準備をする
6	同上②	史料と報告の準備をする
7	同上③	史料と報告の準備をする
8	卒業論文準備報告２）のレジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
9	論文の構成について―序論・本論・結論の関係―	論文の構成を再確認する
10	卒業論文準備報告２）と質疑応答―先行研究における指摘の再検討―①	史料と報告の準備をする
11	同上②	史料と報告の準備をする
12	同上③	史料と報告の準備をする
13	タイトルと章立てについて	章立てを考え始める
14	前期のまとめ	進捗状況と問題点を再確認する
15	後期報告日程の確認、卒業論文タイトル（仮）の提出	納得できるタイトルを考える
16	後期の授業計画と卒業論文準備報告３）のレジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
17	章立て案の発表	メンバーの章立てを参考にする
18	論文の構造について―論点と課題の関係―	論文の構造を再確認する
19	卒業論文準備報告３）と質疑応答―史料に基づく指摘―①	史料と報告の準備をする
20	同上②	史料と報告の準備をする
21	同上③	史料と報告の準備をする
22	同上④	史料と報告の準備をする
23	卒業論文の様式と書式の説明	卒業論文の様式と書式を理解する
24	卒業論文準備報告４）のレジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
25	卒業論文準備報告４）と質疑応答―論点の提示と課題の再設定―①	報告の準備と卒業論文を執筆する
26	同上②	報告の準備と卒業論文を執筆する
27	同上③	報告の準備と卒業論文を執筆する
28	同上④	報告の準備と卒業論文を執筆する
29	卒業論文提出に向けた最終確認―課題と結論の整合性―	卒業論文を執筆する
30	後期のまとめ	卒業論文の構成を再確認する
31	卒業論文発表会と『卒業論文集』刊行に向けて	卒論発表会での報告の準備をする

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】教科書は使用しません。参考資料は必要に応じて配布します。 【参考文献】各自のテーマに関する参考文献の紹介は個別に紹介します。
	学びの手立て ・先行研究と関連史料の把握に寸暇を惜しまず励んでください。 ・「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」をまだ履修していなければ半期でも受講してください。 ・卒業論文への取り組みだけでなく、卒論発表会での報告および『卒業論文集』の刊行までが「演習Ⅱ」だと心得てください。
	評価 卒業論文準備報告および質疑応答に取り組む姿勢（６０％）と報告レジュメの内容および完成度（４０％）によって総合的に評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目 「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」および「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」の受講を求めます。

※ポリシーとの関連性　南島地域に関する基本的な知識の習得と、沖縄近現代史に関係する学問体系の基本の理解　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	沖縄近現代史Ⅰ	前期	土１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-川島　淳	２年	①授業後に質問するか、②メール（ptt1215@okiu.ac.jp）で連絡する。	

学びの準備

ねらい

現在の沖縄の政治社会がいかなる歴史的変化を経て形成されたのかとの問題設定から、世界やアジア、日本の動向を射程に入れつつ「琉球併合」から沖縄戦・米軍統治・「日本復帰」を経て現在に至るまでの時期を区分し、各時期の特質に出来事・事件・事象の概要を位置づける。そして沖縄近現代史に通底する権力構造・差別構造など、多種多様な構造的問題を関連づけて現代社会の理解を深める。

メッセージ

沖縄近現代史研究における近年の諸潮流や研究動向、多種多様な史資料（文書資料・民俗資料・考古資料・証言資料など）を紹介する。また、現在を生きる受講生は、多様なアイデンティティに触れる機会になるかもしれない。このような多様性を理解しつつ、沖縄近現代史の出来事・事件・事象を学ぶことで、社会に貢献するにあたって自身の主義・主張・人生観を形成する一助にしてほしい。

到達目標

①沖縄近現代史に関する基礎的知識・理解を深め、固定観念や偏見にとらわれずに、沖縄近現代史における出来事・事件・事象を分析するための問題意識・分析視角をもつことをできるようにする。
②沖縄近現代史は、現代社会を生きる我々にとっても無縁な歴史では決してない。現在の沖縄社会の形成過程についての理解を深めつつ、未来の理想像を思い描きながら、現実的な社会生活において歴史の知識を知恵に昇華できるようにする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション_本授業のねらいと全体像の説明・各専攻領域と沖縄近現代史	シラバス・参考文献①②目次の精読
2	沖縄近現代史の概観①－アプローチの方法：歴史認識と歴史修正主義、歴史否定論	第01週に配布のプリントを参照
3	沖縄近現代史の概観②－時期区分論と各時期の特質	第02週に配布のプリントを参照
4	「琉球処分」－琉球王国（藩）・清国政府・明治政府の関係	第03週に配布のプリントを参照
5	日清戦争前における沖縄の政治社会の変容－「旧慣温存」と琉球救国運動	第04週に配布のプリントを参照
6	日清戦争後における沖縄の政治社会の変容－「ヤマト化」の受容と反抗	第05週に配布のプリントを参照
7	大正期・昭和戦前期における沖縄の政治社会の変容	第06週に配布のプリントを参照
8	「帝国」日本における人口移動 -沖縄からの移民・出稼ぎを中心に	第07週に配布のプリントを参照
9	戦時体制下の沖縄－ジェンダー・少国民の動向	第08週に配布のプリントを参照
10	沖縄戦―地域住民の視点からのアプローチ	第09週に配布のプリントを参照
11	冷戦構造と沖縄戦後史－アジア諸地域との関連を視野に入れて	第10週に配布のプリントを参照
12	敗戦後の政治社会―琉球政府の設置まで	第11週に配布のプリントを参照
13	沖縄の基地建設－銃剣とブルドーザー・「島ぐるみ」土地闘争	第12週に配布のプリントを参照
14	「復帰」前後における政治社会の動向	第13週に配布のプリントを参照
15	「日本復帰」とその後	第14週に配布のプリントを参照
16	期末試験ないしはレポート	プリントを基に半期間の総復習

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】パワーポイントで作成し、そのプリントを毎回配布します。
【主な参考文献】
①『沖縄県史 各論編』第5～9巻、沖縄県教育委員会、2011年～2022年
②金城正篤・上原兼善・秋山勝・仲地哲夫・大城将保『沖縄県の百年』山川出版社、2005年
③宮城弘樹・野添文彬・秋山道宏・深澤秋人編『大学でまなぶ 沖縄の歴史』吉川弘文館、2023年
④その他、随時紹介する。

学びの手立て

①「履修の心構え」
・自主性と積極性が必要である。適宜、講義の要点をまとめた小テストあるいは小レポートを課すこともある。
・私語は厳禁である。欠席の場合には事前に「欠席届」を提出する。
・やむをえざる事情により遅刻・退出・欠席の場合にはその理由を申し出る。
②「学びを深めるために」
・講義で使用した配布資料などを見直して、沖縄近現代史における各時期の特質などを理解する。
・各週の講義で紹介する参考文献や参考資料などを講読して、自らの問題意識を深め、知識の習得を図る。

評価

到達目標との関連で以下のように判定する。
①沖縄近現代史に関する基礎的知識の習得：期末試験ないしは期末レポート60%
②沖縄近現代史に関する理解力・思考力などの度合い：レポート30%
③授業内容の理解度：平常点・小テストないしは小レポート10%

学びの継続

次のステージ・関連科目

（１）関連科目：琉球・沖縄史を専攻する学生は「沖縄近現代史Ⅱ」・「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」・「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」など。沖縄近現代史の理解を深めるには「沖縄平和学」・「南島社会学」・「平和運動史」など。
（２）次のステージ：日常生活のなかに潜む多様な権力構造・差別構造を意識し、問題解決や社会貢献の方法と理想像を描きつづけてほしい。また学習成果を3年次以降の演習や卒業論文、社会的活動に反映させてほしい。

※ポリシーとの関連性　南島地域に関する基本的な知識の習得、沖縄近現代史に関係する学問体系・個別テーマの基本的理解　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 沖縄近現代史Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	土１	2
担当者 -川島　淳	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	①授業後に質問するか、②メール（ptt1215@okiu.ac.jp）で連絡する。	

学びの準備

ねらい

本講義では、沖縄近現代史Ⅰで学んだ通史的理解の復習と応用を兼ねて、沖縄近現代史にまつわる公文書・私文書・個人文書・家文書をはじめ、証言、口碑伝承、写真、映像、モノ、用具、景観、遺跡・遺構・遺物など、基本的な史資料の特性を中心に解説する。その際に、史資料に関する先行研究を紹介するとともに、史資料群の特性を明確にしながら歴史像を構築する方法について習得する。

メッセージ

現在を生きる受講生は、多様なアイデンティティに触れる機会になるかもしれない。このような社会の多様性を理解しつつ、沖縄近現代史における出来事・事件・事象の特質と、その痕跡となる史資料の特性などについて学ぶ。文字資料・非文字資料を問わず、史資料の精査・分析を通して、情報分析力を高めつつ、社会貢献にあたっての自分自身の主義・主張・人生観を形成する一助にしてほしい。

到達目標

①沖縄近現代史に関する歴史認識を深めるために多種多様な史資料に向き合い、その特性に関する基礎的知識を習得する。その際に、固定観念や偏見にとらわれずに、多種多様な史資料を精査・分析し、それらを関連づけて歴史像などを構築できるようにする。
②沖縄近現代史は、現代社会を生きる我々にとっても無縁な「歴史」では決してない。現在の沖縄社会の形成過程についての理解を深めつつ、未来の理想像を思い描きながら、現実的な社会生活において、自らが習得した知識を知恵に昇華できるようにする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション_本授業のねらいと全体像の説明	シラバスを事前に読んでくること
2	沖縄近現代史と史資料学①_史資料学と沖縄関係資料保存機関・自治体史・字誌	第01週に配布のプリントを参照
3	沖縄近現代史と史資料学②_史資料学とアーカイブズ学など	第02週に配布のプリントを参照
4	琉球併合と明治期沖縄県政①_明治政府の政策過程における公文書と家文書・個人文書	第03週に配布のプリントを参照
5	琉球併合と明治期沖縄県政②_首里王府の政策過程における家文書と刊本資料	第04週に配布のプリントを参照
6	琉球併合と明治期沖縄県政③_「旧慣」制度改革における家文書・個人文書	第05週に配布のプリントを参照
7	近代日本の植民地と沖縄_人口移動に関する新聞資料と証言資料	第06週に配布のプリントを参照
8	山原（やんばる）の近現代史と祭祀の歴史的変遷_文書資料・モノ資料・口碑伝承資料・映像資料	第07週に配布のプリントを参照
9	戦時体制下の沖縄_図像資料・証言資料・文書資料・映像資料	第08週に配布のプリントを参照
10	沖縄戦_図像資料・証言資料・文書資料・映像資料・遺跡・遺構・遺物	第09週に配布のプリントを参照
11	沖縄近現代女性史_新聞資料と証言資料	第10週に配布のプリントを参照
12	沖縄現代史①_政策過程をめぐる公文書・団体文書・個人文書・口述資料・美術資料	第11週に配布のプリントを参照
13	沖縄現代史②_米軍基地をめぐる文書資料・写真資料・音声資料	第12週に配布のプリントを参照
14	沖縄現代史③_沖縄・日本・アメリカの関係に関する公文書・個人文書・回顧録など	第13週に配布のプリントを参照
15	沖縄近現代史の史資料論のまとめ	第14週に配布のプリントを参照
16	期末テストないしはレポート	プリントを基に半期間の総復習

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】沖縄近現代史に関する主要テーマと、それに関する史資料に関する配付プリント
【参考文献】講義において、その都度、テーマ・事件に関する参考文献と史資料を紹介する。

学びの手立て

①「履修の心構え」
・自主性と積極性が必要である。講義の要点をまとめた小テストあるいは小レポートを課すこともある。
・私語は厳禁である。欠席の場合には事前に「欠席届」を提出する。
・やむをえざる事情により遅刻・退出・欠席の場合にはその理由を申し出る。
②「学びを深めるために」
・講義で使用した配布資料と、参考文献や参考資料に目を通して自らの問題意識を深める。
・史資料の特性について理解を深め、情報の分析力と歴史的思考の習得を図る。

評価

到達目標との関連で以下のように判定する。
①沖縄近現代史に関する基礎的知識の習得：期末試験ないしは期末レポート60%
②沖縄近現代史に関する理解力・思考力などの度合い：レポート30%
③授業内容の理解度：平常点・小テストないしは小レポート10%

学びの継続

次のステージ・関連科目

（１）関連科目：琉球・沖縄史を専攻する学生は「沖縄近現代史Ⅰ」・「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」・「古文書講読」など。沖縄近現代史の理解を深めるには「沖縄平和学」・「南島社会学」・「平和運動史」など。
（２）次のステージ：日常生活のなかに潜む多様な権力構造・差別構造を意識し、問題解決や社会貢献の方法と理想像を描きつづけてほしい。また学習成果を3年次以降の演習や卒業論文、社会的活動に反映させてほしい。

※ポリシーとの関連性　南島地域に関する基本的な知識を習得するための導入科目

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 沖縄社会入門	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金２	2
担当者 崎濱　佳代、秋山　道宏、月野　楓子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

この講義は、今日の沖縄社会が直面している様々な課題に目を向けて、その背景にある構造的な問題について考えていくことをテーマとする。講義の目的は、権力作用によって把握しにくくなっている、沖縄の様々な社会現象と問題群、その現代的課題を理解することにある。

メッセージ

沖縄社会に関する知的関心が不可欠な講義である。

到達目標

沖縄社会にかかわる問題について学術的に思考する方法を具体的に理解し、そこから多様なテーマについて考察するための手がかりを引き出すことができるようにする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスおよび入学前課題の確認
2	沖縄イメージとアイデンティティ	入学前課題についての復習
3	沖縄の家族・地域・社会関係	授業内で指示する
4	沖縄の開発・発展	授業内で指示する
5	レポート提出	授業内で指示する
6	沖縄社会と平和を捉える視点（平和学と沖縄）	授業内で指示する
7	沖縄社会の「戦後」を考える①米軍基地の成り立ちと地域社会（沖縄戦から占領へ）	授業内で指示する
8	沖縄社会の「戦後」を考える②日本復帰（沖縄返還）と沖縄アイデンティティ	授業内で指示する
9	沖縄社会の現在①戦争体験（沖縄戦体験）の現在	授業内で指示する
10	沖縄社会の現在②現代の米軍基地と戦争、まとめとレポート提出	授業内で指示する
11	「世界のウチナーンチュ」とは？	授業内で指示する
12	沖縄と移民	授業内で指示する
13	ラテンアメリカの中の沖縄	授業内で指示する
14	沖縄移民と沖縄文化	授業内で指示する
15	まとめ、レポート提出	授業内で指示する
16		授業内で指示する

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。各回の講義で必要に応じて資料を配付する。参考文献についても各回の講義にて提示する。

学びの手立て

新聞等を通して、日々の出来事やそこに含まれている問題を発見しようと意識することが重要である。

評価

各担当者から課される小レポートの評価の合計（60%）および参加態度（40%）で評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

１年次後期の基礎科目（学科必修科目）である社会学概論と平和学概論につながる。

※ポリシーとの関連性　寄付講座

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	沖縄ジャーナリズム論	後期	金３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	沖縄ジャーナリズム論教員	１年	初回にアナウンスを行う。質問については各回の授業後に受け付ける。	

学びの準備

ねらい

沖縄の現在社会を知る上で必須の時事問題を中心に、沖縄ジャーナリズムの歩み、米軍基地問題、沖縄戦などを現役のデスク、記者、論説委員が解説する。報道を通して、ニュースの読み方、現代沖縄の問題を多様な視点から考える姿勢を学ぶ。

メッセージ

沖縄タイムスの一線で活躍する記者、日々の紙面づくりに取り組むデスクが、米軍基地問題から社会福祉まで幅広い視点で現代沖縄を解説します。ニュース一般の読み解き方も紹介します。

到達目標

報道の現場の一線で活躍する記者の解説を通して、現代沖縄の社会を知るため、ニュースがつくりだされる過程から、その情報の読み解き方までを学ぶ。多様な視点から考える態度を習得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義内容紹介と登録(吉田央)	新聞を毎日読むこと
2	知事選取材を振り返る（山城響）	新聞を毎日読むこと
3	沖縄県知事の役割（大野亨恭）	新聞を毎日読むこと
4	沖縄経済の現状と展望（石川亮太）	新聞を毎日読むこと
5	事件から見つめた沖縄社会（比嘉太一）	新聞を毎日読むこと
6	地域報道の醍醐味（伊集竜太郎）	新聞を毎日読むこと
7	沖縄ヘイトと向き合う（阿部岳）	新聞を毎日読むこと
8	戦争体験をつなぐ（當銘悠）	新聞を毎日読むこと
9	学びはだれのもの一校則問題から考える（鈴木実）	新聞を毎日読むこと
10	シャッターチャンスを逃さない（下地広也）	新聞を毎日読むこと
11	社説から読み解く沖縄社会（森田美奈子）	新聞を毎日読むこと
12	NIEで学ぶ新聞の読み方（高崎園子）	新聞を毎日読むこと
13	復帰50年を考えた（福元大輔）	新聞を毎日読むこと
14	心をつかむ整理術（大門雅子）	新聞を毎日読むこと
15	女性記者として（黒島美奈子）	新聞を毎日読むこと
16		

テキスト・参考文献・資料など

適宜レジュメを配布する

学びの手立て

講義では時事問題に毎回言及します。そのため事前の１週間の新聞を読んで講義に参加することが求められます。ネットニュースの形ではなく、紙の新聞を１面から社会面までを通して読む習慣を身につけて下さい。朝刊には新書１冊分の活字が記載されています。その中から必要なニュースを自在に読むことが出来る力を身につけることは、社会人としても必要なスキルです。特に地域紙は地域の話題に密着し、政治、経済、社会と学生のみなさんが住んでいる地域の視点からニュースを発信します。地域紙と全国紙を読むことを、大学生のころから心掛けてほしいと思います。

評価

参加態度50%　論文50%

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会・平和領域の選択科目

※ポリシーとの関連性　専門分野における個別テーマについて深く学ぶ発展科目に当たる。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 沖縄前近代史Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火４	2
担当者 深澤　秋人	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	教室のほかオフィスアワーに受け付けます。 時間帯とメールアドレスは履修ガイド参照。	

学びの準備

ねらい

琉球・沖縄の前近代史は先史時代、古琉球、近世琉球に区分されています。古琉球では琉球王国が成立する一方、近世琉球では薩摩藩による支配が固定され、最終的には明治政府による琉球併合で終焉を迎えます。本講義では、日本史および琉球史研究の論点を踏まえ、それぞれの時期の日本との関係を意識しながら、琉球の国家のありかたを考えます。

メッセージ

本学図書館郷土資料室には『沖縄県史』や県内の市町村史が並んでいます。県内の博物館では、常設展のほかにも琉球・沖縄の前近代史に関わる企画展が開催されることもあります。学内外の図書館でレジュメの参考文献もめくってみること、博物館に足を運んでモノに接することをおすすめします。

到達目標

・先史時代から近世琉球にわたるそれぞれの時期の琉球と日本の関係を理解できるようになる。
・古琉球と近世琉球における国家のありかたを理解できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション、沖縄前近代史Ⅰを始める前に	到達目標を理解する
2	琉球・沖縄の前近代史と向き合う前に	レジュメの参考文献にあたる
3	律令国家と南島―奈良時代の南の「境界」―	レジュメの参考文献にあたる
4	平安時代の南の「境界」―八郎の真人・キカイガシマ・落ち武者伝説―	レジュメの参考文献にあたる
5	琉球の国家形成―グスク時代の沖縄島―	レジュメの参考文献にあたる
6	第一尚氏政権と足利政権―室町時代の南の「境界」―	レジュメの参考文献にあたる
7	第二尚氏政権と豊臣政権―尚寧の冊封と朝鮮出兵―	レジュメの参考文献にあたる
8	島津氏の琉球侵攻―歴史の変動期のなかで―	レジュメの参考文献にあたる
9	講義の折り返し地点を過ぎて	到達目標を確認する
10	徳川政権と琉球王国―「鎖国」と琉球王権―	レジュメの参考文献にあたる
11	近世琉球の国家と社会―琉球支配と乾隆検地―	レジュメの参考文献にあたる
12	琉球王国とアジアの近代―国家財政と琉球社会―	レジュメの参考文献にあたる
13	明治政府による琉球併合―東アジアのなかの「琉球処分」―	レジュメの参考文献にあたる
14	沖縄前近代史Ⅰをまとめる前に	到達目標を再確認する
15	まとめ	関心を持ったテーマを設定する
16	期末試験（レポート形式の場合あり）	到達目標を意識して準備する

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】教科書は使用しません。毎回レジュメと図表などの参考資料を配布します。
【参考文献】
・『沖縄県史』各論編第３巻 古琉球（沖縄県教育委員会、２０１０年）
・『沖縄県史』各論編第４巻 近世（沖縄県教育委員会、２００５年）
・荒野泰典ほか「時期区分論」（『アジアのなかの日本史 Ⅰ アジアと日本』東京大学出版会、１９９２年）
・桃木至朗編『海域アジア史研究入門』（岩波書店、２００８年）

学びの手立て

・授業計画に示した各回のテーマのなかで、関心を持ったもの、関心を持てそうなものを事前にいくつかピックアップしておくことをおすすめします。

評価

期末試験もしくはレポート（８０％）、授業参加度（２０％）によって総合的に評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

できれば「沖縄前近代史Ⅱ」も受講してくれることを希望します。

※ポリシーとの関連性　専門分野における個別テーマについて深く学ぶ発展科目に当たる。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 沖縄前近代史Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火４	2
担当者 深澤　秋人	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	教室のほかオフィスアワーに受け付けます。 時間帯とメールアドレスは履修ガイド参照。	

学びの準備

ねらい

琉球王国にとって重要な港であった那覇港は、琉球史をはじめアジアの歴史の変動がいち早く反映する場でした。本講義では、１５世紀前半から１９世紀後半にいたる那覇港の変遷、時期ごとの特徴を中国船と日本船に注目して考えます。また、琉球の政権や王権だけではなく、近世の琉球社会にとっての対外関係史を考えます。

メッセージ

本学図書館郷土資料室には『沖縄県史』や県内の市町村史が並んでいます。県内の博物館では、常設展のほかにも琉球・沖縄の前近代史に関わる企画展が開催されることもあります。学内外の図書館でレジュメの参考文献をめくってみること、博物館に足を運んでモノに接することをおすすめします。

到達目標

・那覇港の変遷および時期ごとの特徴を理解できるようになる。
・近世の琉球社会にとって対外関係史が持つ意味を理解できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション、沖縄前近代史Ⅱを始める前に	到達目標を理解する
2	「琉球貿易図屏風」（滋賀大学経済学部附属史料館蔵）を歩く	レジュメの参考文献にあたる
3	「大交易時代」の那覇港―中国船と日本船―	レジュメの参考文献にあたる
4	１６世紀末の那覇港―那覇の日本人町―	レジュメの参考文献にあたる
5	「鎖国」と那覇港―１７世紀前半の状況―	レジュメの参考文献にあたる
6	琉球史のなかの久米村―チャイナタウンから諮問機関へ―	レジュメの参考文献にあたる
7	講義の折り返し地点で	到達目標を確認する
8	琉球社会と対外関係史①―黒砂糖・貿易銀・海産物・中国商品―	レジュメの参考文献にあたる
9	琉球社会と対外関係史②―久米島の場合―	レジュメの参考文献にあたる
10	琉球社会と対外関係史③―宜野湾間切我如古村の場合―	レジュメの参考文献にあたる
11	琉球社会と対外関係史④―那覇港を抱えた地域の場合―	レジュメの参考文献にあたる
12	異国船の琉球来航―１８４０～５０年代の那覇―	レジュメの参考文献にあたる
13	琉球王国最末期の那覇港―１８７０年代の状況―	レジュメの参考文献にあたる
14	沖縄前近代史Ⅱをまとめる前に	到達目標を再確認する
15	まとめ	関心を持ったテーマを設定する
16	期末試験（レポート形式の場合あり）	到達目標を意識して準備する

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】教科書は使用しません。毎回レジュメと図表などの参考資料を配布します。
【参考文献】
・『沖縄県史』各論編第３巻 古琉球（沖縄県教育委員会、２０１０年）
・『沖縄県史』各論編第４巻 近世（沖縄県教育委員会、２００５年）
・豊見山和行編『日本の時代史１８ 琉球・沖縄史の世界』（吉川弘文館、２００３年）
・桃木至朗編『海域アジア史研究入門』（岩波書店、２００８年）

学びの手立て

授業計画に示した各回のテーマのなかで、関心を持ったもの、関心を持てそうなものを事前にいくつかピックアップしておくことをおすすめします。

評価

期末試験もしくはレポート（８０％）、授業参加度（２０％）によって総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

できれば「沖縄前近代史Ⅰ」も受講してくれることを希望します。

※ポリシーとの関連性　社会文化学科の導入科目にあたる。以降の学びに向け、基礎となる知識を幅広く身につけることが目的である。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 沖縄文化入門	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水２	2
担当者 阿利　よし乃、石垣　直	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	①講義終了後に教室で ②E-mail：y.ari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義の主眼は、沖縄の民俗文化に関する基礎的な理解を深めることにあります。具体的には、地理・歴史、生業、衣・食・住、村落、家族・親族、誕生・成長儀礼、婚姻、祖先祭祀、祭り・年中行事などの諸トピックを取り上げます。

メッセージ

沖縄文化に関する基本的な知識を身につけるための科目です。講義の前半（第1回～第8回）では民俗学的視点、後半（第9回～15回）では文化人類学的視点から沖縄の文化について考えていきます。それぞれの視点から沖縄の文化を捉えてみましょう。

到達目標

琉球弧の島々で歴史的に作り上げられてきた文化の概要を理解し、空間的（周辺地域との交流）・時間的（文化の歴史的変化）広がりの中で「沖縄文化」を捉える。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	配布資料の精読、課題に取り組む
2	琉球、沖縄－その地理的拡がりと歴史区分、言語の多様性	配布資料の精読、ノート整理
3	農耕と食生活	配布資料の精読、ノート整理
4	海と共に暮らす	配布資料の精読、ノート整理
5	ムラの景観と家の造り	配布資料の精読、ノート整理
6	琉服－衣裳の移り変わり	配布資料の精読、ノート整理
7	やちむん、三線、民具	配布資料の精読、ノート整理
8	沖縄の祭り	中間レポートの提出
9	琉球弧の地理と歴史	沖縄の地理・歴史を調べる
10	親族と人間関係――門中制度の成立と広がり	自家の親族関係を作図する
11	祖先祭祀――「祖先」と「子孫」との関係性	自家の祖先祭祀を調べる
12	年中行事――琉球弧の人々の宗教・世界観	地域の年中行事を調べる
13	女性の霊的優位――オナリ信仰	オナリ神信仰について調べる
14	誕生・成長・結婚・長寿儀礼	親族の成長儀礼を調べる
15	まとめ――「沖縄文化」の歴史・現在と文化人類学的視点	講義内容の全体を復習する
16	（予備日）	

テキスト・参考文献・資料など

テキストの指定はありません。
毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布します。
参考文献については、授業の中で適宜紹介します。

学びの手立て

図書館で文献を読んだり、県内の諸文化関連施設などを実際に訪問することで、マスコミ報道などで取り上げられる「沖縄文化」の情報を掘り下げて学んでみましょう。

評価

2名の担当者が50点満点で評価した結果を合計したものを最終成績とする。
なお、担当者ごとの評価方法と割合は下記の通りとする。
阿利：授業の参加姿勢（10%）、小課題（20%）、レポート（20%）
石垣：平常点（＝授業の参加姿勢　20%）、期末試験（30%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

沖縄の文化だけでなく、歴史や言語、さらには周辺諸地域に対する理解を深めることが望ましい。次の諸科目の履修を勧めたい。e.g. 民俗学概論、文化人類学概論、南島民俗学史Ⅰ・Ⅱ、比較民俗学、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、etc.

※ポリシーとの関連性　社会・平和領域の選択科目

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	沖縄平和学	後期	金３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-鳥山　淳	２年	講義時間終了後に対応する	

学びの準備

ねらい

沖縄で起こってきた出来事を通して、平和に関連する問いの立て方を学び、現在の問題について考える視点を身につける。

メッセージ

もし自分がその状況に身を置いていたらどうしただろうか、という想像力を働かせながら受講してもらいたい。

到達目標

講義で提示したテーマの要点を的確に理解し、そこから得られる視点を現在の問題にあてはめて思考できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス： 講義内容と評価方法についての確認	シラバスとガイダンス内容の確認
2	沖縄戦以前の軍隊と地域①	配布資料の精読
3	沖縄戦以前の軍隊と地域②	配布資料の精読
4	沖縄戦以前の軍隊と地域③	配布資料の精読
5	沖縄戦における軍民関係①	配布資料の精読
6	沖縄戦における軍民関係②	配布資料の精読
7	沖縄戦における軍民関係③	配布資料の精読
8	過去と向き合う取り組み①	新聞等での情報収集
9	過去と向き合う取り組み②	新聞等での情報収集
10	過去と向き合う取り組み③	新聞等での情報収集
11	沖縄から視野を広げる①	配布資料の精読
12	沖縄から視野を広げる②	配布資料の精読
13	沖縄から視野を広げる③	配布資料の精読
14	沖縄から視野を広げる④	配布資料の精読
15	沖縄から視野を広げる⑤	配布資料の精読
16	学期末テスト	

テキスト・参考文献・資料など

特定のテキストは指定しない。参考文献等を講義の中で紹介する。

学びの手立て

新聞等のニュースに積極的に目を向け、現在の問題に関する知識・知見を増やしていくこと。

評価

中間レポート30%　学期末テスト40%　参加姿勢30%

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会・平和領域の関連科目、演習Ⅰ・Ⅱにおける取り組み

※ポリシーとの関連性　「家族」を通して人間・社会・文化を考察していき、複眼的にものをみる知性・感性を養い、問題解決能力をつける。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 家族社会学	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月２	2
担当者 -具志堅　邦子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	ガイダンスで説明します。	

学びの準備

ねらい

①家族とは何かを考え、②どのようにして現在の家族が生成されたのかを考える。家族とは何かという問いは、家族という構造を明らかにすることである。構造を明らかにすることによって、これからの家族と社会の可能性を探る。

メッセージ

家族とは何か、家族するということはどういうことかを考察してみましょう。そのことによって、これからの家族と社会の可能性がみえてきます。

到達目標

近代・国民国家・アディクションなどの視点から家族と社会を読み解くことができるようになる。そのうえで、これからの社会と家族のありようをイメージすることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス、概説	シラバスをよく読んでください
2	日本の社会変動と家族	講義テキストを熟読すること
3	統計から家族を考える	講義テキストを熟読すること
4	家族の構造	講義テキストを熟読すること
5	贈与交換と家族	講義テキストを熟読すること
6	近代家族⑴	講義テキストを熟読すること
7	近代家族⑵	講義テキストを熟読すること
8	近代家族とアディクション	講義テキストを熟読すること
9	『千と千尋の神隠し』を家族社会学する	講義テキストを熟読すること
10	アダルトチルドレンとファリックマザー	講義テキストを熟読すること
11	家族するということ	講義テキストを熟読すること
12	家族とコトバ	講義テキストを熟読すること
13	家族と戸籍	講義テキストを熟読すること
14	位牌と家族	講義テキストを熟読すること
15	階級社会とこれからの家族	講義テキストを熟読すること
16	レポート課題	復習してください

テキスト・参考文献・資料など

講義テキストは毎回webサイト（GLEXA）から送信する。講義に関連する文献は適宜講義内で紹介する。講義の理論となっている主な参考文献は①フィリップ・アリエス『「子供」の誕生』（1980年、みすず書房）　②グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』（2000年、新思索社）

学びの手立て

毎回の受講の積み重ねが力になります。なお、授業計画は学生のコメントの内容から差し替えたり順番が変更する可能性もあります。その場合はポータルの授業連絡でお知らせします。

評価

毎回の講義において課題を与える。課題は指定されたwebサイト（GLEXA）から提出すること。そのことが授業参加度になる。授業参加度（80%）と16回目の課題（20%）を基本として評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

多様な家族のあり方を支援する家族政策・社会政策へ提言できる。そのような活動・研究・臨床の場につながることをのぞむ。

※ポリシーとの関連性　社会文化学科の社会学・平和学領域の選択必修科目。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	環境開発論	前期	水４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉　理麻	２年	r.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、脱-開発の視点に立ち、環境と開発を捉える視点と方法を学びながら、あらためて私たちにとって「環境」とは何か、「開発」とは何かを問うていく。

メッセージ

新しい《わたし》、新しい《生き方》はいかにして可能か、一緒に考えましょう。

到達目標

自らの衣食住にかかわる多種多様な選択がいかに環境の変化に直結しているかを具体的な事例を通して理解できるようになる。
人間社会の外部に環境が在るのではなく、人間社会は否応なく環境の一部である、という新たな社会－環境観を習得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	授業時に指示した文献の講読
2	環境問題と現代社会	授業時に指示した文献の講読
3	私たちの衣食住に直結する環境問題	授業時に指示した文献の講読
4	映像鑑賞	授業時に指示した文献の講読
5	私たちは何を食べてきたのか：現代社会の食の問題	授業時に指示した文献の講読
6	ファスト・フード	授業時に指示した文献の講読
7	食べることの倫理	授業時に指示した文献の講読
8	肉食と飢餓問題	授業時に指示した文献の講読
9	映像鑑賞	授業時に指示した文献の講読
10	私たちの来ている服はどこからくるの？	授業時に指示した文献の講読
11	ファスト・ファッション：安さの代価	授業時に指示した文献の講読
12	世界第２位の衣料品輸出国の労働問題	授業時に指示した文献の講読
13	エシカル・ファッション9つの方法：着ることから始まる倫理のかたち	授業時に指示した文献の講読
14	ファスト・フード／ファスト・ファッション：私たちの社会が抱える問題の構造	授業時に指示した文献の講読
15	総括	総合的な復習
16	期末課題	期末課題のおさらい

テキスト・参考文献・資料など

とくに指定しない。
講義時に随時紹介する。

学びの手立て

環境問題について、身近なニュースに日常的に触れ、自らの問題意識を育む。

評価

原則として、小課題の内容（10%）と期末課題（90%）によって総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

自然環境課題研究Ⅰ、自然環境課題研究Ⅱ

※ポリシーとの関連性　社会文化学科の民俗領域と人類領域の英語専門資料を読み解く技法を身につける必修科目。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名	期 別	曜日・時限	単 位
外国語資料講読演習Ⅰ	前期	火３	2
担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
比嘉　理麻	２年	r.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本演習は、社会文化学科の2年次を対象とした必修科目であり、とくに民俗領域と人類領域の学生を対象としている。本演習では、民俗学・人類学に関する文献の基礎用語を学びながら、英文の読解能力を高めることを目的とする。最終的には、英文の専門資料を正確に読解する能力を獲得することを目指す。

メッセージ

英語専門資料の読解に必要不可欠な英語文法を身につけましょう。

到達目標

民俗学・人類学に関する基礎的な概念を理解し、英語と日本語で正確に翻訳・読解できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	授業の予習
2	基礎テキストの講読（1）	授業の予習・復習
3	基礎テキストの講読（2）	授業の予習・復習
4	基礎テキストの講読（3）	授業の予習・復習
5	基礎テキストの講読（4）	授業の予習・復習
6	基礎テキストの講読（5）	授業の予習・復習
7	基礎テキストの講読（6）	授業の予習・復習
8	基礎テキストの講読（7）	授業の予習・復習
9	基礎テキストの講読（8）	授業の予習・復習
10	基礎テキストの講読（9）	授業の予習・復習
11	基礎テキストの講読（10）	授業の予習・復習
12	基礎テキストの講読（11）	授業の予習・復習
13	基礎テキストの講読（12）	授業の予習・復習
14	基礎テキストの講読（13）	授業の予習・復習
15	総括	授業の総合的な復習
16	期末課題	期末課題の復習

テキスト・参考文献・資料など

テキストは、必要な部分を印刷して配布する。
関連する重要な文献は、適宜紹介する。

学びの手立て

研究領域に関わる英語論文や英字新聞を日常的に読む。

評価

原則として、授業参加度（30%）と期末課題（70%）を総合し評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

外国語資料講読演習Ⅱ

※ポリシーとの関連性　発展科目として沖縄に関する知識を深めるとともに、専門知識の英語表現について理解を深めていく。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	外国語資料講読演習Ⅰ	前期	火３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱　佳代	２年	kayo@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

専門に求められる英語能力と基礎知識を身につける

メッセージ

予習・復習を必須とする

到達目標

以下の英語能力の基礎を身につけることを目的としている。
（１）英語の文章を読み、その内容を適切な日本語に翻訳することができる
（２）専門領域で専門用語として用いられる英単語を身につける
（３）専門用語の英語表現を習得し、専門知識をどう英語で表現するか理解する

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	テクストの講読と翻訳
2	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
3	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
4	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
5	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
6	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
7	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
8	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
9	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
10	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
11	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
12	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
13	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
14	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
15	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
16	テスト	

テキスト・参考文献・資料など

Foucalt, Michel (Translated by A.M. Sheridan), The Birth of the Clinic: An archaelogy of medical perception, 1963 . 初回の講義で該当箇所のコピーを配布する。

学びの手立て

英語の読解には文法の正確な理解と単語の習得が求められる。辞書を積極的に引くこと。

評価

各回のミニクイズ（75%）、期末レポート（25%）。

学びの継続

次のステージ・関連科目

外国語資料購読演習Ⅱ

※ポリシーとの関連性　2.専門分野における学問体系の基本を理解する為の「基礎科目」

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 外国語資料講読演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火３	2
担当者 -末吉　重人	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	学内LAN　メルアドへ	

学びの準備

ねらい

社会学専攻の学生を対象とした本講義では、欧米の社会学理論史を英語で学ぶ。社会学の父コントから主要な社会学者の論点を、現代に至るまで触れる。学生が訳を発表し、それにコメントする形で授業を進行する。おおいにディスカッションを歓迎する。

メッセージ

基本的な社会学理論を了解する学生になって欲しい。

到達目標

社会を見る際に、ある程度の社会学的視点を持って分析出来るようになることを目指す。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	シラバスの説明と発表順の決定	配布資料を熟読すること
2	オーギュスト・コントとフランス革命について(末吉)	配布資料を熟読すること
3	エミール・デュルケム「社会分業論」	『社会学講義』PP279-282
4	〃　「自殺論」	配布資料を熟読すること
5	カール・マルクスの生涯と史的唯物論	『社会学の名著30』PP48-54
6	〃　資本論と疎外論	配布資料を熟読すること
7	マックス・ウェーバー「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」	『社会学のあゆみ』PP20-38
8	〃　支配の社会学	配布資料を熟読すること
9	ユダヤ・キリスト教史概略	配布資料を熟読すること
10	タルコット・パーソンズの構造・機能分析	『社会学のあゆみ』PP157-167
11	〃　AGIL	配布資料を熟読すること
12	マハトマ・ガンジーの生涯と非暴力主義	配布資料を熟読すること
13	ロバート・マートンの逆機能概念	『社会学のあゆみ』P150-156
14	〃　逸脱理論	配布資料を熟読すること
15	ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力	配布資料を熟読すること
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

印刷物を配布し、テキストとする。参考文献は『社会学講義』富永健一・中公新書1999年6版、『社会学のあゆみ』新睦人他・有斐閣新書・1993年22版、『社会学の名著30』竹内均・ちくま新書2008年3刷

学びの手立て

どのタイミングでの質問も可。ディスカッションを通じて学び合いたい。

評価

前期は個人発表の（40点）、期末テスト（40点）を行う。
授業参加度を20点とし、合計で評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目は、社会学理論史関連の科目。次のステージは、自分の好む社会学理論を模索すること。

※ポリシーとの関連性　2.専門分野における学問体系の基本を理解するための「基礎科目」

［　　／演習］

科目基本情報			
科目名 外国語資料講読演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火３	2
担当者 -末吉　重人	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	学内LAN　メルアドへ	

学びの準備

ねらい

後期は、前期に学んだ社会学理論を前提として社会問題を学ぶ。アメリカの学部生がよく使うテキストを使用するが、日本とは異なる視点に注目し、米国の文化についても触れることを目的とする。このテキストは家庭問題から政府の問題まで数多くの社会問題を扱っている。それを学生が担当して翻訳発表し、コメントを混ぜながら授業を進める。

メッセージ

社会問題をなるべく冷静に見ることができることを目指したい。

到達目標

様々な社会問題を四つの社会学的視点から分析する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	分担ページの決定	配布資料を熟読すること
2	四つの社会学的視点（機能主義、ファミニズム、紛争主義、相互行為主義）の説明(末吉)	配布資料を熟読すること
3	以下、担当者による発表と末吉によるコメント：例：家族の問題	配布資料を熟読すること
4	教育の問題	配布資料を熟読すること
5	政府の問題	配布資料を熟読すること
6	貧困の問題	配布資料を熟読すること
7	高齢者の問題	配布資料を熟読すること
8	性行動に関する問題	配布資料を熟読すること
9	ドラッグの問題	配布資料を熟読すること
10	犯罪の問題	配布資料を熟読すること
11	都市化の問題	配布資料を熟読すること
12	人口問題	配布資料を熟読すること
13	環境問題	配布資料を熟読すること
14	格差社会	配布資料を熟読すること
15	戦争の問題	配布資料を熟読すること
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

テキストJames W Coleman & Haroid R. Kerbo, ‘SOCIAL PROBLEMS’ (New York, Harper & Roe, Publications , 2008)-を図書館に指定文献として置いておくので、自分の担当範囲を各自でコピーして使用すること。

学びの手立て

どのタイミングでの質問も可。ディスカッションしながらの授業を行いたい。

評価

発表（40点）、期末試験（40点）を課す。
授業参加度を20点とし、合計で評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目は理論社会学関連の科目。次のステージはとして、自分の好みの社会学者を探してもらいたい。

※ポリシーとの関連性　発展科目として沖縄に関する知識を深めるとともに、専門知識の英語表現について理解を深めていく。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	外国語資料講読演習Ⅱ	後期	火３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱　佳代	２年	kayo@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

専門に求められる英語能力と基礎知識を身につける

メッセージ

予習・復習を必須とする

到達目標

以下の英語能力の基礎を身につけることを目的としている。
（１）英語の文章を読み、その内容を適切な日本語に翻訳することができる
（２）専門領域で専門用語として用いられる英単語を身につける
（３）専門用語の英語表現を習得し、専門知識をどう英語で表現するか理解する

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	テクストの講読と翻訳
2	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
3	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
4	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
5	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
6	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
7	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
8	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
9	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
10	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
11	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
12	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
13	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
14	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
15	演習　本文の和訳作業	テクストの講読と翻訳
16	テスト	

テキスト・参考文献・資料など

外国語資料講読Ⅰに続けて、同じ書籍を使用する。

学びの手立て

英語の読解には文法の正確な理解と単語の習得が求められる。これらは日々の積み重ねによってしか身につかない。辞書を積極的に引くこと。

評価

各回のミニクイズ（75%）、期末テスト（25%）。

学びの継続

次のステージ・関連科目

外国語資料購読演習Ⅰ

※ポリシーとの関連性　社会文化学科の民俗領域と人類領域の英語専門資料を読み解く技法を身につける必修科目。

［　　／演習］

科目基本情報			
科目名 外国語資料講読演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火３	2
担当者 比嘉　理麻	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	r.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本演習は、社会文化学科の2年次を対象とした必修科目であり、とくに民俗領域と人類領域の学生を対象としている。本演習では、民俗学・人類学に関する文献の専門用語を学びながら、英文の読解能力を高めることを目的とする。最終的には、英文の専門資料を正確に読解する能力を獲得することを目指す。

メッセージ

英語専門資料の読解に必要不可欠な英語文法を身につけましょう。

到達目標

民俗学・人類学に関する基礎的な概念を理解し、英語と日本語で正確に翻訳・読解できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	授業の予習
2	専門テキストの講読（1）	授業の予習・復習
3	専門テキストの講読（2）	授業の予習・復習
4	専門テキストの講読（3）	授業の予習・復習
5	専門テキストの講読（4）	授業の予習・復習
6	専門テキストの講読（5）	授業の予習・復習
7	専門テキストの講読（6）	授業の予習・復習
8	専門テキストの講読（7）	授業の予習・復習
9	専門テキストの講読（8）	授業の予習・復習
10	専門テキストの講読（9）	授業の予習・復習
11	専門テキストの講読（10）	授業の予習・復習
12	専門テキストの講読（11）	授業の予習・復習
13	専門テキストの講読（12）	授業の予習・復習
14	専門テキストの講読（13）	授業の予習・復習
15	総括	授業の総合的な復習
16	期末課題	期末課題の復習

テキスト・参考文献・資料など

テキストは、必要な部分を印刷して配布する。
関連する重要な文献は、適宜紹介する。

学びの手立て

研究領域に関わる英語論文や英字新聞を日常的に読む。

評価

原則として、授業参加度（30%）と期末課題（70%）を総合し評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

外国語資料講読演習Ⅰ

※ポリシーとの関連性　考古学という分野の思考法，調査法，研究法からどのように文化を復元しているかを理解する。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	考古学概論	後期	月４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新里　貴之	１年	t.shinzato@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

考古学とはどのような学問なのか，基本的な概念と研究方法を理解し，研究の現状と現代社会へのアプローチ法を学ぶ。

メッセージ

大学で初めて学ぶことのできる新たな歴史系の学問です。モノから歴史を知る方法を学んでください。

到達目標

１）考古学とはどのような学問なのかを理解できる。
２）考古学の基本概念と調査・研究法を理解できる。
３）考古学と周辺諸科学との連携を理解できる。
４）考古学と現代社会との関連性を理解できる。
５）日本先史時代の概要を理解することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスの精読
2	考古学の資料	配布資料を精読
3	考古学の方法・理論	配布資料を精読
4	考古学の調査	配布資料を精読
5	災害考古学	配布資料を精読
6	動物考古学	配布資料を精読
7	植物考古学	配布資料を精読
8	骨考古学	配布資料を精読
9	歴史考古学	配布資料を精読
10	戦跡考古学	配布資料を精読
11	年代測定法	配布資料を精読
12	日本旧石器文化	配布資料を精読
13	日本縄文文化	配布資料を精読
14	日本弥生文化	配布資料を精読
15	日本古墳文化	配布資料を精読
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

１）テキスト：なし
２）講義資料：毎回資料を配布
３）参考文献：鈴木公男1988『考古学入門』東京大学出版社など

学びの手立て

①「履修の心構え」
受講時の不必要な私語は認めない。
出欠確認については，毎回厳格に実施する（遅刻・欠席は事前の[直前ではない]連絡が必要）。
対話方式の講義の進め方も採用するため，積極的発言を期待したい。

②「学びを深めるために」
専門科目であるため，専門用語の理解が必要である。講義後30分以上の復習を勧める。

評価

１）試験結果（第16回：70%）と平常点（第１～15回のリアクションペーパー：30%）を加えて総合的に成績評価する。
２）無断欠席５回以上は「不可」とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

１）関連科目：関連学習やその発展のため，琉球・沖縄史入門のほか，基礎科目を広く受講して欲しい。
２）次のステージ：考古学のより深い知識と実践法を学ぶため，２年次以降の学問体系や個別テーマを掘り下げて深く学ぶ関連講義を受講して下さい。

※ポリシーとの関連性　南島考古学の個別テーマをもとに，南島先史学に関しての深い理解を得る。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	考古学特講Ⅰ	前期	金１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新里　貴之	２年	t.shinzato@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

考古学とはどのような方法で調査し，研究するのか，南島先史研究の個別のテーマを軸として考古学の調査，研究法を学ぶ。

メッセージ

考古学の基本的な研究法から，個別テーマに沿って，研究者がどのような調査研究を行っているのか，学んでください。

到達目標

１）考古学とはどのように調査するのか理解できる。
２）考古学の研究法を理解できる。
３）個別のテーマではどのようなアプローチ法をとるのか理解できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスの精読
2	分布調査・踏査（無人島１）	配布資料の精読
3	分布調査・踏査（無人島２）	配布資料の精読
4	貝塚の調査・研究（貝類）	配布資料の精読
5	貝塚の調査・研究（脊椎動物）	配布資料の精読
6	課題	配布資料の精読
7	土器文化の起源	配布資料の精読
8	遠隔地交易品	配布資料の精読
9	先史時代葬墓制１	配布資料の精読
10	先史時代葬墓制２	配布資料の精読
11	課題	配布資料の精読
12	境界領域の研究	配布資料の精読
13	洞穴奥部の祭祀遺跡	配布資料の精読
14	近代陶磁器研究１	配布資料の精読
15	近代陶磁器研究２	配布資料の精読
16	レポート提出	

テキスト・参考文献・資料など

１）テキスト：なし
２）講義資料：毎回資料を配布
３）参考文献：沖縄県教育委員会2003『沖縄県史各論編第二巻考古』，沖縄考古学会2018『南島考古入門』ボーダーインク、宮城弘樹2022『琉球の考古学』敬文社など

学びの手立て

①「履修の心構え」
受講時の不必要な私語は認めない。
出欠確認については，毎回厳格に実施する（遅刻・欠席は事前の[直前ではない]連絡が必要）。
対話方式の講義の進め方も採用するため，積極的発言を期待したい。

②「学びを深めるために」
専門科目であるため，専門用語の理解が必要である。講義後30分以上の復習を勧める。

評価

１）課題・レポート結果（70%）と平常点（リアクションペーパー：30%）を加えて総合的に成績評価する。
２）無断欠席５回以上は「不可」とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

１）関連科目：継続学習やその発展のため，南島先史学Ⅰ，南島考古学Ⅰ，考古学特講Ⅰ，アジア考古学の受講を勧める。
２）次のステージ：考古学のより深い知識と実践法を学ぶため，３年次以降の個別テーマを掘り下げて深く学ぶ他領域を含めた関連講義を受講して下さい。

※ポリシーとの関連性　考古学の技術的方法の習得をもとに，考古学の専門性について深い理解を得る。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	考古学特講Ⅱ	後期	金１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新里　貴之	２年	大学非常勤のメールアドレス	

学びの準備

ねらい

考古学とはどのような方法で調査し，研究するのか，考古学の技術習得をもとに，考古学の調査，研究法を学ぶ。

メッセージ

考古学における専門的図化・表現法を学んでください。

到達目標

１）考古学ではどのように遺跡を表現するのか理解できる。
２）考古学の研究法と表現法を理解できる。
３）考古学の表現法から各遺跡を比較できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスの精読
2	Adobe Photoshopの使い方	操作方法の習得
3	Adobe Photoshopの使い方(実践)	操作方法の習得
4	Adobe Photoshopの使い方(実践)	操作方法の習得
5	Adobe Photoshopの使い方(実践)	操作方法の習得
6	Adobe Illustratorの使い方	操作方法の習得
7	Adobe Illustratorの使い方(実践)	操作方法の習得
8	Adobe Illustratorの使い方(実践)	操作方法の習得
9	Adobe Illustratorの使い方(実践)	操作方法の習得
10	考古学の実測図とトレースの意義	配布資料の精読
11	考古学の実測図とトレース(実践)	配布資料の精読
12	考古学の実測図とトレース(実践)	配布資料の精読
13	考古学の実測図とトレース(実践)	配布資料の精読
14	考古学の実測図とトレース(実践)	配布資料の精読
15	考古学の実測図とトレース(実践)	配布資料の精読
16	課題提出	

テキスト・参考文献・資料など

１）テキスト：なし
２）講義資料：なし
３）参考文献：『発掘調査のてびき-整理・報告書編-』文化庁文化財部記念物課2010など″

学びの手立て

①「履修の心構え」
受講時の不必要な私語は認めない。
出欠確認については，毎回厳格に実施する。遅刻・欠席は事前の「直前ではない」連絡が必要。

②「学びを深めるために」
専門科目であるため，専門用語の理解が必要である。講義後30分以上の復習を勧める。

評価

１）最終課題結果（第16回：70%）と平常点（第１～15回の課題：30%）を加えて総合的に成績評価する。
２）無断欠席５回以上は「不可」とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

１）関連科目：継続学習やその発展のため，南島先史学Ⅱ，南島考古学Ⅱの受講を勧める。
２）次のステージ：考古学のより深い知識と実践法を学ぶため，３年次以降の個別テーマを掘り下げて深く学ぶ関連講義を受講して下さい。

※ポリシーとの関連性　社会・平和領域の専門基礎科目

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	国際関係論	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	未定	２年	ptt1217＠okiu.ac.jp/授業の最後に質問時間を設けます	

学びの準備

ねらい

国際関係を、近世から現代のベトナム・沖縄・日本の関係史を構造的に把握することで学びます。近世以降のベトナム・琉球と沖縄・日本関する実証的歴史研究の成果を紹介しながら、交易の時代・帝国主義の時代・冷戦期の世界の力関係のダイナミズムを理解することを目指します。同時に各地域への踏み込んだ深い理解を導きます。

メッセージ

担当講師はベトナム近現代史が専門です。あまり知られていませんが、日本・沖縄とベトナムは歴史的に深い関係を結んできました。関係が培われた各時代の世界の構造を「国際関係論」の視点から講義しつつ、他地域への理解を促す「地域学」の視点を取り入れてベトナムの魅力をお伝えしたいと思います。視覚資料も活用します。講義を通じて各地域の今後の関係性に思いを巡らせてください。

到達目標

(1) 近世・近代・近現代のベトナムと沖縄、また日本の関係について知識を学ぶ。
(2) 近世・近代・近現代の歴史における世界の力関係のダイナミズムとその構造を理解する。
(3) 地域と国家、国際関係について理解し、論じることができるようにする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション・ガイダンス（シラバス・授業方針と流れの説明）	リアクションペーパー執筆
2	近世「交易の時代」：琉球王国と交易	補助資料の理解
3	近世「交易の時代」：那覇に残る交易の時代の痕跡、交易の時代の安南（アンナン）への導入	補助資料の理解
4	近世「交易の時代」：安南の諸王国と交易	補助資料の理解
5	近世「交易の時代」：日本の朱印船貿易と港市	リアクションペーパー執筆
6	近代「帝国主義の時代」：ベトナムの植民地化・近代ナショナリズム	補助資料の理解
7	近代「帝国主義の時代」：ベトナムの植民地独立運動	補助資料の理解
8	近代「帝国主義の時代」：ベトナムの植民地独立戦争	補助資料の理解
9	近代「帝国主義の時代」：日本の近代化/琉球・沖縄の近代とベトナム①	補助資料の理解
10	近代「帝国主義の時代」：日本の近代化/琉球・沖縄の近代とベトナム②	リアクションペーパー執筆
11	近現代「冷戦の時代」：ベトナム戦争期の沖縄と日本	補助資料の理解
12	近現代「冷戦の時代」：ベトナム戦争の構造	補助資料の理解
13	近現代「冷戦の時代」：ベトナム戦争の展開	補助資料の理解
14	近現代「冷戦の時代」：ベトナム戦争と世界	リアクションペーパー執筆
15	まとめ/現代グローバル化の時代における「ベトナムから日本への移民」	リアクションペーパー執筆
16	レポート質疑応答	

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは指定しません。講師の作成した授業資料を使います。
・事前に授業資料と関連資料を配布します（配布方法は初回に紹介します）。
・参考文献は授業の中で提示します。

学びの手立て

［履修の心構え］
歴史の細かい知識を覚えることは要求しません。ベトナム/日本/琉球・沖縄の関係史が、各時代の世界構造と結びついているという視点を養い、その構造を理解することを重視します。
［学びの手立て］
日々のニュースで、沖縄を取り巻く国際情勢（台中関係、米中関係、基地問題など）、ベトナム関連事項（技能実習生、移民・難民問題）、また国際的なパワーバランス（冷戦後の国際関係など）に関するものに関心を寄せ、ネットや新聞の記事を読んだり考えたりすることを心がけてください。

評価

・授業への参加姿勢（平常点）　リアクションペーパー（＝授業参加度を評価する）の提出　40点　40％
・レポート（＝到達目標（1）（2）（3）を評価する）の提出　60点　60％
・レポートの提出のみでは採点対象とならない。リアクションペーパーの提出規定数2/3（5回中3回）に達していない場合には不可とする。詳細は初回授業で説明する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会・平和領域の選択科目

※ポリシーとの関連性　専門分野における個別テーマについて深く学ぶ「発展科目」です。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 国際社会学	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月５	2
担当者 崎濱　佳代	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	kayo@okiu.ac.jp。また、講義後、教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

グローバル化とは何か、またグローバル化がどんな社会現象をもたらすのかについて学び、考える。

メッセージ

日本の中でも独特な形でグローバル化してきた沖縄でこそ、学ぶ意味のある科目です。「世界中がお友達」では済まない現実の成り立ちを学び、多文化社会について考察していきましょう。

到達目標

グローバル化について、社会学の理論を踏まえて理解し、国際社会の構造や課題について考えること。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション：これから学ぶことについて	講義内容の復習
2	「国際社会」とは何か：議論の対象と成り立ち、アクター	講義内容の復習
3	「グローバル化」とは何か①：グローバル化の衝撃	講義内容の復習
4	「グローバル化」とは何か②：理論枠組み	講義内容の復習
5	「グローバル化」とは何か③：トランスナショナルな社会空間	講義内容の復習
6	「グローバル化」とは何か④：グローバル化の論理	講義内容の復習
7	「グローバル化」とは何か⑤：トランスナショナルな市民社会	講義内容の復習
8	「グローバル化」とは何か⑥：多様な視点から	講義内容の復習
9	「多文化共生」とは何か①：日本の多文化化	講義内容の復習
10	「多文化共生」とは何か②：海外における多文化主義とバックラッシュ（反動現象）	講義内容の復習
11	「多文化共生」とは何か③：日本における多文化共生施策と課題	講義内容の復習
12	「多文化共生」とは何か④：日本の社会問題の解決策としての「移民」	講義内容の復習
13	「多文化共生」とは何か⑤：今、なぜ多文化共生について考えなくてはならないのか	講義内容の復習
14	「多文化共生」とは何か⑥：ダイバーシティ（多様性）社会の一環としての多文化主義	講義内容の復習
15	振り返りとまとめ	講義内容の復習
16	レポート提出	講義内容の復習

テキスト・参考文献・資料など

講義中に適宜配布する。

学びの手立て

グローバル化は、海の向こうの話ではありません。日常生活の中で、身近なところ（ローカル）から繋がるグローバル現象に注目して考え、友達や家族と話してみてください。

評価

期末レポート（80%）と、書く講義後1週間以内のコメントカード提出（20%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会学概論など。

※ポリシーとの関連性　平和の課題・定義を国際的視点・拠点から把握して、他者に対する気づきを深め、その知識や教養を多文化共生社会の中で活用する。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	国際平和論	後期	木３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-池原　えりこ	２年	授業に関する質問や相談はメール(ptt1341@okiu.ac.jp)あるいは対面で行います。	

学びの準備

ねらい

其々の国が目指す平和の理論と方法・活動に気づき、グローバルな視点・思考力をもって、それらの問題を比較的に考え、自ら課題を発見し、主体性と協調性をもって議論・解決できる。国際的平和活動の共通点や違いを理解することによって、多様な文化に対応できる想像力と可能性を身につけることができる。自己と他者を尊重する心をもって、沖縄の象徴を図ることができる。

メッセージ

19世紀植民地主義とは西洋と他者と定義するものの二元性に世界を分割する西洋の想像力に基づいて知識を生み出し、流通させる非人間的な世界の秩序と構造を創造した。西洋対その他の固定された不変の知識や思考を正常化し、平和の定義や想像力を制限し、紛争と混乱をもたらすなり、異なる世界観を覆い隠している。このクラスでは、平和とは人間性を回復（Restoring Humanity）と主張する。

到達目標

学生は、民族研究プロジェクトに基づいて、非植民地用語と概念を紹介されます。
学生は、人々が運動を通じてどのように平和を達成できるかを学びます。
学生は、ローカルとグローバルがどのように交差して社会に影響を与え、私たちの思考、行動、想像力を形成するかについての知識を獲得します。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	Orientation - Knowledge Production - 平和、 脱植民地的思考と知識生産の関連性	
2	THE NEW WORLD/COLONIAL PROJECTS 新しい世界の創造・植民地プロジェクト	
3	Colonialism and Production of Knowledge (Dehumanizing Projects) 植民地主義と知識の生産	
4	Decolonial Knowledge Production 脱植民地知識生産	
5	Ethnic Studies Department: Vision and Mission/ エスニック・スタディービジョン	
6	Third Option 脱植民地化の選択肢と方向性	
7	Self-determination 自己決定	
8	Decolonial love (US Women of Color Feminism) 脱植民フェミニズムの「愛 」	
9	US - Okinawa Women’s Alliance沖縄女性同盟	
10	International Women’s Movements国際女性運動	
11	Land 土地	
12	Language 言語	
13	Race 人種	
14	Third Space/Alternative future possibility サード スペース/差異/別の未来/脱植民地化の可	
15	Okinawa’s Third Space 沖縄のチャンプルー性とお笑い・沖縄のサードスペース	
16	Review: Openings / Departure Points 纏め：開閉と出発点	

テキスト・参考文献・資料など

資料はクラスで配付する。

学びの手立て

①「履修の心構え」
受講時に求められる態度
授業には時間通りに出席すること。3回遅刻した場合は、欠席とみなす。
お喋り、携帯を見たり、寝るなど授業や同僚の時間を無駄にしない事に心がける。
レポートを提出する前に再度確認しておく知識。試験について、講評・解説の時間を設ける。
②　「学びを深めるために」
毎週、課題について１ページの感想を提出する。課題はコメントのうえ返却する。
授業にあたって必要となる資料・宿題を前もって行う。

評価

評価：最終原稿30%, １ページ感想文X 10 30%, クラス活動40%
感想文：課題にたいする感想を１ページで纏める。学んだこと、気になったこと、興味深いことや個人の体験に重なる部分など。最終原稿：選択された課題について原稿を書く。授業の課題について吟味して把握したか評価できるように原稿を構成する。クラス活動：クラスワーク、クイズ、ディスカッションや発表等に積極的に参加する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　専門分野における学問体系及び調査・研究技能の基本を理解する基礎科目に当たる。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 古文書講読Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月２	2
担当者 深澤　秋人	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	教室のほかオフィスアワーに受け付けます。時間帯とメールアドレスは履修ガイド参照。	

学びの準備

ねらい

文献史料は文書・記録・編纂物や典籍に分類されます。なかでも一次史料である文書と記録は、意味内容とともに形態・様式・機能・伝来など豊富な歴史情報を持っています。よって、文字（くずし字）と文章（候文）が読めなければ、内容や背景の世界に入っていけません。本講義のねらいは、くずし字を判読・翻刻し、候文を読み下し、文章の主旨をつかむ訓練を積むところにあります。

メッセージ

本学図書館郷土資料室には沖縄県内の市町村史が並んでいます。身近な地域の文献資料集をめくってみてください。各地域に伝わる文書や記録が収録されている場合があります。また、県内の博物館の常設展や企画展では史料の原本が展示されることがあります。実際に足を運んで現物の迫力に接することをおすすめします。

到達目標

・くずし字を判読・翻刻し、候文（和様漢文）を読み下すことができるようになる。
・記録（日記）の構造、文章の構成と主旨を理解できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション、くずし字と候文、文書と記録の違い、文書と古文書の違い	到達目標を理解する
2	「在勤中日記」の解題、担当箇所の割り当て	日記の構造を把握する
3	「在勤中日記」の目録を読む①―くずし字と候文に慣れる―	変体仮名と返り点を把握する
4	「在勤中日記」の目録を読む②―候文を読み下す―	変体仮名と返り点を把握する
5	「在勤中日記」の講読①（担当箇所の翻刻と読み下し）	テキストを音読する
6	「在勤中日記」の講読②（同上）	テキストを音読する
7	「在勤中日記」の講読③（同上）	テキストを音読する
8	「在勤中日記」の講読④（同上）	テキストを音読する
9	「在勤中日記」の講読⑤（同上）	テキストを音読する
10	「在勤中日記」の講読⑥（同上）	テキストを音読する
11	「在勤中日記」の講読⑦（同上）	テキストを音読する
12	「在勤中日記」の講読⑧（同上）	テキストを音読する
13	「在勤中日記」の講読⑨（同上）	テキストを音読する
14	「在勤中日記」の講読⑩（同上）	テキストを音読する
15	期末試験対策問題、まとめ	到達目標を確認する
16	期末試験	テキストを音読する

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】講読するテキストは、尚家文書３４２号「在勤中日記」（那覇市歴史博物館蔵）です。１８６９年、首里王府が鹿児島に派遣した在番親方である浦添親方の公務日記です。鹿児島での活動の様子を詳しく知ることができます。二回目の講義でコピーを配布します。教科書は使用しません。
【参考文献】林英夫・若尾俊平編『増訂 近世古文書解読字典』（柏書房、１９７２年）

学びの手立て

くずし字と候文をはじめからスラスラ読める人はいません。外国語と同じです。慣れ親しむためには、声を出して量を読むことが大切です。少しずつ読めるようになると自信がつきますよ。あきらめないでください。

評価

テキストの講読に取り組む姿勢（３０％）と期末課題の結果（７０％）によって総合的に評価します。特に前者では、担当箇所だけでなく、くずし字と候文を読めるようになりたいという意欲や態度を重視します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「古文書講読Ⅱ」の受講を希望します。

※ポリシーとの関連性　専門分野における学問体系及び調査・研究技能の基本を理解する基礎科目に当たる。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 古文書講読Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月２	2
担当者 深澤　秋人	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	教室のほかオフィスアワーに受け付けます。時間帯とメールアドレスは履修ガイド参照。	

学びの準備

ねらい

文献史料は文書・記録・編纂物や典籍に分類されます。なかでも一次史料である文書と記録は、意味内容とともに形態・様式・機能・伝来など豊富な歴史情報を持っています。よって、文字（くずし字）と文章（候文）が読めなければ、内容や背景の世界に入っていけません。本講義のねらいは、くずし字を判読・翻刻し、候文を読み下し、文章の主旨をつかむ訓練を積むところにあります。

メッセージ

本学図書館郷土資料室には沖縄県内の市町村史が並んでいます。身近な地域の文献資料集をめくってみてください。各地域に伝わる文書や記録が収録されている場合があります。また、県内の博物館の常設展や企画展では史料の原本が展示されることがあります。実際に足を運んで現物の迫力に接することをおすすめします。

到達目標

・くずし字を判読・翻刻し、候文（和様漢文）を読み下すことができるようになる。
・記録（日記）の構造、文章の構成と主旨を理解できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション、くずし字と候文、文書と記録の違い、文書と古文書の違い	到達目標を理解する
2	「在勤中日記」の解題、担当箇所の割り当て	日記の構造を把握する
3	「在勤中日記」の目録を読む①―くずし字と候文に慣れる―	変体仮名と返り点を把握する
4	「在勤中日記」の本文を読む②―候文を読み下す―	変体仮名と返り点を把握する
5	「在勤中日記」の講読①（担当箇所の翻刻と読み下し）	テキストを音読する
6	「在勤中日記」の講読②（同上）	テキストを音読する
7	「在勤中日記」の講読③（同上）	テキストを音読する
8	「在勤中日記」の講読④（同上）	テキストを音読する
9	「在勤中日記」の講読⑤（同上）	テキストを音読する
10	「在勤中日記」の講読⑥（同上）	テキストを音読する
11	「在勤中日記」の講読⑦（同上）	テキストを音読する
12	「在勤中日記」の講読⑧（同上）	テキストを音読する
13	「在勤中日記」の講読⑨（同上）	テキストを音読する
14	「在勤中日記」の講読⑩（同上）	テキストを音読する
15	期末試験対策問題、まとめ	到達目標を確認する
16	期末試験	テキストを音読する

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】講読するテキストは、前期の「古文書講読Ⅰ」に続き、尚家文書３４２号「在勤中日記」（那覇市歴史博物館蔵）です。１８６９年、首里王府が鹿児島に派遣した在番親方である浦添親方の公務日記です。鹿児島での活動の様子を具体的に知ることができます。２回目の講義でコピーを配布します。教科書は使用しません。

【参考文献】林英夫・若尾俊平編『増訂 近世古文書解読字典』（柏書房、１９７２年）

学びの手立て

史料は声を出して量を読むことで身体になじみます。くずし字と候文をはじめからスラスラ読める人はいません。外国語と同じです。講義で読んだテキストの箇所を毎回繰り返し音読することをおすすめします。

評価

テキストの講読に取り組む姿勢（３０％）と期末試験の結果（７０％）によって総合的に評価します。特に前者では、担当箇所だけでなく、くずし字と候文を読めるようになりたいという意欲や態度を重視します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

本講義からの受講も可能ですが、できれば「古文書講読Ⅰ」と合わせて受講することを希望します。

※ポリシーとの関連性　専門分野の学問体系と研究技能の基本を学ぶ「基礎科目」です。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 社会学概論	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金２	2
担当者 崎濱　佳代	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	kayo@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義は、社会学の基本的考え方、ものの見方を学習することからスタートし、現代社会を分析的に読み解く社会学的想像力と歴史的想像力を習得、他者の発見・理解を通して、社会の仕組みを解明することをめざします。個人的なことがらを社会全体との関わりの中で捉え、人間社会の様々な問題群とその現代的課題を考えます。

メッセージ

社会学は「人間」と「社会」との関係を様々な角度から検証する学問です。近代社会の様々な問題群とその現代的課題を、実証的・学術的に探究していきましょう。

到達目標

①社会学の基本的な概念を理解する。
②現代社会を批判的（分析的）に読み解くための社会学の思考枠組み（ものの見方）を習得する。
③他者の発見・理解を通じて社会の仕組み（構造）を捉える。
④「あたりまえ」を相対化し、その歴史的・社会的構築性を理解する。
⑤個人的なことがらと社会的なことがらとの関係を捉える。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	社会学とはなにか：これから学ぶこと	授業の復習
2	生活の理解：家族	授業の復習
3	生活の理解：地域	授業の復習
4	生活の理解：生活様式と社会	授業の復習
5	人と社会の関係：社会的行為	授業の復習
6	人と社会の関係：社会的役割	授業の復習
7	人と社会の関係：社会関係資本と社会的連帯①	授業の復習
8	人と社会の関係：社会関係資本と社会的連帯②	授業の復習
9	中間まとめ	授業の復習
10	社会問題の理解：社会問題のとらえ方	授業の復習
11	社会問題の理解：日本社会と社会問題①	授業の復習
12	社会問題の理解：日本社会と社会問題②	授業の復習
13	現代社会の理解：社会のグローバル化と社会問題①	授業の復習
14	現代社会の理解：社会のグローバル化と社会問題②	授業の復習
15	期末レポート提出	授業の復習
16	期末レポートの返却・講評	レポート作成

テキスト・参考文献・資料など

必要に応じて適宜配布する

学びの手立て

期末レポートも授業で扱ったテーマに沿って論文作成を行うので、きちんとノートを取っておくこと。
高校社会科の復習をしておくと、理解が深まりやすい。

評価

期末レポート（85%）、コメントカード（10%）授業への参加（5%）で評価を行う。（期末レポートの提出がなされない場合は不可）

学びの継続

次のステージ・関連科目

「社会学演習」などの理論を活用する科目が関連科目である。
本講義で身につけた知識や考察は、大学全体のポリシーに掲げられた「高度化かつ多様化する国際社会」を生きる上での基礎となるので、ぜひ自らの社会生活を捉えなおす契機としてほしい。

※ポリシーとの関連性　社会・平和領域の専門基礎科目

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 社会学理論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水２	2
担当者 秋山　道宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後の教室およびオフィスアワー	

学びの準備

ねらい

私たちは、常識という色眼鏡を通して物事を見つめ、日々の生活を送っている。しかし、現実の物事はみかけどおりではなく、聞こえのいい常識の背後でお互いを排除し、暴力をふるうことで社会が成立しているとしたらどうだろう。本講義は、「働くこと」「アイデンティティ」や「愛」などの身近な事柄を入口に、社会学的な考え方を修得することで、この色眼鏡を批判的に捉え直す。

メッセージ

日々の生活で生じる小さな疑問や違和感をそのままにせず、みずからの頭で考えることの大変さと面白さを講義を通して感じてほしい。

到達目標

社会学理論の受講を通して、以下の二つを学習成果として得ることができる。
①私たちが織りなす社会のあり方についての認識を深めることで、身近な社会関係（家族、男女、地域など）がどのように成り立っているのかを理解できる。
②①を通して、お互いを排除したり傷つけるような関係性（社会構造）を批判的に捉え直し、受講前とは異なる社会への関わり方を考え、実践するこができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス。社会学理論では何を扱うか？	シラバスを読んでおくこと。
2	イントロダクション：社会をみること。社会学の理論とはどのようなものか。	事前課題に取り組むこと。
3	わたし（個人）を問う①「働くこと」を社会学的に捉える。	講義の復習。
4	わたし（個人）を問う②「自分らしさ」とはなにか（アイデンティティ）。	講義の復習。
5	わたし（個人）を問う③「われわれ」とはだれか（ナショナリズム、記憶）。	講義の復習。
6	わたし（個人）を問う④「愛する」とはなにか（家族、性愛、ジェンダー）。	講義の復習。
7	沖縄を社会学理論で捉える（1）沖縄戦の記憶について考える。	講義の復習。関連する課題を提示。
8	社会（秩序）を問う①近代とはどのような時代か。	講義の復習。
9	社会（秩序）を問う②身体と規律権力（監獄、学校、病院、軍隊）。	講義の復習。
10	社会（秩序）を問う③階級・階層の再生産（教育、労働、貧困）。	講義の復習。
11	社会（秩序）を問う④オリエンタリズム、ポストコロニアルという視点。	講義の復習。
12	沖縄を社会学理論で捉える（2）ポストコロニアルとしての沖縄。	講義の復習。関連する課題を提示。
13	社会学の古典・原典に触れる①近代社会への問い（マルクス、ウェーバー）。	講義の復習。
14	社会学の古典・原典に触れる②社会学と社会の構造的理解（デュルケム、ブルデュー）。	講義の復習。
15	授業全体のまとめ。	講義全体の復習。
16		

テキスト・参考文献・資料など

特定のテキストは指定しない。講義の必要に応じて資料を配布する。
講義の理解度を高めるための参考文献として、次の四つを挙げておく。
①アンソニー・ギデンズ『社会学（第5版）』（而立書房、2009年）②豊泉周治ほか『＜私＞をひらく社会学：若者のための社会学入門』（大月書店、2014年）③長谷川公一ほか『新版社会学　Sociology:Modernity,Self and Reflexivity』（有斐閣、2019年）④前田勇樹ほか『つながる沖縄近現代史：沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』（ボーダーインク、2021年）

学びの手立て

履修の心構え
・事前課題や関連課題を提示する回があるので、しっかりと準備して臨むこと。
・講義もコミュニケーションの一つである。周囲の受講生や教員との信頼関係で成り立ち、その中で、より良い学習ができることを意識してほしい。受講中の私語や携帯電話・スマートフォンの使用など、講義の進行や周囲への迷惑となる行為は禁止する。
学びを深めるために
・日常生活において疑問をもったことを大切にし、言葉にしたり、考える時間をつくること。

評価

授業への参加態度・課題研究（30%）、中間レポート（30%）、学期末レポート（40%）。

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会・平和領域の専門応用科目。

※ポリシーとの関連性　①専門分野における学問体系の基本を理解する必修科目です。②社会調査士資格認定「A科目」です。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 社会調査法Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水３	2
担当者 秋山　道宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	オフィスアワーおよび学内メールで随時対応する。	

学びの準備

ねらい

社会調査とは、「社会はどうなっているのか」という問いに答えるための一つの方法です。社会調査には、データを収集する段階、データを使って社会について考える段階、その結果を公表する段階と一連のプロセスがあります。本講義では、社会調査の意義と諸類型に関する基本的な事項を学んでいきます。

メッセージ

社会はどう捉えたらよいかわからないことに満ちています。しかし、社会調査法を学ぶことで、社会を調査し、特徴を把握し、その結果をまとめる基本的な方法を理解することができます。難しいと感じることも最初は多いでしょうか、次第に社会が理解できる喜びも感じることができると思います。一緒に学び、考えていきましょう！

到達目標

(1) 社会調査の意義と諸類型、調査倫理について理解する。
(2) 既存資料へアクセスし、情報を収集することができる。
(3) 量的調査と質的調査の違いを理解し、説明することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション（社会調査の目的と意義）	シラバスを事前に読んでおくこと
2	社会調査の歴史（社会調査のルーツと発展）	テキストと講義資料の読解
3	調査倫理（個人情報の取り扱い、社会調査倫理綱領）	テキストと講義資料の読解
4	既存資料へのアクセス方法①（図書館とインターネットの活用）	テキストと講義資料の読解
5	既存資料へのアクセス方法②（既存の統計データの活用）	テキストと講義資料の読解
6	社会調査の基本ルールと道具①（記述と説明、問いの立て方）	テキストと講義資料の読解
7	社会調査の基本ルールと道具②（概念、操作的定義、変数、仮説）	テキストと講義資料の読解
8	前半ふりかえり	事前に復習してくること
9	量的調査の基礎①（種類と特徴）	テキストと講義資料の読解
10	量的調査の基礎②（調査票、サンプリング）	テキストと講義資料の読解
11	量的調査の基礎③（調査プロセス）	テキストと講義資料の読解
12	質的調査の基礎①（種類と特徴）	テキストと講義資料の読解
13	質的調査の基礎②（聞き取り調査、フィールドワーク）	テキストと講義資料の読解
14	質的調査の基礎③（ドキュメント分析）	テキストと講義資料の読解
15	まとめ	全体の復習をしてくること
16	期末テスト	全体の復習をしてくること

テキスト・参考文献・資料など

大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』（ミネルヴァ書房、2013年）
岸政彦ほか著『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』（有斐閣、2016年）
宮内泰介・上田昌文『実践 自分で調べる技術』（岩波新書、2020年）

学びの手立て

①配布資料や参考文献をよく読み、復習も日常的に行ってください。
②社会調査法を学ぶには、講義形式の座学だけでは不十分です。短いグループディスカッションやワークも取り入れますので、積極的に取り組んでください。
③身の回りの社会調査や統計のデータについて、意識的に目を向けるようにしてください。

評価

参加態度（40%）、期末テスト（60%）で評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・実習および社会平和領域の専門科目。

※ポリシーとの関連性　「地域理解能力と社会的コミュニケーション能力にたけた、問題解決型の人物の養成」に関わる技能を習得することを目指す。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	社会調査法Ⅰ	前期	水３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱　佳代	２年	kayo@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、社会調査の基礎について学び、さらに後半では量的調査の方法を学ぶ。この講義を通して、社会人として暮らす上で頻繁に触れることになる社会調査によるデータの読み方を身につけ、さらに地域問題の効果的な解決のために不可欠となる社会調査を自ら実施する能力を身につけることがねらいである。

メッセージ

社会調査の基礎を学習する。本講義は社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、調査研究の企画設計、変数と仮説構成などプロトコールの作成から調査実施まで総合的に講義する。

到達目標

①社会調査によるデータを読んで、社会的な事象についての考察に活かせるようになること。
②自らの関心を量的調査によって明らかにする手法を身につけること。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	社会調査とは？―その意義、目的―	授業の復習
2	社会調査の歴史	授業の復習
3	社会調査のための諸注意―社会調査の倫理と個人情報の取り扱い―	授業の復習
4	事前の情報収集の方法	授業の復習
5	研究テーマの設定法～社会調査の基本的な道具～	授業の復習
6	調査の企画、設計	授業の復習
7	概念、変数、仮説の活用	授業の復習
8	量的調査―調査票作成の事前準備	授業の復習
9	質問文作成の基本ルール	授業の復習
10	選択肢作成の基本ルール	授業の復習
11	調査に関する様々な誤差１標本誤差	授業の復習
12	調査に関する様々な誤差２　その他の誤差	授業の復習
13	サンプリングの考え方	授業の復習
14	サンプリングの実際	授業の復習
15	本講義のまとめ	授業の復習
16	試験	授業の総合的な復習

テキスト・参考文献・資料など

大谷信介、他著『新・社会調査へのアプローチ』2013年、ミネルヴァ書房

学びの手立て

新聞・雑誌など身の回りに表れるd統計データの扱われ方をよく見ること。

評価

期末レポート（50%）、その他の課題（50%）をもとに評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目は「社会調査法Ⅱ」である。次のステージとして、 本講義で学ぶ量的調査に加え、数字では表せない深いデータを得る質的調査の方法にも関心を持ってほしい。

※ポリシーとの関連性　①専門分野における学問体系の基本を理解する必修科目です。②社会調査士資格認定「B科目」です。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 社会調査法Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水３	2
担当者 秋山　道宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	オフィスアワーおよび学内メールで随時対応する。	

学びの準備

ねらい

社会調査とは、「社会はどうなっているのか」に答えるための一つの方法です。社会調査には、データを収集する段階、データを使って社会について考える段階、その結果を公表する段階と一連のプロセスがあります。本講義では、資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を学んでいきます。

メッセージ

社会はどう捉えたらよいかわからないことに満ちています。しかし、社会調査法を学ぶことで、社会を調査し、特徴を把握し、その結果をまとめる基本的な方法を理解することができます。難しいと感じることも最初は多いでしょうか、次第に社会が理解できる喜びも感じることができると思います。社会調査法Ⅰで学んだことを踏まえ、さらにもう一歩深く学び、考えていきましょう！

到達目標

(1) 社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を理解する。
(2) 量的調査のデータ収集から、分析しうる形までの基本的な流れを説明できるようになる。
(3) 質的調査のデータ収集から、分析しうる形までの基本的な流れを説明できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	シラバスを事前に読んでおくこと
2	調査目的の明確化（問題意識と調査テーマの具体化）	テキストと講義資料の読解
3	調査企画と設計（調査の種類と特徴）	テキストと講義資料の読解
4	仮説（仮説の構築、命題と仮説、操作化、反証可能性）	テキストと講義資料の読解
5	調査方法の検討（全数調査と標本調査、統計的確率、標本サイズと誤差）	テキストと講義資料の読解
6	サンプリングの方法（層化抽出法・多段抽出法）	テキストと講義資料の読解
7	質問文、質問票の作成①（作り方、具体例と注意点）	テキストと講義資料の読解
8	質問文、質問票の作成②（作り方、具体例と注意点）	テキストと講義資料の読解
9	量的調査の実施（調査票の配布および回収法等）	テキストと講義資料の読解
10	質的調査の実際①	テキストと講義資料の読解
11	質的調査の実際②	テキストと講義資料の読解
12	データの整理・集計①（コーディング、エディティング）	テキストと講義資料の読解
13	データの整理・集計②（データクリーニング、単純集計とクロス集計）	テキストと講義資料の読解
14	データの整理・集計③（誤差、検定、相関、みかけの相関）	テキストと講義資料の読解
15	調査・分析の公表（報告書作成）	全体の復習をしてくること
16		

テキスト・参考文献・資料など

大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』（ミネルヴァ書房、2013年）
岸政彦ほか著『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』（有斐閣、2016年）
宮内泰介・上田昌文『実践 自分で調べる技術』（岩波新書、2020年）

学びの手立て

①配布資料や参考文献をよく読み、復習も日常的に行ってください。
②社会調査法を学ぶには、講義形式の座学だけでは不十分です。短いグループディスカッションやワークも取り入れますので、積極的に取り組んでください。
③身の回りの社会調査や統計のデータについて、意識的に目を向けるようにしてください。

評価

参加態度（40%）、期末レポート（60%）で評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会調査法Ⅰを履修済みであることが望ましい。次のステージとして、社会統計学Ⅰ・Ⅱなどの関連科目や、社会調査の実践にあたる演習Ⅰ・実習などの科目に挑戦してほしい。

※ポリシーとの関連性　「地域理解能力と社会的コミュニケーション能力にたけた、問題解決型の人物の養成」に関わる技能を習得することを目指す。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会調査法Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水３	2
担当者 崎濱　佳代	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	kayo@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、社会調査の基礎について学び、さらに後半では質的調査の方法を学ぶ。この講義を通して、社会人として暮らす上で頻繁に触れることになる社会調査によるデータの読み方を身につけ、さらに地域問題の効果的な解決のために不可欠となる社会調査を自ら実施する能力を身につけることがねらいである。

メッセージ

社会調査の基礎を学ぶ。「社会調査法Ⅰ」では量的調査を中心に内容を展開したが、本講義では質的調査（とりわけ参与観察法、インタビュー法、ドキュメント分析など）に力点をおいて講義を行う。

到達目標

①質的調査によるデータを読んで、社会的な事象についての考察に活かせるようになること。
②自らの関心を質的調査によって明らかにする手法を身につけること。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション（学籍番号が奇数の学生）	授業の復習
2	質的調査の考え方	授業の復習
3	ドキュメント分析の方法	授業の復習
4	ドキュメント分析に触れてみよう	授業の復習
5	参与観察法	授業の復習
6	参与観察法に触れてみよう	授業の復習
7	インタビュー法	授業の復習
8	インタビュー法に触れてみよう	授業の復習
9	調査実施の際の諸注意	授業の復習
10	中間課題：質的調査の企画	授業の復習
11	質的調査の実施と分析（質問・相談による個別指導）①	授業の復習
12	質的調査の実施と分析（質問・相談による個別指導）②	課題の実施
13	分析レポートの作成（質問・相談による個別指導）①	課題の実施
14	分析レポートの作成（質問・相談による個別指導）②	課題の実施
15	課題提出	授業の総合的復習
16	振り返り	授業の総合的復習

テキスト・参考文献・資料など

大谷信介、他著『新・社会調査へのアプローチ』2013年、ミネルヴァ書房

学びの手立て

新聞・雑誌など、身の回りに見られる質的調査データに注目する。

評価

レポート（50%）、課題（50%）をもとに評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「社会調査法Ⅰ」「社会調査法Ⅱ」で学んだ知識をもって、「実習（総社）」に積極的に挑戦してほしい。

※ポリシーとの関連性　各専攻で学習・研究する社会的事象の基本的な情報の一つである統計の理解に資する基本的な知識を学習する。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会統計学Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金４	2
担当者 -細川　妃奈子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備

ねらい

この講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について学び、統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し正確な情報を作る力、など統計を活用する力）を身につけることを目指します。

メッセージ

統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶとともに、パソコンを使用して実際に統計を作成・分析する作業を通じ、理解を深めて行きます。

到達目標

1. PCを利用して、簡易な統計データを作成することができる。
2. 統計データを加工して、簡易な分析ができる。
3. 統計データの分析を通じて、社会現象について考察できる。
4. インターネット・図書館等を利用して、目的に応じた統計データを収集することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？　統計学的な考え方）	①＋②講義使用データの復習
3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）	①＋②講義使用データの復習
4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）	①＋②講義使用データの復習
5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）	①＋②講義使用データの復習
6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）	①＋②講義使用データの復習
7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）	①＋②講義使用データの復習
8	収集したデータ間に関連性はあるか？　～量的変数1～（相関係数）	①＋②講義使用データの復習
9	収集したデータから予測はできるか？　～量的変数2～（回帰分析の基礎1）	①＋②講義使用データの復習
10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）	①＋②講義使用データの復習
11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（変数のコントロール、偏相関係数）	①＋②講義使用データの復習
12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定）	①＋②講義使用データの復習
13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～	①＋②講義使用データの復習
14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラボレーション）	①＋②講義使用データの復習
15	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数4～（エラボレーション2）	①＋②講義使用データの復習
16	講義の振り返り・まとめ（レポート提出）	①＋②講義使用データの復習

テキスト・参考文献・資料など

下記のテキストを使用する受講者は各自入手すること。ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する
廣瀬毅士・寺島拓幸編著『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010年

学びの手立て

①「履修の心構え」
原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。
②学びを深めるために
本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいると思いますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。

評価

平常点：70%、期末課題：30%
平常点：毎講義で、課題を配布するので、その課題を加工して提出してください（課題の取り組み方、授業態度等）。なお、遠隔講義の場合は、毎回課題（5点×14回）を配布し、提出してもらう。
期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「社会統計学Ⅱ」　社会統計学Ⅰを受講後、より多様な数量データ分析の初歩を学んでほしい。また、社会調査士指定科目等における質的調査・データに関する学習が調査におけるデータの取り扱いについて理解をより深める。

※ポリシーとの関連性　各専攻で学習・研究する社会的事象の基本的な情報の一つである統計の理解に資する基本的な知識を学習する。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会統計学Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金４	2
担当者 -細川　妃奈子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備

ねらい

この講義では、「社会統計学Ⅰ」の内容を踏まえ、社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基礎的な考え方と方法を学びます。講義ではPCで実際にデータを加工します。
　到達目標として、基礎的統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し生活な情報を作る力など統計を活用する力）を高めること目指します。

メッセージ

社会で起きている現象の多くは、一つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係によることもあります。逆に、一つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数学で表そうとするものです。講義では、事例をできるだけ多く紹介し、多変量解析のイメージや基礎的な考え方をお話ししたいと思います。

到達目標

１．多変量解析に関する基本的な知識・技術が身についている
２．多変量解析の学習を通じて、社会現象が多様な要素から成り立っていることを想像できる
３．統計解析んど、数量データを活用するメリットを学ぶとともに、そのデメリットと等も学び、多面的に社会現象を理解・想像できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Iの復習）	①＋②講義使用データの復習
3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）	①＋②講義使用データの復習
4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1	①＋②講義使用データの復習
5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2	①＋②講義使用データの復習
6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3	①＋②講義使用データの復習
7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4	①＋②講義使用データの復習
8	複数の変数を合成する「主成分分析」1	①＋②講義使用データの復習
9	複数の変数を合成する「主成分分析」2	①＋②講義使用データの復習
10	複数の変数を合成する「主成分分析」3	①＋②講義使用データの復習
11	複数の変数を合成する「主成分分析」4	①＋②講義使用データの復習
12	データの背後を分析する「因子分析」１	①＋②講義使用データの復習
13	データの背後を分析する「因子分析」２	①＋②講義使用データの復習
14	データの背後を分析する「因子分析」３	①＋②講義使用データの復習
15	データの背後を分析する「因子分析」４	①＋②講義使用データの復習
16	講義のふりかえり・まとめ（レポート提出）	①＋②講義使用データの復習

テキスト・参考文献・資料など

　下記のテキストを使用する。受講者は各自入手すること。また、社会統計学Ⅰのテキストを随時参考資料として使用する。
　ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する。

〇主テキスト
涌井良幸、涌井貞美『多変量解析がわかる』技術評論社　2011

学びの手立て

①「履修の心構え」
原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。
②学びを深めるために
本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいると思いますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。

評価

平常点：70%、期末課題：30%
平常点：毎講義で、課題を配布するので、その課題を加工して提出してください（課題の取り組み方、授業態度等）。なお、遠隔講義の場合は、毎回課題（5点×14回）を配布し、提出してもらう。
期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（１）関連科目
「社会統計学Ⅰ」　社会統計学Ⅱは、社会統計学Ⅰで学習した内容を踏まえて行うため、前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ）を連続して受講することが望ましい。
　ただし、社会統計学Ⅱを先に受講することを妨げない。

※ポリシーとの関連性　専門分野における個別テーマについて深く学ぶ「発展科目」です。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 ジェンダー論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月５	2
担当者 崎濱　佳代	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

〈性別〉によって分割された社会――〈女である/男である〉ことはどのような社会的意味をもち、日本や世界で〈女性〉はどのような社会状況を生きているのでょうか。皆さんが暮らす社会の〈性別〉をめぐる「あたりまえ」を問い直し、教育、労働、家族、人口、国家・国際社会、移動・グローバル化など、ジェンダーの視点から

メッセージ

女だから／男だから?――家族や教育、市場や国家など社会のあらゆる領域で、人間は性別によって振分けられ、意味づけられているようです。学校・部活動、バイト・就活、恋愛・結婚、出産や育児・介護、遊びや流行の音楽・ドラマなど身近な経験にふれながら、ジェンダー化された社会の仕組みと課題を考えていきましょう。

到達目標

①ジェンダーという概念とその分析概念としての深化のあり方を理解する。
②ジェンダー研究の基礎的な思考枠組みを知る。
③身近な自分の経験を、講義で学んだことと関連付けて、ジェンダーの視点から考察する。
④現代社会の様々な問題群と課題について、ジェンダーの視点から分析する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	授業時に指示する
2	ジェンダーとは何か――性別の構築性と多様性	授業時に指示する
3	教育とジェンダー①子どもの社会化	授業時に指示する
4	教育とジェンダー②学校教育と性差別	授業時に指示する
5	労働とジェンダー①雇用のジェンダー構造	授業時に指示する
6	労働とジェンダー②無償労働とケアワーク	授業時に指示する
7	労働とジェンダー③有償／無償労働とジェンダー平等	授業時に指示する
8	家族とジェンダー①近代家族と多様化する家族	授業時に指示する
9	家族とジェンダー②少子高齢社会とジェンダー平等政策	授業時に指示する
10	家族とジェンダー③福祉レジームと生活保障システム	授業時に指示する
11	家族とジェンダー④世界の人口問題とリプロダクティブ・ヘルス／ライツ	授業時に指示する
12	国際社会・国家とジェンダー	授業時に指示する
13	移動・グローバル化とジェンダー①労働力の女性化と新国際分業	授業時に指示する
14	移動・グローバル化とジェンダー②ポスト新国際分業と家族のグローバル化	授業時に指示する
15	全体のまとめ――フェミニズムとジェンダー	授業時に指示する
16	期末レポート提出	授業時に指示する

テキスト・参考文献・資料など

【参考文献】毎回の講義でテーマに応じた参考文献を紹介します。
全体を通した参考文献は以下のとおりです。
・伊藤公雄・牟田和恵編，2015『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社.
・千田有紀・中西裕子・青山薫，2013『ジェンダー論をつかむ』有斐閣.
【資料】毎回の授業で必要に応じて配布します。

学びの手立て

①本講義は、受講生による「主体的学び」を重視する科目です。各回の講義終了後、配布資料と参考文献を読み、理解を深めてください。
②本講義は、基本的に担当教員による講義形式で授業を進めますが、学生への問いかけを随所に取り入れ、双方向的な授業展開を目指します。受講生数に応じて、随所でグループワーク等も盛り込む予定です。
③授業終了時に、講義内容に関して学んだこと・考えたことをコメントシートに記入してもらいます。重要な考察・問いかけについては、次回の講義開始時に受講生全員に紹介し共有します。

評価

学期末テスト（あるいは学期末レポート）(80%)、平常点(20%)の結果にもとづいて評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（関連科目）社会学理論、国際社会学、都市社会学、南島社会学、家族社会学、マスコミ論、アジア社会論

※ポリシーとの関連性　フィールドワークを実践し、地域理解能力の向上を図る実習科目である。

［　　／実験実習］

科目基本情報				
科目名 実習	期 別	曜日・時限	単 位
	集中	集中	2
担当者 阿利　よし乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	E-mail：y.ari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本科目ではフィールドワークの方法の修得を目指します。各概論や領域演習など、これまでの社会文化学科の講義で学んだ知識を基に、演習Ｉと連動してフィールドワークを体験します。調査地での過ごし方、話者とのコミュニケーション方法、ノートの取り方、カメラの使い方など、現地調査の基本を現場で実践します

メッセージ

フィールドワークは民俗学の資料収集の基本です。文献などから現地の情報を整理して調査地に入り、話者とお話することで新しい資料を得ることができます。自分の予想や見立てを調査地で崩して新しい発見を得ることはフィールドワークの醍醐味です。一緒に経験してみましょう。

到達目標

自ら設定したテーマを基にフィールドで資料を収集し、調査データを整理することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

夏休みなどを利用してフィールドワークを実施する。
調査地やテーマ、グループ編成と調査日程は前期の演習Ｉで決定する。

１　事前準備
地図やノート、カメラなど、調査の装備を調える

２　調査の実施
①現地の方々へのご挨拶
②調査地巡見
③話者へのアポ取り
④聞き書き、参与観察
⑤ノート整理、ミーティング、次回聞き書きの準備

テキスト・参考文献・資料など

参考文献については演習Ｉおよびフィールドワークの際に随時紹介する。

学びの手立て

調査では現地の方々に大切な時間を割いてもらいます。
話者に失礼のないように、入念な事前準備を心がけましょう。
ゼミやグループの仲間と協力しながら調査に取り組みましょう。

評価

フィールドワークに対する各自の取り組みならびに報告書の内容に基づいて評価する。
①事前学習・調査計画作成の取り組み（30%）
②現地における積極的な調査の取り組み（40%）
③調査ノートの整理、報告書の内容（30%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習Ｉ、演習Ⅱなど

※ポリシーとの関連性　フィールドワークを実践し、地域理解能力の向上を図る「実習科目　」　［　　／実験実習］

科目基本情報				
科目名 実習	期 別	曜日・時限	単 位
	集中	集中	2
担当者 藤波　潔	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室（5434）、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

この実習は、藤波担当の演習Ⅰの受講生を対象としていて、歴史研究に不可欠な史料の収集、読解、翻刻などの技能を修得することを目的としています。具体的には、戦後沖縄における学校教育の復興ををテーマとし、宜野湾をフィールドとして、当該事象に関する公文書類を収集するとともに、関係者への聞き取りとあわせて、報告書を作成する予定です。

メッセージ

夏季休業期間に史料収集と史料読解の２度に分けて、場合によっては合宿形式で作業を行う予定でいます。また、受講生をチームに分けて作業を進めていくので、他者との協調と自己責任をともに果たすことを求めます。加えて、後期にはゼミ以外の時間を利用して、翻刻作業を進める予定です。

到達目標

（１）史料所蔵機関において、史料を適切に収集することができる。
（２）収集した史料を整理・分類した上で、史料目録を適切に作成することができる。
（３）史料を正しく読解し、正確に翻刻することができる。
（４）他者と協力しながら作業を進めることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

（１）調査の準備
　・調査班の構成　　・調査史料のリスト化
（２）文献調査（宜野湾市史を活用した基礎的事実の確認）
（３）聴き取り調査（宜野湾市立博物館での事前学習における関係者からの聴き取り）
（４）史料調査
　①　史料収集（３日間を予定）
　　・史料所蔵施設において、史料の探索、撮影または複写
　　・収集した史料の目録作成
　　・収集した史料の整理、保存
　②　史料翻刻（５日間を予定）
　　・史料所蔵施設での史料の翻刻、データ化
　　・注釈を付す項目の抽出と脚注作成
（５）報告書の作成

以上の作業を実施しますが、予定している日数で作業が完了することはあり得ません。したがって、後期には各自の担当分を講義時間外で作業を行うとともに、演習Ⅰの時間に進捗状況を確認します。また、新型コロナウイルスの感染状況によって、日程や方法の変更があり得ますので連絡に従うようにしてください。

テキスト・参考文献・資料など

必要に応じて紹介します。

学びの手立て

①　集中講義形式で開講されるので、日程調整には協力してください。
②　史料読解に必要な工具類は、できるだけ自分で準備しておいてください。
③　史料データの入力のため、各自ＰＣを準備しておくことが望ましいです。

評価

到達目標（１）の評価：史料の収集状況（10%）
到達目標（２）の評価：史料目録の作成（20%）
到達目標（３）の評価：翻刻データの内容（30%）
到達目標（４）の評価：作業の取り組み姿勢（40%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

この授業は、演習Ⅰと密接に関連しています。
また、演習Ⅰと実習で修得した技能をいかして、4年次の演習Ⅱを通じて、個人で卒業論文を作成できるようにつなげてもらいたいと思います。

※ポリシーとの関連性　文献研究に加え、現場で得る知識の重要性を強調する社会文化学科カリキュラムの根幹となる科目　[　　／実験実習]

科目基本情報				
科目名 実習	期 別	曜日・時限	単 位
	集中	集中	2
担当者 石垣　直	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

社会文化学科における諸入門科目や概論、そして領域演習および演習Ⅰ（前期）で学んだ知識を基礎としながら、実際にフィールドワークを体験する。現場での経験を通じて、自らの手で情報を得ること、そしてコミュニケーション能力の重要性を学ぶ。

メッセージ

現代は、人類の歴史において最も情報が氾濫している時代である。しかし、マスメディアの発達は逆に私たち個々人が自身の力で身の回りの環境や人々から情報を入手する能力を減退させてきたようである。他者とのコミュニケーションを通じて情報を得ること、そして自身が行動することを通じてこそ「世界」は広がるのだという事実を体験・実感してほしい。

到達目標

演習Ⅰその他の講義・ゼミで学んだフィールドワークの方法を現場で実践し、自らの力で情報を記録・収集して、調査報告書や論文作成の前段階として調査データを整理することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

演習Ⅰ（前期）で学んだ内容を踏まえ、主として夏休みにフィールドワークを実施する。具体的には、テーマ＆対象別に組織する班に分かれ、参与観察およびインタビュー調査などを行う。

テキスト・参考文献・資料など

参考文献・資料については、演習Ⅰおよびフィールドワークの際に随時紹介する。

学びの手立て

沖縄各地の祭りやイベントなどに関心をもち、その内容を自身で調べてみよう。家族や友人を対象としてインタビュー調査の練習をするのも良いだろう。実際のフィールドワークに際しては、すでにどのような情報が公開されているのか、何をどう調査するのかを考え、調査項目の設定を行わなければならない。多様な他者と臨機応変にコミュニケーションが取れるよう、大学内外で普段から練習をしておく必要がある。

評価

フィールドワークに対する各自の取り組みならびに報告書の内容にも基づいて、総合的に判断する。
（平常点:50点、報告書内容：50点）

学びの継続

次のステージ・関連科目

領域演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ、沖縄文化入門、民俗学概論、文化人類学概論、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、琉球アジア文化論、文化人類学理論、etc.

※ポリシーとの関連性　フィールドワークを実践し、地域理解能力の向上を図る実習科目に当たる。　[　　／実験実習]

科目基本情報				
科目名 実習	期 別	曜日・時限	単 位
	集中	集中	2
担当者 深澤　秋人	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	水曜日２限のオフィスアワーに研究室（５４２２）で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

沖縄県公文書館岸秋正文庫所蔵の「稽古案文集」の閲覧と調査を通して、史料の収集・翻刻・読解・分析など歴史研究の基礎的能力を身につけることを目的とする。具体的には、近世琉球における首里王府の通達および王府への申請や請願の文書の様式、事象・地名・職名・物品名、事前の通達などの引用箇所、および文末のパターン化したフレーズや語句などを調査する。

メッセージ

【重要】「実習」での史料の閲覧を通じて、歴史を研究する者として、史料の原本には最善の注意と最大の敬意を払わなければならない意識を身につけてくれることを強く希望します。皆さんの姿勢や態度が後輩の学習環境にも影響を及ぼすことを自覚してください。

到達目標

・「稽古案文集」に収録された案文が首里王府の通達か王府への申請や請願なのかを判別できるようになる。
・王府の通達および王府への申請や請願における懸案、事前の通達の引用箇所、文末のパターン化したフレーズや語句を認識できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	事前学習１）：「実習」の内容の説明、「稽古案文集」の解題	到達目標を理解する
2	事前学習２）：活字化された「稽古案文集」の案文を読む①	案文を音読する
3	事前学習３）：活字化された「稽古案文集」の案文を読む②	案文を音読する
4	事前学習４）：沖縄県公文書館の見学、フィールドワーク①	問題意識を持って参加する
5	事前学習５）：沖縄県公文書館の見学、フィールドワーク②	問題意識を持って参加する
6	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査①	グループで情報を共有する
7	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査②	グループで情報を共有する
8	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査③	グループで情報を共有する
9	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査④	グループで情報を共有する
10	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査⑤	グループで情報を共有する
11	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成①	グループで問題点を共有する
12	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成②	グループで問題点を共有する
13	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成③	グループで問題点を共有する
14	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成④	グループで問題点を共有する
15	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成⑤	グループで問題点を共有する
16	調査報告書の完成原稿の提出	グループで推敲を重ねる

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】教科書は使用しません。事前学習では活字化された「稽古案文集」の翻刻文を配布します。
【参考文献】
・那覇市企画部文化振興課編『那覇市史 資料篇第１巻１１ 琉球資料（下）』（那覇市役所、１９９１年）

学びの手立て

・事前学習では、調査の目的・内容・計画を確認し、３～４人のグループを編成します。また、予行演習として活字化された「稽古案文集」の翻刻文を読み下します。沖縄県公文書館の見学も予定しています。
・沖縄県公文書館での調査では、グループのなかで調査項目を割り振るなどして分担して作業を行います。
・調査後は、グループごとに収集した情報を整理して共有化し、分析や検討の結果を反映させた調査報告書を作成します。
【重要】「稽古案文集」は字体はくずし字、文体は候文で記されています。内容を理解するためにはくずし字と候文に慣れ親しむ必要があります。いずれかを判読・読解できないとグループでの作業に積極的に関われず、役割や責任を果たせません。そのためにも「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」を確実に履修してください。必須です。

評価

閲覧と調査に取り組む姿勢（３０％）、グループへの貢献度合い（４０％）、情報の整理の仕方（３０％）によって総合的に評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

【重要】（月）２限の「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」を確実に履修してください。理由は学びの手立ての項目に記した通りです。

※ポリシーとの関連性　社会調査を実践し、地域理解能力の向上をはかる「実習科目」です。

［　　／実験実習］

科目基本情報				
科目名 実習	期 別	曜日・時限	単 位
	集中	集中	2
担当者 崎濱　佳代	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

本実習では、社会調査の基礎を習得したうえで、フィールドワークを中心に、質的調査と量的調査を必要に応じて組合せ、調査企画から報告書作成に至る社会調査の一連のプロセスを実践的に学んでいきます。

メッセージ

多様な他者への想像力をもち、沖縄で「現場」に学ぶ――この授業のキーフレーズです。社会調査の方法を実践的に学びながら、人間と社会との関係を多角的にとらえる「複眼的な知性」を育みましょう。

到達目標

①社会調査の基礎とルールをふまえ、調査の企画・設計から報告書の作成に至る社会調査の全過程を実践することができる。
②「演習Ⅰ」で共有した研究テーマを社会調査に基づいて実証的・論理的に探究することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

今年度のテーマは、「多文化社会と沖縄の社会学」です。

本授業では、社会調査の基礎を習得したうえで、フィールドワークを中心に、質的調査と量的調査を相互補完的に組合せ、調査の企画・設計から報告書作成に至る社会調査の一連のプロセスを実践的に学んでいきます。

本授業のキーフレーズ――多様な他者への想像力をもち、沖縄で「現場」に学ぶ――を共有し、沖縄をフィールドに、広く「多文化社会と沖縄」にかかわる社会のさまざまな問題群について、社会調査にもとづいて、その現代的課題を検討します。自らの関心にもとづいて研究課題を設定し、その課題についてジェンダー・エスニシティ・社会階層といった観点から、実証的に分析し、構造的な理解と論理的に伝える力をつちかいます。

調査の実施に先立ち、「演習Ⅰ」の授業と連動して、「多文化社会と沖縄」に関する社会学的なイシュー・概念・考え方をおさえ、テーマに関する先行研究を整理し基礎的知識を身に付けます。その後、社会調査に関する文献輪読を行い、受講生の関心を整理しつつ、サブ・テーマの設定とグループ分け、グループによる調査の企画・設計、問題の構造化（仮説・調査項目の設定）、対象者・訪問先の選定、インタビューガイドや調査票の作成、実査、収集データの集計・分析、報告書の作成まで、社会調査の一連のプロセスを実践します。

実査は2023年8月～9月を中心に、必要に応じて年度内に実施します。

テーマに応じて、沖縄県内の各種機関（NPO団体、教育機関、博物館・資料館、映画館、イベントなど）を訪問します。

テキスト・参考文献・資料など

授業時に適宜紹介します。

学びの手立て

①実習の研究テーマは、学生と担当教員で相談し最終決定します。
②研究テーマに関する知識・情報を増やし理解・思考を深めるために、文献調査や読解、事前調査を授業に合わせて主体的に行ってください。
③実習はグループワークを軸とします。受講生は、調査の企画・設計から実査、報告書作成までの社会調査の全過程に主体的・協力的に取り組むこと。他のゼミ生との共同作業であることを自覚し、協同性を磨きましょう。
④調査地域や対象者に不快感を与えないよう、調査倫理に則った節度ある行動をとるよう留意してください。

評価

調査の企画設計、調査票の作成、実査、中間報告、調査報告書の作成までの取組み（50%）、調査報告書の内容（50%）で評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

本実習は、社会文化学科・専門必修科目「演習Ⅰ」との連動科目です。

※ポリシーとの関連性　沖縄の遺跡を実地で発掘調査することで，過去の文化を探り，学ぶこと，協働の在り方を学ぶ。

［　　／実験実習］

科目基本情報				
科目名 実習	期 別	曜日・時限	単 位
	集中	集中	2
担当者 新里　貴之・宮城　弘樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	t.shinzato@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

①発掘調査の基礎的知識と実践方法を学ぶ。
②出土した遺物を整理する方法を学ぶ。
③発掘調査報告書の作成方法を学ぶ。

メッセージ

いよいよ考古・先史学ゼミの目玉，発掘調査です。自身の手で遺跡を掘りおこし，出てきたものを整理し，歴史の中に位置づけてください。

到達目標

①発掘調査の準備から調査，記録方法を理解することができる。
②出土した遺物の整理方法，分類，図化，写真撮影をすることができる。
③遺構・遺物の記述方法を理解することができる。
④発掘調査報告書を作成することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

１）実習は夏休み前半の２週間実施する。

２）調査器材の選別，準備，梱包，搬入

３）調査（踏査・発掘・測量・実測・写真撮影・記録）
①遺跡周辺の踏査，発掘予定地周辺の清掃
②調査予定地における調査区設定，遺跡周辺の測量
③発掘（堆積層の掘り下げ），遺構確認，遺物出土状況確認，実測，写真撮影，調査メモ
④ミーティング時に調査日誌執筆，調査成果報告・共有，予定確認
⑤遺物洗浄，分類
⑥調査区養生，埋め戻し

４）調査器材の洗浄，片付け，梱包，搬出，清掃

５）遺物注記，図面整理，遺物集計

６）実測・トレース

７）概報作成

テキスト・参考文献・資料など

１）テキスト：なし。
２）参考文献：文化庁記念物課『発掘調査の手引き』同成社（2010年）。

学びの手立て

１）全日程参加原則。
２）考古学はモノがら歴史を学ぶ学問である。遺物の取り扱いに細心の注意を払うだけでなく，器材・道具類の大事に扱うことを学ぶ。
３）発掘調査報告書を作成するため，専門用語・知識の理解が必要である。参考となる発掘調査報告書に目配りすること。

評価

調査組織のなかにおける自分の作業を理解することが重要。常に先の作業を見据えた目配りが重要。

調査に対する姿勢80％,調査日誌20％とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

遺跡を理解するには，多様な視点が必須となる。遺跡にどうやって痕跡やモノが残されたかを知るためには，ただ掘り出すだけでは理解が得られない。社会文化学科の専門科目を広く受講することが望ましい。

※ポリシーとの関連性　現代社会および現代の都市社会を解読し、社会学の基礎理論を補強する周辺領域として学ぶ。

[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 都市社会学	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火４	2
担当者 桃原　一彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後またはメール等で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

都市社会学は「都市（化）」という現象を社会学的に解読する学問である。都市の社会構造、空間構造が、私たちの生活、社会関係、心的性向とどのように関係しているのかについて理解する。

メッセージ

社会学の基礎概念「行為」と「構造」の関係を、都市空間や都市社会に応用して、現代社会を解読してみよう。講義では、都市に生きる人々の生活や心的性向を具体的に理解する素材として、映画作品や音楽作品も取り入れます。

到達目標

古典的都市社会学の理論と概念、Black Sociologyの基本的な視点、日本における都市社会学の系譜、テーマ化された都市空間や「ジェントリフィケーション」の問題および「サード・プレイス」の可能性を考える知見を身につける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	都市社会学への招待：近代都市と近代国家の関係性	近代都市誕生の歴史を調べる
2	アメリカ合衆国における資本主義の展開と人種化された都市の様相	身近なグローバル資本の探索
3	シカゴ学派都市社会学理論：形式社会学と人間生態学	ジンメルの基本概念の復習
4	バージェスの都市空間論とワースのアーバニズム論	身近な都市的生活様式の探索
5	Black Sociologyの展開とその特徴	学問と差別の構造的な関係の探索
6	Black Sociologyの可能性と今日的課題	マイノリティの文化論的実践の探索
7	中間ミニ課題について：古典的都市社会またはBlack Sociologyに関する課題	資料収集への取り組み
8	日本における都市社会学の展開①：「結節機関」「正常人口の正常生活」「第三の空間」	古典的概念を応用した課題の探索
9	日本における都市社会学の展開②：都市コミュニティ、「世界都市論」、都市エスニシティ	身近な「グローカル化」の探索
10	日本における都市社会学の展開③：新都市社会学と「ジェントリフィケーション」の視点	身近な格差と社会的孤立の探索
11	テーマ化された都市①：近代都市の博覧会から現代のテーマパークまで	スペクタクル空間の系譜を考える
12	テーマ化された都市②：郊外開発とショッピングモールの社会的側面	ショッピングモールの特徴を調べる
13	テーマ化された都市③：「気散じ」「身散じ」、「儀礼的無関心」、アフォーダンス	テーマ化された空間の心身を考える
14	都市における「サード・プレイス」の可能性と課題	具体的な場を考える
15	都市社会学のまとめと期末課題について	講義プリントのふりかえり
16	予備日	期末課題の作成

テキスト・参考文献・資料など

テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。

学びの手立て

リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」（ジェネリック・スキル）を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」（高度かつ適切な情報収集と処理能力）となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。

評価

講義への取り組みやリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、中間ミニ課題レポートが30点、期末レポート課題が50点という構成で総合し評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：専門演習、卒業演習

都市社会学で学んだ知識や視点をいかして、社会調査や卒業研究につなげる。

※ポリシーとの関連性　南島地域の歴史時代の考古学研究を学ぶ。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島考古学Ⅰ	前期	木３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城　弘樹	２年	問合せ先は E-Mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備

ねらい

考古学とはどのような学問なのか、また基本的な出土遺物や遺構についてどのようなものがあるかについて理解し、南島地域の考古学研究の概略、特に報告書が読解でき、自ら報告書を読み込んだ上で歴史に迫る方法を培う。

メッセージ

地下から発掘される遺構に触れ、歴史を探る手立ての方法について学んでください。

到達目標

①グスク時代における生活文化を知ることができる。
②グスク時代の研究方法を認識することができる。
③発掘調査報告書や論文を用いて、自ら調べることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	配布資料の精読
2	白磁の分類と編年	配布資料の精読
3	青磁の分類と編年	配布資料の精読
4	染付（青花）の分類と編年	配布資料の精読
5	東南アジアの陶磁器	配布資料の精読
6	銭貨の分類と研究意義	配布資料の精読
7	金属製品の種類と取り扱い	配布資料の精読
8	報告書と論文を読む①（喜界島城久遺跡群）	配布資料の精読
9	報告書と論文を読む②（カムィヤキ窯跡）	配布資料の精読
10	報告書と論文を読む③（後兼久原遺跡と小堀原遺跡）	配布資料の精読
11	報告書と論文を読む④（今帰仁城跡周辺遺跡）	配布資料の精読
12	報告書と論文を読む⑤（首里城跡正殿）	配布資料の精読
13	報告書と論文を読む⑥（首里城跡【罹災遺物】）	配布資料の精読
14	報告書と論文を読む⑦（城の防御施設）	配布資料の精読
15	報告書と論文を読む⑧（宮古・八重山諸島の遺跡）	配布資料の精読
16	期末レポート	提出

テキスト・参考文献・資料など

テキストの指定はない。毎回資料を配布する。

学びの手立て

本講義の出欠は授業終わりにGoogleフォームを用いて行う。各自携帯等でアクセスして行うため、これに対応するように準備すること。出欠確認はGoogleフォームを用いた小テストで毎回厳格に行う。

評価

小テスト50%、期末レポート50%。
※出席状況については、無断欠席５回以上になると「不可」とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

継続学習や発展のため、南島考古学Ⅱ（後期）を受講することを推奨する。また、関連するアジア考古学、南島先史学Ⅰ・Ⅱの受講を勧める。
考古学のより深い知識と実践方法を学ぶため、個別のテーマを深く探求してください。また近接する他領域についても、関連付け受講して下さい。

※ポリシーとの関連性　南島地域の歴史時代の考古学研究を学ぶ。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島考古学Ⅱ	後期	木３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城　弘樹	２年	問合せ先は E-Mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備

ねらい

考古学とはどのような学問なのか、また基本的な出土遺物や遺構についてどのようなものがあるかについて理解し、南島地域の考古学研究の概略、特に隣接する学問分野との連携研究の実情を知る。

メッセージ

地下から発掘される遺構に触れ、歴史を探る手立ての方法について学んでください。

到達目標

①琉球王国時代および近代沖縄における生活文化を知ることができる。
②琉球王国時代および近代沖縄の考古学研究方法を認識することができる。
③考古学の論文に限らず隣接分野の研究を参照し、遺跡や遺物について自ら調べることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス（歴史考古学について）	シラバスの精読
2	集落遺跡の発掘と集落地理	配布資料の精読
3	発掘墓と民俗調査	配布資料の精読
4	紀年銘資料を用いた遺物の年代比定	配布資料の精読
5	琉球陶器の生産と伝存する工芸資料	配布資料の精読
6	肥前陶磁の流通と宮古式土器の流通	配布資料の精読
7	戦前に撮影された写真と発掘遺構	配布資料の精読
8	出土毛髪と髪結い	配布資料の精読
9	ローマコインとその由来の解釈	配布資料の精読
10	出土自然遺物（骨や貝）と文献資料	配布資料の精読
11	発掘された明和の大津波の痕跡	配布資料の精読
12	石切場跡の調査研究	配布資料の精読
13	砥部焼の流通と生産	配布資料の精読
14	証言と発掘	配布資料の精読
15	工業製品の型式学	配布資料の精読
16	期末レポート	提出

テキスト・参考文献・資料など

テキストの指定はない。毎回資料を配布する。

学びの手立て

本講義の出欠は授業終わりにGoogleフォームを用いて行う。各自携帯等でアクセスして行うため、これに対応す

評価

小テスト50%、期末レポート50%。
※出席状況については、無断欠席５回以上になると「不可」とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

継続学習や発展のため、南島考古学Ⅰ（前期）を受講することを推奨する。また、関連するアジア考古学、南島先史学Ⅰ・Ⅱの受講を勧める。
考古学のより深い知識と実践方法を学ぶため、個別のテーマを深く探求してください。また近接する他領域についても、関連付け受講して下さい。

※ポリシーとの関連性　南島社会の特質を理解する。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島社会学	後期	金３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川　朋子	２年	講義終了後に受け付けます。	

学びの準備

ねらい

「南島社会」を論じるには、さまざまな視点から分析することが、可能であるが、本講義では、「戦争」「日本復帰」「米軍基地」「郷友会社会」「出稼ぎ・移民」等のキーワードから、「南島社会」を考える。

メッセージ

「南島社会」の特質を学び理解することで、社会のあり方、問題解決について考え、取り組むきっかけになることを期待したい。

到達目標

沖縄社会の特質、歴史的経緯を学ぶと同時に、現在の課題について理解を深め、問題解決に向けた思考を習得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義ガイダンス、登録確認	配布資料の精読
2	「南島」とは	配布資料、参考文献を精読する
3	模合と南島社会　1	配布資料、参考文献を精読する
4	模合と南島社会　2	配布資料、参考文献を精読する
5	テストまたはレポート	復習する
6	「復帰」と沖縄　1	配布資料、参考文献を精読する
7	「復帰」と沖縄　2	配布資料、参考文献を精読する
8	テストまたはレポート	復習する
9	米軍基地と沖縄　1	配布資料、参考文献を精読する
10	米軍基地と沖縄　2	配布資料、参考文献を精読する
11	テストまたはレポート	復習する
12	郷友会社会と沖縄　1	配布資料、参考文献を精読する
13	郷友会社会と沖縄　2	配布資料、参考文献を精読する
14	死亡広告にみる沖縄社会	配布資料、参考文献を精読する
15	出稼ぎ・移民と沖縄	配布資料、参考文献を精読する
16	予備・テストまたはレポート	復習する

テキスト・参考文献・資料など

特定のテキストは指定せず、必要な資料を配付し、関連する文献を紹介する。

学びの手立て

講義内容に関連する参考文献を探索し、必要な知見を積極的に吸収していくことが重要である。

評価

講義でのリアクションペーパー(40%)により、出席・講義理解状況を把握し、レポート、テスト等(60%)で総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会・平和領域の専門科目

※ポリシーとの関連性　沖縄を含めた無文字時代の先史文化を学び，異なる系譜を持つ南部島嶼についても深く学び知識を習得することを意図する。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島先史学Ⅰ	前期	水４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新里　貴之	２年	t.shinzato@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

考古学とはどのような学問なのか，基本的な概念と研究方法を理解し，南島先史学の概略，南島地域社会の考古学の実情を知る。

メッセージ

沖縄文化の系譜を知るうえで避けては通れない近隣の地域社会を知ってください。

到達目標

１）考古学とはどのような学問なのかを理解できる。
２）考古学の基本概念と調査・研究法を理解できる。
３）南島先史学の基礎を知る。
４）沖縄の近隣に位置する島嶼部の先史時代の概略を知ることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスの精読
2	南島先史学とは	配布資料の精読
3	奄美諸島の旧石器文化	配布資料の精読
4	奄美諸島の貝塚文化前期（１）	配布資料の精読
5	奄美諸島の貝塚文化前期（２）	配布資料の精読
6	奄美諸島の貝塚文化後期（１）	配布資料の精読
7	奄美諸島の貝塚文化後期（２）	配布資料の精読
8	沖縄諸島の旧石器文化	配布資料の精読
9	沖縄諸島の貝塚文化前期（１）	配布資料の精読
10	沖縄諸島の貝塚文化前期（２）	配布資料の精読
11	沖縄諸島の貝塚文化後期（１）	配布資料の精読
12	沖縄諸島の貝塚文化後期（２）	配布資料の精読
13	宮古・八重山諸島の旧石器文化	配布資料の精読
14	宮古・八重山諸島の新石器文化前期	課題に取り組む
15	宮古・八重山諸島の新石器文化後期	課題に取り組む
16	レポート	提出

テキスト・参考文献・資料など

１）テキスト：なし
２）講義資料：毎回資料を配布
３）参考文献：沖縄考古学会2018『南島考古入門』ボーダーインク、宮城弘樹2022『琉球の考古学』敬文社など

学びの手立て

①「履修の心構え」
受講時の不必要な私語は認めない。
出欠確認については，毎回厳格に実施する（遅刻・欠席は事前の[直前ではない]連絡が必要）。
対話方式の講義の進め方も採用するため，積極的発言を期待したい。

②「学びを深めるために」
専門科目であるため，専門用語の理解が必要である。講義後30分以上の復習を勧める。

評価

１）レポート結果（第16回：70%）と平常点（第１～15回のリアクションペーパー：30%）を加えて総合的に成績評価する。
２）無断欠席５回以上は「不可」とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

１）関連科目：継続学習やその発展のため，アジア考古学，南島考古学Ⅰ，南島考古学Ⅱ（後期），南島先史学Ⅱ（後期）の受講を勧める。
２）次のステージ：考古学のより深い知識と実践法を学ぶため，３年次以降の個別テーマを掘り下げて深く学ぶ他領域を含めた関連講義を受講して下さい。

※ポリシーとの関連性　沖縄を含めた無文字時代の先史文化を掘り下げて深く学ぶことを意図する。

[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 南島先史学Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水４	2
担当者 新里　貴之	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	t.shinzato@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

考古学とはどのような学問なのか，基本的な概念と研究方法を理解し，南島先史学の基礎である土器編年の実情を知る。

メッセージ

考古・先史学専攻生は必須であり，専門性が高いです。

到達目標

１）考古学とはどのような学問なのかを理解できる。
２）考古学の基本概念と調査・研究法を理解できる。
３）南島先史学の土器編年の基礎を知る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスの精読
2	沖縄の土器編年・貝塚時代前１期/爪形文系	配布資料の精読
3	沖縄の土器編年・貝塚時代前２期/条痕文系	配布資料の精読
4	沖縄の土器編年・貝塚時代前３期/隆帯文系	配布資料の精読
5	沖縄の土器編年・貝塚時代前４期（１）/沈線文系	配布資料の精読
6	沖縄の土器編年・貝塚時代前４期（２）/籠目文系	配布資料の精読
7	沖縄の土器編年・貝塚時代前４期（３）/点刻線文系	配布資料の精読
8	沖縄の土器編年・貝塚時代前５期（１）/肥厚口縁系	配布資料の精読
9	沖縄の土器編年・貝塚時代前５期（２）/無文尖底系	配布資料の精読
10	沖縄の土器編年・貝塚時代後１期（１）/無文尖底系	配布資料の精読
11	沖縄の土器編年・貝塚時代後１期（２）/無文尖底系	配布資料の精読
12	沖縄の土器編年・貝塚時代後２期/くびれ平底系	配布資料の精読
13	特・沖縄の土器編年・貝塚時代前１期以前の土器	配布資料の精読
14	宮古・八重山諸島の新石器文化前期/下田原系	配布資料の精読
15	宮古・八重山諸島の新石器文化後期/貝斧・石斧系	課題に取り組む
16	課題	課題に取り組む，提出

テキスト・参考文献・資料など

１）テキスト：なし
２）講義資料：毎回資料を配布
３）参考文献：沖縄考古学会2018『南島考古入門』ボーダーインク、宮城弘樹2022『琉球の考古学』敬文社など

学びの手立て

①「履修の心構え」
受講時の不必要な私語は認めない。
出欠確認については，毎回厳格に実施する（遅刻・欠席は事前の[直前ではない]連絡が必要）。
対話方式の講義の進め方も採用するため，積極的発言を期待したい。

②「学びを深めるために」
専門科目であるため，専門用語の理解が必要である。講義後30分以上の復習を勧める。

評価

１）試験結果（第16回：70%）と平常点（第１～15回のリアクションペーパー：30%）を加えて総合的に成績評価する。
２）無断欠席５回以上は「不可」とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

１）関連科目：継続学習やその発展のため，考古学特講Ⅱ，南島考古学Ⅱの受講を勧める。
２）次のステージ：考古学のより深い知識と実践法を学ぶため，３年次以降の個別テーマを掘り下げて深く学ぶ他領域を含めた関連講義を受講して下さい。

※ポリシーとの関連性　発展科目に位置づけられ、沖縄民俗文化・社会の深い理解が目指される

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島民俗学史Ⅰ	前期	水４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	阿利　よし乃	２年	①講義終了後に教室で ②E-mail：y.ari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本科目は社会文化学科の発展科目、教職課程の選択科目に位置づけられています。この科目では南島の民俗や社会について各回でテーマを設けて具体的な事例をあげながら考えていきます。それを通じて南島の文化の特徴を捉えます。

メッセージ

沖縄の民俗文化とはどのような特徴・性格を具えているのか、またそれは何故なのか、ということを考えていきます。我々が「当たり前」だと思っている生活文化のそれぞれに、様々な背景があることを感じ取ってほしいと思います。

到達目標

沖縄の民俗文化・社会について理解し、自分の身の回りのことについて自分なりに説明ができるようになることを目標とします。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス／南島とは、民俗学とは	復習、課題に取り組む
2	ムラ（村落）、ヤー（家）	復習、課題に取り組む
3	ムラの聖地	復習、課題に取り組む
4	女性祭司（ノロ・ニーガン・ツカサ）	復習、課題に取り組む
5	年中行事	復習、課題に取り組む
6	来訪神	復習、課題に取り組む
7	恋愛と婚姻	復習、課題に取り組む
8	人生儀礼	復習、課題に取り組む
9	門中	復習、課題に取り組む
10	人の葬り方と墓	復習、課題に取り組む
11	位牌の継承	復習、課題に取り組む
12	エイサーとアンガマ	復習、課題に取り組む
13	霊的職能者	復習、課題に取り組む
14	民俗と民具	復習、課題に取り組む
15	現代民俗学とヴァナキュラー、まとめ	レポート課題
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストの指定はありません。
毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布します。
参考文献については、授業の中で適宜紹介します。

学びの手立て

①履修の心構え
・毎回出席をとります。遅刻は減点します。
・私語や周囲に迷惑をかける行為は厳禁とします。
・各回で課題を出題します。この課題は評価の30％を占めています。積極的に課題に取り組みましょう。
②学びを深めるために
・自身の日常生活を民俗学の視点から捉えてみましょう。
・日常的に新聞を読むことを習慣にしてください。とくに県内紙の地域面には、たくさんの民俗事象が記されています。

評価

①参加姿勢30％（期限を守って各回の課題を提出しているか、積極的に各回の課題に取り組んでいるか）
②小課題の取り組み30％（期限を守って小課題を提出しているか、積極的に小課題に取り組んでいるか、授業の理解度）
③期末レポート40％（期限を守って小課題を提出しているか、積極的にレポートに取り組んでいるか、授業の理解度）

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目
南島民俗学Ⅰ、南島民俗学Ⅱ、南島民俗学史Ⅱ
沖縄の民俗を理解するためには、文化人類学の視点を踏まえることも大切です。人類学の講義を受講することを勧めます。

※ポリシーとの関連性　南島地域に関する基礎知識を養います。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島民俗学史Ⅱ	後期	火２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-城間　義勝	２年	ptt200@okiu.ac.jp、または講義終了後に教室で受付ます。	

学びの準備

ねらい

本講義では、県内の民俗史の発刊状況やフィールドワーク（民俗調査）における視点や調査方法、報告書の作成方法について解説していきます。また、沖縄本島南部の一村落を具体的に取り上げ、そこに住む人々の生活様式を民俗学的な視点から紹介します。これをきっかけに南島地域における民俗史や民俗事象に興味を持ち、これらに関する基礎知識を身につけることを目的とします。

メッセージ

この講義では、民俗事象を「戦前」「戦後」「現在」という時間の流れのなかで考えていきます。私たちの生活で「当たり前」だと思っていることを違う視点から見ることの大切さを知っていただきたいと思います。受講する際は、みなさが住んでいる地域や家庭と比較しながらお聞きください。

到達目標

民俗学的な視点をもって一村落を理解し、自らフィールドワークを行い、報告書を作成することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	民俗学とは何か調べる
2	県内の民俗史発刊状況とその項目	県史・市町村史・字誌を読む
3	民俗調査と報告書作成について	民俗調査の方法について調べる
4	村落概要①	市町村概要について調べる
5	村落概要②	村落概要について調べる
6	社会組織①	自治会について調べる
7	社会組織②	共有施設などについて調べる
8	生業①	農業について調べる
9	生業②	畜産と漁業、商業について調べる
10	衣	衣について調べる
11	食	食について調べる
12	住	住について調べる
13	祭祀と信仰①	祭祀組織について調べる
14	祭祀と信仰②	聖地・拝所について調べる
15	人生儀礼①	出産～婚姻について調べる
16	人生儀礼②、まとめ	葬制について調べる

テキスト・参考文献・資料など

テキストはありません。講義でレジュメや資料を配布します。
参考図書は講義毎に随時紹介します。

学びの手立て

①履修の心構え
パワーポイントを使って、写真・地図などを見ながら講義を行いますので、私語は謹んで下さい。
就職活動や課外活動で欠席する場合は、欠席届を提出して下さい。
受講後に疑問・質問があれば、口頭またはメールで質問して下さい。
②学びを深めるために
受講内容を両親・祖父母・おじおばに聞くと理解が一層深まります。

評価

評価方法と配分割合
講義参加度（60%）、期末レポート（40%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

①関連科目
沖縄の民俗・沖縄の社会・沖縄の宗教・南島民俗学Ⅲ・南島民俗学Ⅳ
②次のステージ
興味・関心があるテーマを１つに絞り、フィールドワークを実施し、分析・考察を行う。

※ポリシーとの関連性　発展科目に位置づけられ、沖縄民俗文化についてのより深い理解を得ることが目指される。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島民俗学Ⅰ	前期	金４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平　盛晃	２年	ptt705@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

沖縄の民俗文化研究において重要な役割を果たした研究者を取りあげ、その生涯と学問の展開を時代的な背景を考慮しながら追い、その代表的な論文にふれる。そうした作業を通じて、沖縄の民俗文化研究の本質へ接近したい。

メッセージ

先人たちの研究方法と焦点を当てられた沖縄の様々な民俗文化を具体的、かつ幅広く取り上げ、その実態の把握を目指す。それを通して、受講生自身に共通する文化や異質な文化から、自分自身を見つめ直す機会としてもらいたいと思います。

到達目標

南島民俗学における先行研究の歴史の理解と、現代と未来に残された課題の把握。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	沖縄民俗研究史概要(1)－マジョリティとマイノリティの歴史－	配布資料の予習／復習
2	〃　(2)－民俗の現状を通時的に捉える姿勢－	〃
3	柳田国男(1)－民俗文化が発生し・伝播し・盛衰するということ－	配布資料の予習／復習
4	〃　(2)－バリエーションの中の普遍性と特異性－	〃
5	伊波普猷(1)－方言の地域的特徴と意味－	配布資料の予習／復習
6	〃　(2)－日本人と琉球人とは－	〃
7	比嘉春潮(1)－故郷を内省しつむぐこと－	配布資料の予習／復習
8	〃　(2)－研究者の生い立ちと研究対象の相関性－	〃
9	東恩納寛惇	配布資料の予習／復習
10	金城朝永	配布資料の予習／復習
11	仲原善忠	配布資料の予習／復習
12	佐喜真興英	配布資料の予習／復習
13	小野重朗	配布資料の予習／復習
14	仲松弥秀	配布資料の予習／復習
15	上江洲均	配布資料の予習／復習
16		

テキスト・参考文献・資料など

毎回配布するレジュメに沿って、スライド（写真、映像）を用いながら行う。

学びの手立て

履修上の心構え
・毎回、出席を確認する。やむを得ず欠席する場合は、欠席届を提出すること。
・配布した資料を次週も使用する場合は指示するので、持参すること。

評価

授業参加度・平常点（40%）、課題（60%）によって総合的に評価する。
※出席率が3分の2未満の場合は評価の対象外となります。

学びの継続

次のステージ・関連科目

南島民俗学Ⅱ、南島の民俗社会Ⅰ、南島の民俗社会Ⅱ

※ポリシーとの関連性　発展科目に位置づけられ、沖縄民俗文化・社会のより深い理解が目指される　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 南島民俗学Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水４	2
担当者 阿利　よし乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	①講義終了後に教室で ②E-mail：y.ari@okiu.ac.jp①	

学びの準備

ねらい

本科目では南島の民俗の基本的事項を踏まえたうえで、それらの研究動向について理論とともに解説します。近年の民俗研究の流れを理解することで、卒業論文をはじめとした自らの課題を設定するための手がかりを得ることができます。

メッセージ

民俗学は伝統的な暮らしを調べるだけではなく、人々の生活の移り変わりの歴史や生き方を捉える学問です。現代の事例や自身の日常生活に即して民俗文化について考えていきましょう。

到達目標

民俗学の近年の研究動向を理論と関連づけて理解できる。
身近な民俗事象を説明できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	復習、課題に取り組む
2	柳宗悦と方言論争－民俗文化の見方、捉え方	復習、課題に取り組む
3	村落①福田アジオ「沖縄本島村落における近隣組織」を読む	復習、課題に取り組む
4	村落②福田アジオ「沖縄本島村落における近隣組織」を読む	復習、課題に取り組む
5	共同労働	復習、課題に取り組む
6	社会構造①	復習、課題に取り組む
7	社会構造②	復習、課題に取り組む
8	ノロとユタ①桜井徳太郎「沖縄民俗宗教の核－ノロイズムとユタイズム－」を読む	復習、課題に取り組む
9	ノロとユタ②桜井徳太郎「沖縄民俗宗教の核－ノロイズムとユタイズム－」を読む	復習、課題に取り組む
10	民間巫者①津波高志「祭祀組織の変化と民間巫者」を読む	復習、課題に取り組む
11	民間巫者②津波高志「祭祀組織の変化と民間巫者」を読む	復習、課題に取り組む
12	観光と民俗①	復習、課題に取り組む
13	観光と民俗②	復習、課題に取り組む
14	民具と博物館	復習、課題に取り組む
15	まとめ	レポート課題
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストの指定はありません。
毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布します。
参考文献については、授業の中で適宜紹介します。

学びの手立て

①履修の心構え
・毎回出席をとります。遅刻は減点します。
・私語や周囲に迷惑をかける行為は厳禁とします。
・各回で課題を出題します。この課題は評価の30％を占めています。積極的に課題に取り組みましょう。
②学びを深めるために
・自身の日常生活を民俗学の視点から捉えてみましょう。
・日常的に新聞を読むことを習慣にしてください。とくに県内紙の地域面には、たくさんの民俗事象が記されています。

評価

①参加姿勢30％（期限を守って各回の課題を提出しているか、積極的に各回の課題に取り組んでいるか）
②小課題の取り組み30％（期限を守って小課題を提出しているか、積極的に小課題に取り組んでいるか、授業の理解度）
③期末レポート40％（期限を守って小課題を提出しているか、積極的にレポートに取り組んでいるか、授業の理解度）

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目
南島民俗学Ⅰ、南島民俗学Ⅲ、南島民俗学Ⅳ、南島民俗学史Ⅱ
沖縄の民俗を理解するためには、文化人類学の視点を踏まえることも大切です。人類学の講義を受講することを勧めます。

※ポリシーとの関連性　民俗学分野の個別テーマについて深く学ぶための発展科目に位置づけられる　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島民俗学Ⅲ	前期	水２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高江洲　敦子	２年	ptt202@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では御嶽信仰・家の守護神・巡拝習俗などを取り上げ、南島地域の民俗信仰について学び、廃れつつある地域の信仰習俗に対して興味や、関心を持つ契機となる講義を目指す。

メッセージ

社会文化学科及び、民俗学を専攻する学生のみならず、他学科の学生も歓迎します。この講義を通して、沖縄の文化や信仰習俗などに興味を持ってくれることを望みます。

到達目標

南島地域は、日本本土や東アジア及び東南アジアなどとの交流の中でさまざまな文化の影響を受けてきた。本講義では、特に日本本土や中国大陸の文化とのかかわりをも考慮しながら講義を進め、南島地域における民俗信仰の態様や独自性について理解を深める。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス（講義内容や参考文献紹介）	
2	神道と御嶽信仰①神社の種類	翌週との関連論文を精読すること。
3	神道と御嶽信仰②神社の構造	翌週との関連論文を精読すること。
4	神道と御嶽信仰③神社祭祀の事例	翌週との関連論文を精読すること。
5	神道と御嶽信仰④御嶽信仰の概要	翌週との関連論文を精読すること。
6	神社と御嶽信仰⑤御嶽の構造	翌週との関連論文を精読すること。
7	神社と御嶽信仰⑥司祭者	前半の講義内容を整理しておく。
8	前半まとめ（中間試験）	翌週との関連論文を精読すること。
9	家の守護神①竈神の概要（名称・分布など）	翌週との関連論文を精読すること。
10	家の守護神②沖縄の火の神（神体・性格・司祭者など）	翌週との関連論文を精読すること。
11	家の守護神③屋敷神・便所の神	翌週との関連論文を精読すること。
12	家で祀る福神①七福神	翌週との関連論文を精読すること。
13	家で祀る福神②福禄寿・関帝・観音	翌週との関連論文を精読すること。
14	巡拝習俗①西国三十三ヵ所	翌週との関連論文を精読すること。
15	巡拝習俗②首里の十二ヵ所	後半の講義内容を整理しておく。
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは特に指定しない。
・参考文献は講義時に配付するレジュメに明記して紹介する。

学びの手立て

・毎回出席確認を行う。やむを得ず欠席した場合は、翌週に届けを提出すること。

評価

・中間試験（40点）
・期末試験（40点）
・毎回提出のリアクションペーパーと授業への取り組み姿勢（20点）

学びの継続

次のステージ・関連科目

・2年生には、講義で学んだ知識を実習の際に活かしてもらいたい。
・卒業論文（特に南島民俗学専攻）のテーマにつながれば嬉しいです。

※ポリシーとの関連性　民俗学分野の個別テーマについて深く学ぶための発展科目に位置づけられる　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 南島民俗学Ⅳ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水２	2
担当者 -高江洲　敦子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	ptt202@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、伝統的な沖縄の村落や家屋をはじめ、沖縄らしさを醸し出しているという魔除けの石敢當や屋根獅子、ヒンプンなどが実は中国由来の風水思想と関連していることを学ぶ。

メッセージ

社会文化学科及び、民俗学を専攻する学生のみならず、他学科の学生も歓迎します。この講義を通して、沖縄の文化や習俗に興味を持ってくれることを望みます。

到達目標

講義前半で風水思想の基本的原理について学んだ後、沖縄への導入の経緯や琉球王府の政策と風水思想、さらに民俗に根づいた風水思想について講義を進め、外来由来の風水思想の受容と変容について理解を深める。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス（登録確認・授業内容紹介）	
2	風水思想の原理①「気」・「蔵風得水」・「風水のモデル」	翌週に関連する論文を精読する。
3	風水思想の原理②山と水の対立と融合	翌週に関連する論文を精読する。
4	沖縄への風水思想の導入経緯	翌週に関連する論文を精読する。
5	琉球王府と風水思想	翌週に関連する論文を精読する。
6	風水師（見）	翌週に関連する論文を精読する。
7	民俗に根づいた風水思想①陽宅風水	翌週に関連する論文を精読する。
8	民俗に根づいた風水思想②陰宅風水	前半の講義内容を整理しておく。
9	前半まとめ（中間試験）	翌週に関連する論文を精読する。
10	魔除け（俗信）①石敢當	翌週に関連する論文を精読する。
11	魔除け（俗信）②獅子像	翌週に関連する論文を精読する。
12	魔除け（俗信）③紫微鑾駕	翌週に関連する論文を精読する。
13	魔除け（俗信）④符札	翌週に関連する論文を精読する。
14	魔除け（俗信）⑤植物・貝類	翌週に関連する論文を精読する。
15	魔除け（俗信）⑥その他の呪具	後半の講義内容を整理しておく。
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

・テキスト：特に指定しない。
・参考文献：毎回配付のレジュメに随時明記する。

学びの手立て

・毎回提出のリアクションペーパーをもって出席とみなす。
・欠席した場合は、翌週に届けを提出すること。

評価

・中間試験（40点）
・期末試験（40点）
・リアクションペーパーと講義への取り組み姿勢（20点）

学びの継続

次のステージ・関連科目

・南島民俗学専攻の学生には、卒業論文のテーマにつなげてもらえたら嬉しいです。
・2年生には、講義で学んだ知識を実習の際に活かしてもらいたい。

※ポリシーとの関連性　近現代を中心とした日本の歴史についての基礎的知識を習得し、琉球・沖縄を含めた東アジアの歴史との比較を行う。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 日本史概論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水２	2
担当者 市川　智生	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	t.ichikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

①日本の幕末・明治期から戦後占領期までを対象とし、この科目では警察の歴史と教育の歴史を扱う。
②近代史および現代史の理解が特定の見方に偏ることのないよう、多様な価値観を尊重し、最新の研究成果に基づく説明を行う。
③琉球・沖縄史については、各回の内容に関連する事例を紹介し、沖縄社会の位置づけについて考える契機とする。

メッセージ

みなさんが生活する琉球・沖縄の歴史を学ぶ際には、日本の歴史を知っておく必要があります。この講義では近代・現代を中心に、写真、絵画、図表などを多用して、視覚的にわかりやすい内容とします。公文書館、博物館、図書館などで興味を持った事柄を調べてみることで、ここで学習した内容がより豊かになります。

到達目標

①日本の通史を、近代・現代を中心に理解し、現在の政治・経済・社会にどのようにつながっているのかを認識できるようになる。
②日本における政治・外交の歴史的展開について、常に国際的視野に基づいて考えることができるようになる。
③琉球・沖縄社会の歴史的変遷を、日本および周辺諸国・地域との関係から理解できる。
④近代・現代の日本の歴史がどのような史料をもとに語られているのかを理解する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	開講ガイダンス	事前にシラバスを熟読のこと。
2	警察の歴史①：行政警察	配布資料の読解、参考文献の確認。
3	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
4	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
5	警察の歴史②：思想警察	配布資料の読解、参考文献の確認。
6	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
7	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
8	講義のテーマに関連する映像作品の視聴	配布資料の読解、参考文献の確認。
9	教育の歴史①：初等教育	配布資料の読解、参考文献の確認。
10	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
11	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
12	教育の歴史②：高等教育	配布資料の読解、参考文献の確認。
13	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
14	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
15	まとめ	前期分の復習
16	試験もしくはレポート	前期分の復習

テキスト・参考文献・資料など

特定の教科書は使用しない。全体にわたる参考文献は次の通り。（各論については講義で紹介する。）
・大日方純夫『警察の社会史』（岩波新書)岩波書店、1993年
・荻野富士夫『特高警察』（岩波新書）岩波書店、2012年
・大門正克『民衆の教育経験：農村と都市の子ども』青木書店、2000年（岩波現代文庫として2019年に再版）
・竹内洋『学歴貴族の栄光と挫折』（日本の近代12）中央公論新社、1992年（講談社学術文庫として2011年に再版）

学びの手立て

①履修の心構え
・遅刻、私語、居眠り、イヤホン装着などは、その場で退室していただきます。
・【重要】講義中はスマートフォンの操作を禁止します。必ずカバンにしまうこと。
・高校日本史の内容を前提として講義を進めます。未履修者は日本史Bの教科書を読んでおくこと。
②学びを深めるために
・moodleにこの科目を、連絡事項の通知、レジュメの配布、課題の提出などに使用する。随時情報をupするので常に参照のこと。https://bee.okiu.ac.jp/ →[コースカテゴリ] → [総合文化学部] → [社会文化学科]
・配布資料への書き込みや自分のノートなど、講義内容をメモする習慣を身に着けること。

評価

①講義のなかで、史料もしくは研究文献の読解課題を実施・提出してもらいます。出席の確認も兼ねるため、遅刻・欠席者の提出は認めないので注意すること。（5点×10回=50点）。
②理解度を確認するため試験もしくはレポートを実施します。（50点×1回=50点）
以上の合計100満点で成績評価します。①の課題提出回数が2/3未満の場合、②の結果に関係なく不合格となります。

学びの継続

次のステージ・関連科目

可能な限り「日本史概論II」とセットで履修すること。「歴史学概論」、「琉球・沖縄史入門」、「沖縄前近代史」、「沖縄近現代史」など歴史関係の科目と合わせて受講し、自ら比較・検討することが望ましい。

※ポリシーとの関連性　日本の歴史についての基礎的知識を習得し、琉球・沖縄を含めた東アジアの歴史との比較を行う。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 日本史概論Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水２	2
担当者 市川　智生	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	t.ichikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

①日本の通史を、近代・現代を中心に理解し、現在の政治・経済・社会にどのようにつながっているのかを認識できるようになる。
②日本における政治・外交の歴史的展開について、常に国際的視野に基づいて考えることができるようになる。
③近代・現代の日本の歴史がどのような史料をもとに語られているのかを理解する。

メッセージ

みなさんが生活する琉球・沖縄の歴史を学ぶ際には、日本の歴史を知っておく必要があります。この講義では近代・現代を中心に、写真、絵画、図表などを多用して、視覚的にわかりやすい内容とします。公文書館、博物館、図書館などで興味を持った事柄を調べてみることで、ここで学習した内容がより豊かになります。

到達目標

①日本の通史を、近代・現代を中心に理解し、現在の政治・経済・社会にどのようにつながっているのかを認識できるようになる。
②日本における政治・外交の歴史的展開について、常に国際的視野に基づいて考えることができるようになる。
③琉球・沖縄社会の歴史的変遷を、日本および周辺諸国・地域との関係から理解できる。
④近代・現代の日本の歴史がどのような史料をもとに語られているのかを理解する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	開講ガイダンス	事前にシラバスを熟読のこと。
2	軍隊の歴史①：徴兵制	配布資料の読解、参考文献の確認。
3	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
4	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
5	軍隊の歴史②：災害救助・治安維持	配布資料の読解、参考文献の確認。
6	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
7	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
8	講義のテーマに関連する映像作品の視聴	配布資料の読解、参考文献の確認。
9	議会政治・選挙の歴史①：選挙違反	配布資料の読解、参考文献の確認。
10	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
11	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
12	議会政治・選挙の歴史②：地方議会	配布資料の読解、参考文献の確認。
13	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
14	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
15	まとめ	配布資料の読解、参考文献の確認。
16	試験もしくはレポート	後期分の復習

テキスト・参考文献・資料など

全体にわたる参考文献は次の通り。（各論については講義で紹介する。）
・加藤陽子『徴兵制と近代日本：1868‐1945』吉川弘文館、1996年
・加藤陽子『天皇と軍隊の近代史』勁草書房、2019年
・季武嘉也『選挙違反の歴史：ウラからみた日本の100年』吉川弘文館、2007年
・清水唯一朗・瀧井一博『日本政治史：現代日本を形作るもの』 有斐閣、2020年

学びの手立て

①履修の心構え
・遅刻、私語、居眠り、イヤホン装着などは、その場で退室していただきます。
・【重要】講義中はスマートフォンの操作を禁止します。必ずカバンにしまうこと。
・高校日本史の内容を前提として講義を進めます。未履修者は日本史Bの教科書を読んでおくこと。
②学びを深めるために
・moodleにこの科目を、連絡事項の通知、レジュメの配布、課題の提出などに使用する。随時情報をupするので常に参照のこと。https://bee.okiu.ac.jp/ →［コースカテゴリ］→［総合文化学部］→［社会文化学科］
・配布資料への書き込みや自分のノートなど、講義内容をメモする習慣を身に着けること。

評価

①講義のなかで、史料もしくは研究文献の読解課題を実施・提出してもらいます。出席の確認も兼ねるため、遅刻・欠席者の提出は認めないので注意すること。（5点×10回=50点）。
②理解度を確認するため試験もしくはレポートを実施します。（50点×1回=50点）
以上の合計100満点で成績評価します。①の課題提出回数が2/3未満の場合、②の結果に関係なく不合格となります。

学びの継続

次のステージ・関連科目

可能な限り「日本史概論I」とセットで履修すること。「歴史学概論」、「琉球・沖縄史入門」、「沖縄前近代史」、「沖縄近現代史」など歴史関係の科目と合わせて受講し、自ら比較・検討することが望ましい。

※ポリシーとの関連性　多様な民俗事象を理解し、物事を相対化し、自文化や自分自身の置かれた状況を捉えなおす視点を養う。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 比較民俗学	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金２	2
担当者 -大城　博美、神谷　智昭	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	学内メールにて。	

学びの準備

ねらい

身近な沖縄、日本の民俗事象も確認しながら、台湾、韓国といった周辺諸地域の民俗事象との比較をします。そこから浮かび上がってくるであろう、それぞれの地域の特性や歴史性についても考えていきます。今、我々が生活している現代社会を観察し、物事の状況を複眼的に捉える視点を獲得することが最終目標です。

メッセージ

「比較民俗学」という名前が示すように、「比較」ということがキーワードになってきます。外国をはじめ、身の回りにいる「他者」と自分自身、自分自身の置かれている状況（社会・文化）について、「比較」という方法を通して相対化し捉えなおすことができるようになると、世の中を眺めた時に、いつもと違う景色が広がってくると思います。

到達目標

・「当たり前」に過ごしている日常生活世界を切り取り、そこにつまっているであろう歴史や意味といったものを理解することができるようになる。
・「比較」という手法を通して、自己（自文化）の相対化の視点を学ぶことが出来る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション「比較民俗学とは？」　オリエンテーション	前半8回は台湾と沖縄の比較です。
2	社会組織	ネットで台湾に関することを調べる
3	社会組織②	アンテナを張り、積極的に「台湾」
4	映像でみる通過儀礼：「父の初七日」を通して考える	を意識してください。
5	通過儀礼	普段の生活をより意識してください
6	世界観・身体観・病気観	身近な事象を観察しましょう
7	民間信仰	身近な事象を観察しましょう
8	お盆にくる霊――あなたは誰を迎えているの？	年中行事などの実践を観察しよう！
9	現代韓国概況解説	韓国のイメージを挙げてみよう
10	朝鮮半島の歴史概説	沖縄の歴史を振り返ってみよう
11	朝鮮半島の家族・親族	貴方にとっての家族・親族とは誰？
12	朝鮮半島のマウル（村）と生活	沖縄の村を調べてみよう
13	朝鮮半島の村落祭祀	沖縄の村落祭祀を調べてみよう
14	朝鮮半島の葬送儀礼	出身地の葬送儀礼を調べてみよう
15	朝鮮半島のシャーマニズム	沖縄のシャーマニズムを調べよう
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しませんが、各回の講義と関連する参考文献などは講義前後に随時紹介していきます。

学びの手立て

①「履修の心構え」
・民俗学、人類学などを履修済みであると理解しやすいでしょう。
・おしゃべりなどをして他の受講生の妨げとなったり、居眠りやスマホいじりなどは厳禁。
・講義開始後20分を過ぎての遅刻は正当な理由がない限りは欠席扱いとします。

②「学びを深めるために」
・テレビのドキュメンタリー番組などを見て興味・見識の幅を広げてください。

評価

・毎回リアクションペーパーを書いてもらい講義内容の理解度や、視点の多様性を確認すると同時に出席確認する。【30%】
・【前半・台湾】【後半・韓国】ごとに、レポートを提出してもらう（合計2回）。関心のある事象について自分自身で資料を集め、まとめるという作業を通して、理解を深めてもらう。【70%】

学びの継続

次のステージ・関連科目

隣接科目の「文化人類学」や「社会学」、「歴史学」といった科目を履修することで、複眼的視点獲得の基礎作りがさらに出来ると思います。身の回りの「当たり前」を一度括弧に入れて「当たり前」が当たり前になったいきさつや、そう感じる自分の感性を注視しながら、社会とのかかわり方を模索していけるような、学問の基礎体力を身につけましょう。

※ポリシーとの関連性　社会文化学科で学ぶために必要な技能や思考を身につけるための導入科目　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	フレッシュマンセミナー	通年	水３	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	阿利　よし乃	１年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

大学生活で必要な技能や思考を身につけるための科目です。社会のあらゆる事象に関心を持って本を読み、物事を調べ、自分の考えを表現する方法を修得します。この科目で大学生に求められる基本的な態度を身につけることで、その他の科目での学びをさらに実りあるものにすることができます。

メッセージ

講義を受講するだけではなく、ゼミで仲間や教員と意見交換をすることで自らの考えを深めることは、大学生活の楽しみの一つです。この科目をとおして大学生の基本的な態度を身につけることで、これからの４年間を充実したものにしていきましょう。

到達目標

①ゼミ生や教員と意見交換ができるようになる（評価項目：参加姿勢）
②期限を守って課題を提出するためのスケジュール管理ができるようになる（評価項目：参加姿勢）
③自らの問いをもとにして調べ物ができるようになる（評価項目：課題の取り組み）
④グループの仲間やゼミ生と助け合って課題に取り組むことができる（評価項目：課題の取り組み）
⑤文献調査やフィールドワークでわかったことを整理できるようになる（評価項目：調査報告の内容）
⑥文献調査やフィールドワークでわかったことを聞き手に分かりやすく伝えることができる（評価項目：調査報告の内容）

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	前期のガイダンス、教員紹介、ゼミ生自己紹介	自己紹介シートの記入
2	大学ってどんなところ？お互いをもっと知り合おう（自己紹介その２）	課題の予習
3	文章の読み方をトレーニングしよう	配布資料の復習
4	調べ物の仕方①図書館の使い方	図書館を利用する
5	調べ物の仕方②インターネットの使い方（それは正しい情報なのか？）	配布文献の精読と復習
6	ワークショップ：クバオージを作ってみよう（体感で学ぶ）	WSの流れをノートにまとめる
7	フィールドワーク（予定）	配付資料の精読と復習
8	レジュメの作り方（自分の考えを整理してみよう）	配付資料の精読と復習
9	プレゼンテーションの方法（自分の考えを自分の言葉で伝えてみよう）	配付資料の精読と復習
10	レポートの書き方（自分の考えを順序立てて文章にしてみよう）	レポートのテーマを考える
11	レポートのテーマを決めよう	レポートのテーマを考える
12	レポートを書くための文献調査①	文献調査
13	レポートを書くための文献調査②	文献調査
14	実践：レポートを書いてみよう	レポートを書く
15	レポート提出、前期の振り返りと夏休みの過ごし方	レポートを書く
16	前期の振り返りと後期の進め方、聞き書きとは？	配付資料の精読と復習
17	フィールドワーク：聞き書きの方法	調査テーマを考える
18	調査テーマの設定、グループ編成	調査テーマを考える
19	調査と資料整理（グループ活動：文献調査及びフィールドワーク）	調査と資料整理
20	調査と資料整理（グループ活動：文献調査及びフィールドワーク）	調査と資料整理
21	調査と資料整理（グループ活動：文献調査及びフィールドワーク）	調査と資料整理
22	調査の進捗状況の報告	調査と資料整理
23	調査の進捗状況の報告	調査と資料整理
24	調査の進捗状況の報告	調査と資料整理
25	調査報告の準備	調査報告の準備
26	調査報告の準備	調査報告の準備
27	調査報告の準備	調査報告の準備
28	調査報告の発表、ディスカッション	調査報告の準備と振り返り
29	調査報告の発表、ディスカッション	調査報告の準備と振り返り
30	調査報告の発表、ディスカッション	調査報告の準備と振り返り
31	１年間の振り返りと領域選択に向けての説明	配付資料の精読と復習

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はありません。 授業内容に応じて、必要な資料を配付します。 授業の中で適宜参考文献を紹介します。
	学びの手立て ①履修の心構え　・毎回出席をとります。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に必ず連絡してください。 ・セミナーで大切なことは仲間たちを尊重する姿勢です。仲間の発表を聞き、自分の考えをしっかりと伝えましょう。 ・グループ活動は仲間との助け合いです。スケジュール調整をして仲間と一緒に自らの課題に取り組みましょう。 ・毎回の授業で課題を課します。期限を守って提出してください。 ②学びを深めるために　・日常的に新聞や本を読む習慣を身につけましょう。配布資料をきちんとファイルに綴り、ノートを取って復習しましょう。
	評価 ①参加姿勢30%（ゼミ生や教員と意見交換ができているか、期限を守って課題を提出しているか） ②課題の取り組み40%　（自らの問いをもとに調べ物ができているか、仲間と助け合って課題に取り組んでいたか） ③調査報告の内容30%（文献調査やフィールドワークでわかったことを整理できているか、聞き手にわかりやすく発表できているか）

学びの継続	次のステージ・関連科目 領域演習、社会文化学科の専門科目

※ポリシーとの関連性　大学での学びの基礎を作る授業です。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	フレッシュマンセミナー	通年	水３	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	月野　楓子	１年	授業後及びメールで受け付けます。	

学びの準備

ねらい

大学での学びにおいて重要な要素を、個人及びグループでの学習を通して身につけます。

メッセージ

大学での学びの基盤を作る授業です。初めてのことが多いと思いますが、受け身の姿勢ではなく積極的に参加にしてください。

到達目標

・新聞、雑誌、論文等の文章を読解できる。
・短い文章を書くことができる。
・意見を述べ合い議論することができる。
・自ら調べ、その内容をまとめ、発表することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	前期ガイダンス、自己紹介	事前に出された課題を持参する
2	事前に出された課題についての発表	事前に出された課題を持参する
3	文章を読む①記事を交換	授業内で指示する
4	文章を読む②感想をメールで送り、ピアレビュー	授業内で指示する
5	章を読む③大学について知る、要約を作る	授業内で指示する
6	フィールドワーク体験（予定）	授業内で指示する
7	グループ学習①グループで話し合い	授業内で指示する
8	グループ学習②図書館ガイダンス（予定）	授業内で指示する
9	グループ学習③本の紹介の準備	授業内で指示する
10	グループ学習④本の紹介	授業内で指示する
11	文章を書く①レポートとは	授業内で指示する
12	文章を書く②良い例と悪い例	授業内で指示する
13	文章を書く③インターネットの利用について	授業内で指示する
14	文章を書く④書いてみる	授業内で指示する
15	前期のまとめ	授業内で指示する
16	後期ガイダンス、課題の提出	課題を持参すること
17	提出課題について議論	授業内で指示する
18	発表・報告に向けて①テーマの選定	授業内で指示する
19	発表・報告に向けて②調べる、資料を集める、まとめる	授業内で指示する
20	発表・報告に向けて③フィールドワークについて	授業内で指示する
21	発表・報告に向けて④報告資料の作成の仕方	授業内で指示する
22	発表・報告に向けて⑤発表練習	授業内で指示する
23	発表・報告に向けて⑥発表についての議論	授業内で指示する
24	キャリアガイダンス（予定）	授業内で指示する
25	映像鑑賞①映像鑑賞	授業内で指示する
26	映像鑑賞②映像鑑賞と議論	授業内で指示する
27	グループワーク	授業内で指示する
28	発表会準備	授業内で指示する
29	発表会①	必ず準備をしてくること
30	発表会②	必ず準備をしてくること
31	まとめ	授業内で指示する

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜参考図書・資料を紹介・配布する。
	学びの手立て ・無断での遅刻、欠席は認めない。 ・指示した場合を除いてはスマートフォンの使用は禁止。 ・個人だけでなくグループでの活動も多いため積極的に参加すること。
	評価 平常点 40%、課題 30%、発表（事前準備を含む）30%

学びの継続	次のステージ・関連科目 領域演習、演習

※ポリシーとの関連性　大学での学びを可能にするための基礎演習。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	フレッシュマンセミナー	通年	水３	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉　理麻	１年	外国語資料講読演習Ⅱ	

学びの準備

ねらい

本科目は、社会文化学科1年生を対象としたゼミナール形式の授業である。本科目では大学での学びにおいて必要となる「書く」「読む」「伝える」ことの基本的な能力を習得することを目的とする。

メッセージ

本科目は一般講義とは異なり、受講者に対して能動的・意欲的な取り組みを求める。

到達目標

専門書の文章読解、文献・資料調査およびそのレポートやレジュメの作成ができるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	授業時に指示した文献の講読
2	文章読解のトレーニング①	授業時に指示した文献の講読
3	文章読解のトレーニング②	授業時に指示した文献の講読
4	文章読解のトレーニング③	授業時に指示した文献の講読
5	文章読解のトレーニング④	授業時に指示した文献の講読
6	レジュメの作成と報告①	レジュメ作成に関する文献の講読
7	レジュメの作成と報告②	授業時に指示した文献の講読
8	レジュメの作成と報告③	授業時に指示した文献の講読
9	レジュメの作成と報告④	授業時に指示した文献の講読
10	フィールドワークの立案	フィールドワークの準備
11	学外フィールドワーク	フィールドワークのデータ整理
12	報告書の作成①	報告書作成に関する文献の講読
13	報告書の作成②	報告書作成に関する文献の講読
14	報告書の作成③	報告書作成に関する文献の講読
15	前期の総括	前期の総合的な復習
16	後期のガイダンス・グループ編成	授業時に指示した文献の講読
17	テーマ設定と役割分担	授業時に指示した文献の講読
18	文献・資料調査のトレーニング①	調査に関する文献の講読
19	文献・資料調査のトレーニング②	調査に関する文献の講読
20	グループ調査の準備①	調査の具体的計画の考案と実施
21	グループ調査の準備②	調査の具体的計画の考案と実施
22	グループ調査の準備③	調査の具体的計画の考案と実施
23	中間発表①	調査報告書の作成
24	中間発表②	調査報告書の作成
25	グループ調査のまとめ①	調査報告書の修正と発表準備
26	グループ調査のまとめ②	調査報告書の修正と発表準備
27	グループ調査のまとめ③	調査報告書の修正と発表準備
28	最終発表①	最終報告書の作成
29	最終発表②	最終報告書の作成
30	最終発表③	最終報告書の作成
31	後期の総括	後期の総合的な復習

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定しない。適宜、資料を配布する。
	学びの手立て 与えられた課題に取り組むだけでなく、自ら積極的に学術書を読むようにする。
	評価 原則として、授業参加度（40%）、発表・調査報告・課題（60%）を総合し評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習Ⅰ、演習Ⅱ

※ポリシーとの関連性　本学科で4年間学習する上での基礎科目

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	フレッシュマンセミナー	通年	水３	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川　智生	１年	t.ichikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、大学で学び、自ら調べ考えたことを発信（文章作成、プレゼンテーション）するための基礎訓練を行う。文章を読む、書く、調べた内容を伝える、討論するといった事柄について、準備の過程からその実践までを扱う。

メッセージ

本ゼミで習得したことは、大学で学ぶ基礎となります。ゼミでの討論やグループワークを通して積極的な姿勢を身につけてください。

到達目標

①講義や討論の内容をノートにまとめ、理解した点と疑問点を明確にすることができる。
②新聞の社説、新書レベルの文章を正確に読解し、要約を作成することができる。
③興味を持ったことについて、テーマを具体化し、調査を実践することができる。
④上記の内容について、他人に口頭で説明し（プレゼンテーション）、論理的な文章を書くことができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	開講ガイダンス：みなさんは自己紹介できますか？	事前にシラバスを熟読のこと。
2	大学で学ぶとは？：社会文化学科での4年間と学問領域	資料の復習、学習内容の実践。
3	ノートの取り方：自分が見聞きした情報を記録できますか？	資料の復習、学習内容の実践。
4	大学でのコミュニケーション：知らない人に電子メールを出せますか？	資料の復習、学習内容の実践。
5	文章の読解と要約の作成①	資料の復習、学習内容の実践。
6	文章の読解と要約の作成②	資料の復習、学習内容の実践。
7	フィールドワーク（予定）	事前情報を自分で収集する。
8	図書館オリエンテーション（予定）	事前情報を自分で収集する。
9	文章の読解と要約の作成③	資料の復習、学習内容の実践。
10	発表の準備をする①：レジュメの作成	資料の復習、学習内容の実践。
11	発表の準備をする②：レジュメの作成	資料の復習、学習内容の実践。
12	論理的な文章・レポートを書く①	資料の復習、学習内容の実践。
13	論理的な文章・レポートを書く②	資料の復習、学習内容の実践。
14	論理的な文章・レポートを書く③	資料の復習、学習内容の実践。
15	前期のまとめ	資料の復習、学習内容の実践。
16	前期課題の発表と講評	資料の復習、学習内容の実践。
17	フィールド・ワーク入門編①：フィールド・ワークとは何か。	資料の復習、学習内容の実践。
18	フィールド・ワーク入門編②：研究倫理と調査被害。	資料の復習、学習内容の実践。
19	フィールド・ワーク入門編③：テーマを決め、計画を立てる。	資料の復習、学習内容の実践。
20	フィールド・ワーク入門編④：計画の発表と修正。	資料の復習、学習内容の実践。
21	キャリアガイダンス（予定）	資料の復習、学習内容の実践。
22	フィールド・ワークの準備編①：グループごとに計画に沿って下調べをする。	資料の復習、学習内容の実践。
23	フィールド・ワークの準備編②：同上	資料の復習、学習内容の実践。
24	フィールド・ワークの準備編③：同上	資料の復習、学習内容の実践。
25	フィールド・ワーク中間報告	学習内容の実践。
26	発表の準備をする③：パワーポイントによるスライド作成（その1）	資料の復習、学習内容の実践。
27	発表の準備をする④：パワーポイントによるスライド作成（その2）	資料の復習、学習内容の実践。
28	予備日（キャリアガイダンスあるいはフィールドワークの準備）	事前情報を自分で収集する。
29	フィールド・ワーク実践編：プレゼンテーション①	発表の準備、事後の復習。
30	フィールド・ワーク実践編：プレゼンテーション②	発表の準備、事後の復習。
31	まとめ：1年間で学んだ内容を振り返り、2年次以上にどうつなげるか？	学習内容の実践。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定せず、毎週資料を配布する。なお、アカデミック・スキルズについては、以下の参考文献を頻繁に参照する。 ・石黒圭『論文・レポートの基本』（日本実業出版社、2012年、ISBN-13: 978-4534049278） ・佐藤望ほか編『アカデミック・スキルズ(第3版)：大学生のための知的技法入門』（慶應義塾大学出版会、2020年、ISBN: 978-4766426564）
	学びの手立て ①履修の心構え ・ゼミでは人前での発言を躊躇しないこと。 ・遅刻、欠席をしないこと。（特に発表担当の無断欠席は厳禁。） ・【重要】講義時間中はスマートフォンの使用を禁止します。必ずカバンの中にしまうこと。 ・課外活動による欠席届を提出しても特に考慮の対象としません。 ②学びを深めるために ・講義で学習する内容を、常に自分の生活との関連で考えてみること。 ・新聞、ニュース、ほかの講義なども、自らの文章の作成やプレゼンテーション能力向上の材料とすること。
	評価 ①講義中の小課題への取り組み（要約作成、レジュメ作成、文章作成など）（20点） ②前期レポート　(40点) ③年度末レポート(40点) 以上の計100点満点で評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義は、2年次の「領域演習」、3,4年次の「演習」でのゼミ活動の基礎となる。

※ポリシーとの関連性　大学で学ぶために必要な技能の習得を目指す導入科目

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	フレッシュマンセミナー	通年	水３	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城　弘樹	１年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

本セミナーでは、共同学習を通じて、学生ひとりひとりが大学で学ぶための基礎的な知識や技能を習得し、４年間の学生生活を軌道に乗せることを目的とします。

メッセージ

新入生の皆さんに、学生間、教員とのコミュニケーションの場を提供します。一緒に、学生としての意識、方法、目的を明確にしていきましょう。

到達目標

・大学生活の基盤（規則的生活・友人関係・自学自習の習慣）を作る。
・大学で学ぶための基本的スキル（読む、書く、聴く、伝える、対話する力）を習得する。
・他者とのコミュニケーションや協働を通じて、自分自身の興味関心や学習目的を研ぎ澄ませる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	前期ガイダンス、教員紹介、入学前課題提出（探求課題）	シラバスの熟読
2	新聞記事を読む	各自配布課題に取り組むこと
3	講義を傾聴しメモをとる、リアクションペーパーを利用する	各自配布課題に取り組むこと
4	ＰＣスキルを確認する	各自配布課題に取り組むこと
5	レポートの作成①文章構成	各自配布課題に取り組むこと
6	レポートの作成②出題意図	各自配布課題に取り組むこと
7	フィールドワーク（予定）	各自配布課題に取り組むこと
8	レポートの作成③参考文献	各自配布課題に取り組むこと
9	図書館を活用する	各自配布課題に取り組むこと
10	レポートの作成④要約と縮約	各自配布課題に取り組むこと
11	レポートの作成⑤校正	各自配布課題に取り組むこと
12	レジュメの発表①	各自配布課題に取り組むこと
13	レジュメの発表②	各自配布課題に取り組むこと
14	レジュメの発表③	各自配布課題に取り組むこと
15	大学生活と自分の将来	各自配布課題に取り組むこと
16	まとめ	各自配布課題に取り組むこと
17	後期ガイダンス、グループ編成	各自配布課題に取り組むこと
18	話し合いと仮テーマの設定	各自、事前にテーマ案を探す
19	グループ調査①	グループで協力して調査を行う
20	グループ調査②	グループで協力して調査を行う
21	中間発表	グループで課題に取り組む
22	キャリアガイダンス	グループで課題に取り組む
23	アウトラインの作成と提出	グループで課題に取り組む
24	グループ調査③	グループで協力して調査を行う
25	グループ調査④	グループで協力して調査を行う
26	グループ調査のまとめ①	グループで課題に取り組む
27	グループ調査のまとめ②	グループで課題に取り組む
28	最終プレゼンテーション①	グループで課題に取り組む
29	最終プレゼンテーション②	グループで課題に取り組む
30	最終プレゼンテーション③	グループで課題に取り組む
31	まとめ	各自配布課題に取り組むこと

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業内容に応じて、プリントを配布します。
	学びの手立て 本セミナーは、大学4年間の学びの基盤となる授業です。 ・毎回出席をとります。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に必ず連絡してください。 ・入学から卒業までをともにする仲間たちを尊重し、一緒に学ぶ姿勢を持ちましょう。 ・日常的に新聞を読み、沖縄、日本、世界の動向に関心を持ちましょう。 ・毎回授業では課題を課します。 ・自分自身の学びや興味関心を確かめ、継続的に本を読んで学びを深めていきましょう。
	評価 平常点（授業への参加）50%、毎回課題への取り組み25%、期末レポート25%をあわせて総合的に評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目 ２年次ゼミの「領域演習」が上位科目になります。フレッシュマンセミナーで会得したアカデミックスキルを基礎とし、ゼミの同級生とともに各専門分野での学びにつなげてください。

※ポリシーとの関連性　グローバル化時代において「他者」理解もまた必須である。本講義の目的は、異文化理解の基礎を提供することにある。　[　　／一般講義]

科目基本情報			
科目名 文化人類学概論	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水２	2
担当者 石垣　直	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

「文化人類学」とは、「文化」というキーワードをもとに、世界各地の諸社会と総体としての人類社会について、その多様性と共通点を明らかにしようとする学問分野である。本稿講義では、「人間と文化」という視点から、人類社会に関わる様々なトピックを取り上げて、人類とは何か、人類社会とは何かについて、考えていく。

メッセージ

日本の人口は世界の1／63である。146万人の沖縄県は1／5500である。「自文化」理解は大切だが、世界を知らずにグローバル化時代を生き抜くことはできない。また、世界の諸社会・文化を知ることは、「自文化」を再発見し深く理解することにつながる。本講義を通じて人類社会・文化の多様性と共通性を認識し、より広い視野から郷土や母国をを考えることのできる人材を目指して欲しい。

到達目標

世界各地の諸社会・文化に関する基礎的な知識を身に着け、比較という観点から人類社会・文化の多様性と共通点を考えることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	文化人類学について調べよう。
2	「文化」とは何か？――人類学と「異文化」理解	「文化」概念について考えよう。
3	文化人類学の方法論――「社会・文化」を読み解くために	文化人類学の独自性とは何か。
4	映像鑑賞	「文化」を扱った作品を探そう。
5	家族と親族（１）――親族研究の基礎と人類学	親族関係の多様性を知ろう。
6	家族と親族（２）――キンドレッド／出自／婚姻	親族の役割について考えよう。
7	贈物のヒミツ――贈与・交換の原理と「社会」	身の回りの贈物を考えよう。
8	認識／コミュニケーション／儀礼	儀礼の意味について考えよう。
9	「死」の扱い方と宗教――究極問題へのアプローチ	宗教の多様性を考えよう。
10	映像鑑賞	身近な「儀礼」を探してみよう。
11	政治と権力――人類社会における諸政治形態と権力	身近な「政治」　を探してみよう。
12	身体とジェンダー――オトコ（△）であること、オンナ（○）になること	ジェンダーの構築性を知ろう。
13	自然／環境／資源化――人類と自然・環境との関係	自然・環境と人類を考えよう。
14	アイデンティティ／民族／ナショナリズム	「自己／我々」の成立を考えよう。
15	まとめ――「人類社会・文化理解」への果敢な挑戦	人類学を学ぶ意義を考えよう。
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは特になし。（毎回の講義でレジュメおよび資料を配布する）
・主要参考文献については、講義内で適宜紹介する。

学びの手立て

「他者」を知ることは、より深い「自己」理解のための必須条件である。 世界各地の社会・文化に関するニュース報道などの関心をもち、欧米だけでなくアジア／アフリカ／太平洋／中南米地域の社会・文化と沖縄・日本のそれとを比較する視点を養ってほしい。「他者」理解と「自己」理解の組み合わせることで、より深い洞察が可能となるはずである。

評価

毎回の授業への参加姿勢を確認するため、レスポンス・ペーパー（感想、コメント、質問）の提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックに関する筆記試験を行い、授業参加姿勢とともに総合的に評価する。（平常点：30点、期末試験：70点）

学びの継続

次のステージ・関連科目

文化人類学理論、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、琉球アジア文化論、多民族論、etc.

※ポリシーとの関連性　本講義では、グローバル化時代を生き抜くために必要な、世界の諸社会・文化の理解に役立つ「メガネ」を提供する。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 文化人類学理論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水３	2
担当者 石垣　直	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義の目的は、文化人類学の諸理論について基礎的な理解を得ることにある。本講義に先立つ「文化人類学概論」では、生活に関連した諸トピックを例に、人類社会・文化の多様性と共通点を論じた。それを踏まえて本講義では、これまでに提出されてきた様々な理論（≒「メガネ」）をレヴューすることで、世界の諸社会・文化の理解が「自文化理解の深化」につながることを学ぶ。

メッセージ

人文・社会科学における「理論」とは、事象をより説得的に説明するための「メガネ」である。社会・文化人類学が用いてきた様々な「理論≒メガネ」の存在を知る者は、より多くの「世界（人類社会・文化）の秘密」を発見することができる。人類学理論によって発見された「秘密」は、あなたが限りある人生を生きていく上で、極めて有用なものとなるだろう。

到達目標

社会・文化人類学の諸理論（≒メガネ）に関する基礎的な知識を身に着け、人々が普段の生活では意識することが少ない「自文化」を含む世界各地の諸社会・文化の構造やメカニズム、すなわち「世界の秘密」を理解することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	文化人類学について調べよう。
2	「文化人類学」とは何か？――人類学と「異文化」理解	「文化」概念について考えよう。
3	人類進化の歴史――地球／生物／人類の歴史	人類の歴史を調べよう。
4	社会進化論・伝播論・新進化論――人類史の一般化	人類学最初の理論を学ぼう。
5	文化とパーソナリティ論・心理人類学――「文化の型」・民族性	国民・民族性について考えよう。
6	映像鑑賞――人類学者の仕事	フィールドワークを学ぼう。
7	機能主義（1）――「社会の仕組み」を考える	社会の仕組みを考えよう。
8	機能主義（2）――「社会関係の基礎」としての「親族」	身近な「親族」を調べよう。
9	構造主義（1）――発想の由来とエッセンス	構造主義の特徴を調べよう。
10	構造主義（2）――構造分析とその影響力	構造主義の議論を調べよう。
11	映像鑑賞――構造主義の復習＆応用編	構造分析にトライしてみよう。
12	認識・象徴人類学と解釈人類学――「文化」の捉え方	「文化」の象徴性を考えよう。
13	構造と実践――構造／歴史／主体性	「文化」の身体化を考えよう。
14	日本の人類学――歴史と現在	日本の人類学について調べよう。
15	まとめ――人類学理論と人類社会・文化の理解	文化人類学の意義を考えよう。
16	期末テスト	

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは特になし。（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）
・主要参考文献は次のとおりである。
綾部恒雄（編）2006『文化人類学20の理論』弘文堂。
石川栄吉ほか(編)1995『文化人類学事典』弘文堂。
バーナード、A.2005『人類学の歴史と理論』明石書店

学びの手立て

「他者」を知ることは、より深い「自己」理解のための必須条件である。 世界各地の社会・文化に関するニュース報道などに関心をもち、欧米だけでなくアジア／アフリカ／太平洋／中南米地域の社会・文化と沖縄・日本のそれとを比較する視点を養ってほしい。「他者」に関心をもつ者には、「自己」しか知らない者よりも、より多くの「発見」を得られるはずである。

評価

平常点（30点）、期末試験／課題（70点）

学びの継続

次のステージ・関連科目

アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、琉球アジア文化論、多民族論、etc.

※ポリシーとの関連性　社会・平和領域の専門応用科目。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 平和運動史	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火２	2
担当者 秋山　道宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後の教室およびオフィスアワー	

学びの準備

ねらい

現在、軍事化が進む中、戦後日本が掲げてきた「平和主義」や「平和国家」とはどのようなものであったのかを改めて検討する必要がある。この講義では、憲法が掲げる理念の実現をなにが阻んできたのか、また、その障害のなかでも平和の実現のために展開された数々の運動の歴史について学ぶ（沖縄での平和運動の歴史も含め）。現在進行形の平和運動も扱い、映像資料も活用する。

メッセージ

「平和とはなにか、平和の実現にはなにが必要か」といった素朴だがとても重要な問いについて、歴史に学びながら真剣に考え、議論できる学生の参加を期待する。

到達目標

平和運動史の受講を通して、以下の二つを学習成果として得ることができる。
①戦後の日本と沖縄における平和運動の歴史を学ぶことで、憲法において提示された「平和主義」について理解を深めることができる。
②①を前提としながら、これからの「平和とはなにか、平和の実現にはなにが必要か」を考え、議論し、実践することができるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス。平和運動史ではなにを扱うか。	シラバスを事前に読んでおくこと。
2	イントロダクション　日本・沖縄の「いま」から平和運動を考える。	講義の復習。
3	戦争をさせないたたかい①反基地闘争の歴史（１）沖縄における島ぐるみ闘争。	講義の復習。
4	戦争をさせないたたかい②反基地闘争の歴史（２）日本本土の反基地闘争。	講義の復習。
5	戦争をさせないたたかい③原水爆禁止運動（反核運動）のたかまり。	講義の復習。
6	企業・国家・公害とのたたかい①朝日訴訟、「人間裁判」と呼ばれたたたかい。	講義の復習。
7	企業・国家・公害とのたたかい②水俣病と公害訴訟のひろがり。	講義の復習。
8	企業・国家・公害とのたたかい③ハンセン病差別と権利回復運動の歴史。	講義の復習。
9	ゲスト講義（戦後沖縄の平和運動に携わった方をゲストによんだ講義）	講義の復習。
10	現代におけるたたかい①9.11とイラク反戦運動。	講義の復習。
11	現代におけるたたかい②3.11以降の反原発運動。	講義の復習。
12	現代におけるたたかい③安保法制（戦争法）制定後の対抗運動を考える。	講義の復習。
13	日本・沖縄の「いま」と世界の変化①（現在進行形の平和運動を扱う）	講義の復習。
14	日本・沖縄の「いま」と世界の変化②（現在進行形の平和運動を扱う）	講義の復習。
15	全体のまとめとレポート提出	講義全体の復習。
16		

テキスト・参考文献・資料など

特定のテキストは指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。
参考文献として、以下の4点を挙げておく。授業でも随時紹介する。
①梶原渉ほか編著『18歳からわかる　平和と安全保障のえらび方』（大月書店、2016年）②児玉谷史朗ほか編著『地域研究へのアプローチ』（ミネルヴァ書房、2021年）③星野英一ほか著『沖縄平和論のアジェンダ：怒りを力にする視座と方法』（法律文化社、2018年）④前田勇樹ほか『つながる沖縄近現代史：沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』（ボーダーインク、2021年）

学びの手立て

履修の心構え
・講義もコミュニケーションの一つである。周囲の受講生や教員との信頼関係で成り立ち、その中で、より良い学習ができることを意識してほしい。受講中の私語や携帯電話・スマートフォンの使用など、講義の進行や周囲への迷惑となる行為は禁止する。
学びを深めるために
・新聞に日常的に目を通すこと。講義で取り上げた内容をより深く理解することが可能となる。

評価

（１）参加態度（30%）
（２）中間レポート（30%）…授業の内容に関連し、運動史の資料調査の方法を踏まえて、レポートを作成してもらう。
（３）学期末レポート（40%）…授業全体の内容に関連し、自ら問いを設定し、レポートを作成してもらう。
詳細については、ガイダンスおよび授業内にてお知らせする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会・平和領域のその他の専門応用科目。実習（演習Ⅰ）および演習Ⅱ。

※ポリシーとの関連性　　１年次の基礎科目

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 平和学概論	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水４	2
担当者 秋山　道宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	講義終了後の教室およびオフィスアワー	

学びの準備

ねらい

いま沖縄で問われ続けていることを出発点としつつ、いくつかの具体的な問題に焦点を当てながら、平和学の入口を紹介していく。そのために、「戦争と国家」という問題設定から世界史的な動向にも視野を広げたうえで、身近な暴力性を含めて問い直すために構造的暴力の視点を重視し、平和学の広がりを理解できるように講義を展開する。

メッセージ

「平和」という言葉を聞いたとき、どのような状態を想像するであろうか。この講義での学びを通して、身近な問題と結びつけて「平和」を捉える視点と、戦争や暴力を批判的、構造的に捉える思考力を養ってほしい。

到達目標

人びとの権利や尊厳、それを脅かす問題に目を向け、地域の視点と世界的な視点の双方を用いて思考する力を身につける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義内容と課題についてのガイダンス	配布資料の精読
2	沖縄から考える①　基地問題の起源	配布資料の精読と文献の参照
3	沖縄から考える②　基地集中と固定化	配布資料の精読と文献の参照
4	沖縄から考える③　戦争体験の記憶と記録	配布資料の精読と文献の参照
5	沖縄から考える④　アジアのなかでの沖縄（熱戦と冷戦）	配布資料の精読と文献の参照
6	沖縄から考える⑤　核兵器・大量破壊兵器と沖縄	配布資料の精読と文献の参照
7	戦争と国家①　総力戦の世紀と新しい戦争	配布資料の精読と文献の参照
8	戦争と国家②　メディアと戦意	配布資料の精読と文献の参照
9	戦争と国家③　軍産複合体（軍事と経済）	配布資料の精読と文献の参照
10	戦争と国家④　核の″平和利用″	配布資料の精読と文献の参照
11	構造的暴力①　平和学とガルトゥングの視点	配布資料の精読と文献の参照
12	構造的暴力②　貧者の徴兵制（経済的徴兵制）	配布資料の精読と文献の参照
13	構造的暴力③　軍隊と性暴力	配布資料の精読と文献の参照
14	構造的暴力④　国策と地域	配布資料の精読と文献の参照
15	構造的暴力⑤　沖縄の経験を読み解くおよび全体のまとめ	講義内容の復習
16		

テキスト・参考文献・資料など

特定のテキストは使用せず、必要な資料は教室で配布する。
講義全体に関連する参考文献として、次の5点を挙げておく。
①石原昌家ほか編『沖縄を平和学する！』（法律文化社、2005年）②岡本三夫ほか編『新・平和学の現在』（法律文化社、2009年）③星野英一ほか著『沖縄平和論のアジェンダ：怒りを力にする視座と方法』（法律文化社、2018年）④児玉谷史朗ほか編『地域研究へのアプローチ』（ミネルヴァ書房、2021年）⑤前田勇樹ほか『つながる沖縄近現代史：沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』（ボーダーインク、2021年）

学びの手立て

各テーマに関する配布資料や文献を精読するとともに、関連図書や新聞を調査して問題を発見する。

評価

授業への参加態度と理解度30%、中間レポート30%、学期末レポート40%

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会・平和領域の専門基礎科目

※ポリシーとの関連性　社会・平和領域の発展科目

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	平和教育学	前期	金３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-古賀　徳子	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

本講義では、平和教育を「平和と非暴力の文化」を身につけるための教育と位置づけ、毎回、参加型学習の手法を使って、アメリカの教育現場で普及している「創造的対立解決プログラム（RCCP）」や、沖縄と関わりのあるテーマについての学習を深める。家庭や学校、職場、地域で「平和と非暴力の文化」を実践する方法を考える。

メッセージ

対立は、日常生活のあらゆる場所で起こります。人と人が関わり合う中で対立が起こるのは自然なことだからです。しかし、対立は時に攻撃的な言動や暴力を引き起こします。自分と相手を尊重しながら、両者が満足できる解決をはかるために、創造的な解決方法を学んでみませんか。さらに、沖縄戦や軍隊の問題についても、参加型で学ぶことによって、新たな発見が生まれるはずです。

到達目標

①「平和と非暴力の文化」を理解する
②家庭や学校、職場、地域で起こる対立を創造的に解決し、積極的にかかわる力をつける。
③沖縄戦や軍隊の問題が、現在の沖縄や人々にどのような影響を及ぼしているかに気づく。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	
2	もっとよく知り合う、受けてきた平和教育をふりかえる（タイムライン）	自分が受けた平和教育をふりかえる
3	上手な聞き方と下手な聞き方（聴く練習）	聴く練習を行う
4	対立の意味を明らかにする（ブレーンストーミング）	参考資料（授業時に提示）を読む
5	創造的に対立を解決する、感情を表現する（私メッセージ）	参考資料（授業時に提示）を読む
6	非暴力について学び、介入を練習する（即断訓練）	非暴力行動の事例を調べる
7	市民が持つ力とは何かを考える（ランキング）	参考資料（授業時に提示）を読む
8	沖縄戦とひめゆり学徒隊（フォトランゲージ）	証言映像を見る
9	なぜひめゆり学徒隊の生存者は戦争体験を語り始めたか？	証言映像を見る
10	沖縄戦を深掘りする	身近な人の戦争体験を調べる
11	軍隊と性暴力①　日本軍「慰安婦」制度（わたしの気持ち）	参考資料（授業時に提示）を読む
12	軍隊と性暴力②　米軍内外への性暴力	参考資料（授業時に提示）を読む
13	アレン・ネルソンさんの体験から、戦争が兵士に及ぼす影響を考える	参考資料（授業時に提示）を読む
14	米軍基地と環境問題	参考資料（授業時に提示）を読む
15	課題として制作した動画の発表会	平和教育のあり方を考える
16	課題として制作した動画の発表会	

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：特になし。授業時にプリント配布
参考文献は授業で紹介します。

学びの手立て

・受講生の人数、関心などに応じて授業内容および順序を変更することがあります。
・グループワークや2～3人の話し合いを行います。新型コロナ対策のため、一定の距離を保つようにしてください。
・基本ルール：他人のよいところを見よう／注意深く一人ひとりの発言をよく聞こう／短く簡潔に話そう／パスする権利は全ての人にある／他人の秘密やプライバシーを守ろう

評価

・平常点…30点（出欠状況に基づく、授業への積極的な参加が見られる場合は適宜加点する）
・小レポート…30点（毎回の講義でA4半分程度の用紙に小レポートの課題を課す）
・最終レポート…40点（講義で学んだ内容を参考に短い動画を制作する）
上記到達目標①②③を評価

学びの継続

次のステージ・関連科目

平和思想、国際平和論、沖縄平和学、ジェンダー論

※ポリシーとの関連性　沖縄戦体験者の証言を中心に現代日本の平和思想のあり方と内戦から非暴力主義を唱えたグローバルな平和思想を比較・探求します。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 平和思想	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金２	2
担当者 -川満　彰	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に教室で受付します	

学びの準備

ねらい

近現代のアジアと沖縄の歴史は構造的差別から抜け出せない状態にあります。沖縄というマイノリティ社会から現代世界を見わたすと、戦争状態だけにとどまらないグローバルな平和思想についても考えることができます。また、私たちは戦前の暮らしをあまり知りません。民俗学視点でスタートすることで、将来、時代がどのように変化してもすべての人々にやさしい平和思想を共に考えます。

メッセージ

私たちの生命は引き継がれてきました。日本で、沖縄で何があったのか、そして何が行われているのか、歴史やその状況下にいた人々の証言を通し自らの足元を深く掘り下げることで、自らを含め将来の子どもたちがどのような方向性に向かって行くことが望ましいのか、個々の平和思想を構築できるきっかけをつくります。本講では沖縄戦を知らないという前提でスタートします。

到達目標

①沖縄戦の実相について理解ができる。
②武器を持つ平和思想と非暴力の平和思想を国際的な視野も交え比較することで、自らの平和思想を考えるきっかけをつくることができる。
③社会のなかで他者を認め、自分の立ち位置を決めるきっかけをつくることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	プロローグ　－シラバスの説明及びなぜ民俗から入るのか－	出身地の祭祀行事・風習を知る
2	民俗学からみた地域社会と沖縄戦	出身地の祭祀行事・風習を知る
3	沖縄地上戦の全体像　地域で異なった戦場　日米両政府・住民の視点から	配布資料及び関連書籍の予習・復習
4	これまで知られてこなかった護郷隊の戦争	配布資料及び関連書籍の予習・復習
5	離島残置諜者（陸軍中野学校出身）の島々の戦争	配布資料及び関連書籍の予習・復習
6	御真影（天皇の写真）と沖縄戦	配布資料及び関連書籍の予習・復習
7	沖縄戦の子どもたち　－戦争孤児を中心に－	配布資料及び関連書籍の予習・復習
8	戦争孤児たちの戦後史	配布資料及び関連書籍の予習・復習
9	米軍政府による民間人収容地区から見た沖縄政策	配布資料及び関連書籍の予習・復習
10	沖縄県内における市町村史『戦争編』と文科省（「集団自決」「強制集団死」から考える）	配布資料及び関連書籍の予習・復習
11	戦争責任について考える　－沖縄戦時の県知事島田叡から－	配布資料及び関連書籍の予習・復習
12	マハトマ・ガンジーと阿波根昌鴻	配布資料及び関連書籍の予習・復習
13	コスタリカ共和国の平和思想　内戦から非暴力主義へ	配布資料及び関連書籍の予習・復習
14	日本本土復帰50年を考える　－平和思想の視点で－	自分の到達点の確認
15	エピローグ　－住民視点でみた平和とは　まとめ－	これまでのまとめ
16	レポート作成・提出	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定せず、必要であれば講義の中で適宜紹介します。毎回、資料を配布し、適宜パワーポイントを使用します。※時間外学習に記された関連書籍とは、必ずしも下記の参考文献でなくてもかまいません。

【参考文献】

川満彰『陸軍中野学校と沖縄戦』（2018年）、浅井春夫・川満彰編著『戦争孤児たちの戦後史１総論編』（2020年）、川満彰『沖縄戦の子どもたち』（2021年）※すべて吉川弘文館より／上間陽子他編『復帰50年　沖縄子ども白書2022』（2022年、かもがわ出版）、各市町村史『証言集』『資料編』※適宜紹介します。

学びの手立て

それぞれの出身地、及び歴史を知りたい地域の資料館・博物館の見学、または「戦争体験集」を積極的に一読することをお勧めします。平和の礎だけでなく沖縄各地では慰霊之塔が建立されています。刻銘された親族などの名前を探し出し、どのように人物でどこでどのようにして亡くなったのか、ぜひ調査して下さい。その手法は助言します。

評価

授業への参加態度と理解度30%、学期末レポート70%　10回以上の出席がないとレポートは採点しません。授業以外に30時間の学習時間を有意義に活用していると判断できるレポートを評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

平和思想は、本講義だけで捉えることはできません。戦前の人々がどのように暮らしていたのか（民俗・社会学）、どのような政治態勢だったのか（近代史）を次のステップとして学んでください。

※ポリシーとの関連性　自立した社会人となるために、メディアの歴史と構造、ニュースと現在社会との関係を学び、報道を批判的に読む力を得る。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	マスコミ論	前期	月３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-謝花　直美	２年	授業終了後の教室と、メールで受け付けます。ptt1216@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

世論を形成するマスコミの誕生と発展の歴史、機能、課題を、現在社会と結びつけながら、理解する。また、沖縄戦で一度消滅した沖縄のジャーナリズムに関して、戦前から米軍占領期から現在までを、「沖縄ジャーナリズム」として位置づけ、具体的な報道を通して分析する。マスコミの送り出す情報を読み解き、考える作法を身に着ける。

メッセージ

長年新聞記者として取材した経験から現場に即した、実践的なジャーナリズムの在り方を伝える。また沖縄戦と沖縄戦後史を研究しており、歴史経緯を抑えながらニュースを解説する。

到達目標

近代社会とともに発展したマスコミの役割と機能、またジャーナリズムとは何かを理解した上で、生活の中で接するニュースの背景、読みとく方法、自分に引き寄せて考える方法を身に着ける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	授業内容の復習と課題
2	マスコミの誕生と変遷	同上
3	マスコミとジャーナリズム	同上
4	日本のジャーナリズム史①	同上
5	日本のジャーナリズム史②	同上
6	取材と報道の自由－法と倫理の観点から	同上
7	ジャーナリズムの現場①　取材と報道	同上
8	ジャーナリズムの現場②　客観報道の課題	同上
9	沖縄のジャーナリズム史①	同上
10	沖縄のジャーナリズム史②	同上
11	沖縄ジャーナリズムの現場①沖縄戦報道	同上
12	沖縄ジャーナリズムの現場②基地報道	同上
13	沖縄ジャーナリズムの現場③女性と子どもの視点から	同上
14	メディアリテラシーを身に着ける　－フェイクニュースの時代に	同上
15	ネット社会とジャーナリズム	同上
16	レポート返却・振り返り	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。毎回資料を配布する。

学びの手立て

講義内容をより深く理解するために、新聞を読む習慣を身に着ける。沖縄ジャーナリズムを考える上で、沖縄の新聞、テレビ報道に触れること。

評価

１．レポート・課題　60%、２．平常点40%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「沖縄平和学」「平和思想」「沖縄ジャーナリズム論」

※ポリシーとの関連性　基礎科目で専門分野（民俗学）の学問体系の基本理解が目指される

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	民俗学概論	後期	火４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	阿利　よし乃	１年	①講義終了後に教室で ②E-mail：y.ari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本科目は社会文化学科の基礎科目、教職科目に位置づけられています。この科目では民俗学における基本的なものの見方や考え方を学びます。長い時間をかけて、人から人へと伝えられてきた暮らしの移り変わりの歴史を取り上げます。名もなき人びとの生き方の変遷を民俗学という学問から考えていきます。

メッセージ

日本各地や沖縄の事例を紹介しながら、民俗学の知見を広く浅く扱います。高校までの日本史の知識を前提に、民衆の生活から見たらそれらがどのように捉えられるのか、その一端に触れてもらえればと思います。

到達目標

①民俗学の基本的な知識と考え方を身につける
②民俗学の学術用語や概念を端的に説明できるようになる。
③自身の日常の中から民俗事象を見出すことができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス／民俗学とは	復習、課題に取り組む
2	民俗学の成立と発達、日本民俗学の先達たち	復習、課題に取り組む
3	常民と常民性	復習、課題に取り組む
4	ハレとケそしてケガレ	復習、課題に取り組む
5	ムラとイエ	復習、課題に取り組む
6	稲作と畑作	復習、課題に取り組む
7	山民と海民	復習、課題に取り組む
8	女性と子ども、老人の文化	復習、課題に取り組む
9	交際と贈答	復習、課題に取り組む
10	盆と正月	復習、課題に取り組む
11	カミとヒト	復習、課題に取り組む
12	妖怪と幽霊	復習、課題に取り組む
13	仏教と民俗	復習、課題に取り組む
14	都市の民俗	復習、課題に取り組む
15	現代民俗学とヴァナキュラー	レポート課題
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

毎回プリントを配付します。
テキストとしては宮田登『民俗学』（講談社学術文庫、2019年）に準拠しています。
初回と最終回のテキストとして島村恭則『みんなの民俗学　ヴァナキュラーってなんだ？』（平凡社新書、2020年）を用います。

学びの手立て

①履修の心構え
・毎回出席をとります。遅刻は減点します。
・私語や周囲に迷惑をかける行為は厳禁とします。
・各回で課題を出題します。この課題は評価の30％を占めています。積極的に課題に取り組みましょう。
②学びを深めるために
・自身の日常生活を民俗学の視点から捉えてみましょう。
・日常的に新聞を読むことを習慣にしてください。とくに県内紙の地域面には、たくさんの民俗事象が記されています。

評価

①参加姿勢30％（期限を守って各回の課題を提出しているか、積極的に各回の課題に取り組んでいるか）
②小課題の取り組み30％（期限を守って小課題を提出しているか、積極的に小課題に取り組んでいるか、授業の理解度）
③期末レポート40％（期限を守って小課題を提出しているか、積極的にレポートに取り組んでいるか、授業の理解度）

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目
南島民俗学Ⅰ、南島民俗学Ⅱ、南島民俗学史Ⅰ、南島民俗学史Ⅱ
沖縄の民俗を理解するためには、文化人類学の視点を踏まえることも大切です。人類学の講義を受講することを勧めます。

※ポリシーとの関連性　民俗学の新たな動向を踏まえつつ、本土や海外の事例分析を通して、イメージとは異なる南島文化理解のためのヒントを探ります。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 民俗・人類学特殊講義Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	集中		2
担当者 -政岡　伸洋	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に灘で受け付けます	

学びの準備

ねらい

本講義では、新たな民俗学が重視する日常の暮らしを踏まえつつ、本土や海外のお祭りを対象に、沖縄の事例との比較も視野に入れながら検討し、あわせて東日本大震災やコロナ禍といった災害の問題についても考えることで、従来の一般的なイメージを問い直し、伝統的なもののみならず現代を含めた、南島を対象とする新たな民俗学の視点や方法の可能性も探っていければと考えています。

メッセージ

①　本講義は、8月21日～24日までの4日間、2時間目から5時間目に集中講義での実施を予定しています。必ず出席してください。
②　本土や海外の事例分析が中心になりますが、対象となる地域の専門的な知識がなくても理解できるように解説します。.従来のイメージとは異なる当たり前を問い直す面白さを実感してもらえればと思います。

到達目標

この授業では、身近な生活文化に対し、歴史的・社会的・経済的背景、つまり日常の暮らしの背景を踏まえた上で、その特徴について理解し説明できることを到達目標にしています。今日の民俗学の大きな特徴は、身近に起こるさまざまな現象に対し、フィールドワークによって得られた日常の暮らしに関する資料にもとづいて、安易なイメージレベルではなく、当たり前を問い直し、幅広い視野からの理解を提示する点にあります。このような民俗学のまなざしを身につけるととで、学問的な知識はもちろんのこと、将来、身近で自明のものとされるさまざな社会的・文化的事象や問題に対して、イメージに引きずられることなく批判的にとらえなおし、考える能力を身につけ、これを社会への貢献などに応用することができるようになるのではないかと考えています。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション―授業の進め方・受講上の注意点―	参考文献で新たな民俗学を調べる
2	大きく変わる民俗学①―「民俗」に対するイメージと実際―	「民俗」概念の問題点を考える
3	大きく変わる民俗学②―民俗学は何を考える学問なのか?―	民俗学に対するイメージを問い直す
4	祭りはなぜ受け継がれるのか①―京都やすらい祭りと今宮神社―	信仰と神社の立地の意味を考える
5	祭りはなぜ受け継がれるのか②―御霊信仰とやすらい祭り―	なぜ御霊信仰なのかについて考える
6	祭りはなぜ受け継がれるのか③ ―祭りの現状とその民俗的特質―	際りが存続する背景を考える
7	韓国済州島の宗教儀礼① ―済州島の村祭りの特徴―	済州島の村祭りの特徴を整理する
8	韓国済州島の宗教儀礼② ―巫俗式儀礼と日常の暮らし―	際りと暮らしの関係を考える
9	韓国済州島の宗教儀礼③ ―観光化がもたらしたもの―	観光と民俗について考える
10	沖永良部島の「しにぐ祭」再考① ―沖永良部島と琉球文化―	従来の民俗理解の課題を考える
11	沖永良部島の「しにぐ祭」再考② ―世之主伝説と「しにぐ祭」の意義―	伝説を歴史的に再考する
12	沖永良部島の「しにぐ祭」再考③ ―奄美の琉球文化的要素を再考する―	奄美の琉球文化的要素を再考する
13	災害と民俗学① ―民俗学で東日本大震災を考える―	災害状況を日常との関連で考える
14	災害と民俗学② ―民俗学の被災地支援とは?―	民俗学的な支援の方法を考える
15	災害と民俗学③ ―ドイツのロック・ダウンの中でコロナ禍を考えた―	パンデミックの混乱の背景を考える
16	まとめ ―当たり前を問い直す民俗学の可能性 ―	これまでの内容を整理する

テキスト・参考文献・資料など

①テキスト
テキストは使用せず、プリントを配布し、それに基づいて授業を行います。
②参考文献については、以下の通りです。
岩本通弥・門田岳久・及川祥平、田村和彦・川松あかり編『民俗学の思考法〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える』、慶應義塾大学出版会、必要に応じて、授業の中で紹介します。
このほか、必要に応じて、授業の中で紹介します。

学びの手立て

①　履修の心構え
私語や授業中の出入りなど、他の学生の迷惑になるような行為は厳禁とします。詳しくは、最初の授業でお話しします。
②　学びを深めるために
授業の内容は、沖永良部島の話を除き、本土や海外の事例分析をもとに進めていきますが、特にその視点や方法を学んでもらえればと思います。また、お祭りの話についてはみなさんの地元や身近な事例と、災害についてはコロナ禍での沖縄の状況とともに沖縄戦とその後の混乱状況との比較も心がけ、新しい研究課題(こんなことを考えてみると面白いなど)があるのではないかという点を常に考えるようにしてみてください。

評価

レポート70%、平常点30%
レポートの評価基準は、課題に対しての民俗学の視点や方法を踏まえた説明の論理的整合性を軸に評価します。
平常点については、リアクションペーパー等による授業参加の積極性を軸に評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目は「南島民俗学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「琉球アジア文化論」「文化人類学理論」などです。
本講義で得た視点や方法を、卒業論文作成等に活かしてもらえればと思います。

※ポリシーとの関連性　本科目は、「沖縄」・「フィールドワーク」・「比較文化的観点」を強調する本学科の教育目標の実現において不可欠なものである。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 琉球アジア文化論	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水４	2
担当者 石垣　直	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、「アジア」（特に東アジア）のなかの琉球・沖縄の文化を、比較文化／文化人類学的な視点から学ぶ。１年次に学ぶ「民俗学概論」・「文化人類学概論」をはじめ、民俗・人類学関連の講義・ゼミでの学習を踏まえ、「琉球・沖縄文化」を広く「東アジアの諸文化」のなかに位置づけることを目指す。

メッセージ

琉球弧の島々の歴史・文化を学ぶことは大切である。しかし、その特徴は周辺諸地域との比較を通じてこそより一層明らかになる。公務員・教員あるいは観光関連その他の民間企業で働くとしても、この島々で育まれてきた文化の特徴を周辺地域と比較して理解することは極めて重要である。「琉球・沖縄を知り、さらにその先に進もう！」とする学生の志に期待したい。

到達目標

本講義を履修する前段階として、沖縄文化入門、民俗学概論、文化人類学概論、アジア文化概論などの科目を履修していることが必要である。また、琉球・沖縄文化はもとよりアジア諸地域の文化に関する基礎的理解も重要であるため、南島民俗学史Ⅰ・Ⅱや南島民俗学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳあるいはアジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれか複数の科目を合わせて履修することが望ましい。学生は、本講義の履修によって、琉球・沖縄文化を広く東アジアの諸文化の一つとして位置づけることができるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス――アジアの中の琉球・沖縄	東亜内での「位置性」を学ぶ
2	映像鑑賞（１）	関連映像を鑑賞する
3	東アジアの中の琉球・沖縄史（１）	文化と歴史の関係を調べる
4	東アジアの中の琉球・沖縄史（２）	文化と歴史の関係を調べる
5	映像鑑賞（２）	関連映像を鑑賞する
6	東アジアの中の琉球・沖縄の親族制度	周辺地域の事例と比較する
7	東アジアの中の琉球・沖縄の葬墓制と祖先祭祀	周辺地域の事例と比較する
8	東アジアの中の琉球・沖縄の年中行事	周辺地域の事例を比較する
9	東アジアの中の琉球・沖縄の人生儀礼	周辺地域の事例と比較する
10	東アジアの中の琉球・沖縄のオナリ神信仰	周辺地域の事例と比較する
11	映像鑑賞（３）	関連映像を鑑賞する
12	琉球王国と久米村――海洋交易国家の「要」	久米村の歴史・文化を調べる
13	東アジアの中の琉球・沖縄の物質文化	物質文化の特徴を調べる
14	東アジアの中の琉球・沖縄の食文化	食の特徴を調べる
15	まとめ	全体の講義内容を復習する
16	期末テスト	

テキスト・参考文献・資料など

特定のテキストはない。
具体的な参考文献については、毎回の授業で配布するレジュメ中で提示する。

学びの手立て

・周辺アジア地域、特に東アジアの諸社会・文化について関心を払い、沖縄の社会・文化をそれらとの比較において考えることを心掛けてほしい。
・毎回講義の際に出席確認をかねて受講生にレスポンス・ペーパーの提出を求めるので、毎回の講義の要点を自分なりに整理する癖をつけること。
・他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意すること。

評価

平常点（30点）、期末試験／課題（70点）

学びの継続

次のステージ・関連科目

本講義で学んだ内容を、各自がレポートや卒業論文を作成する際に活用してほしい。

※ポリシーとの関連性　本学科で学ぶために必要な技能や思考、及び南島地域に関する基本的な知識を習得するための導入科目　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 琉球・沖縄史入門	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水４	2
担当者 宮城　弘樹・深澤　秋人・市川　智生・秋山　道宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	科目全体については市川（t.ichikawa@okiu.ac.jp）へ、講義内容は各担当者へ。	

学びの準備

ねらい

本講義は、先史古代から現代に至るまでの南島地域の歴史を、具体的な事象やトピックを通じて学ぶことを通じて、学科のカリキュラム・ポリシーに掲げる「南島地域における基本的な知識の習得」を目指すための科目です。4名の学科専任教員がオムニバス形式で担当します。

メッセージ

入門と題されたの3つの科目は、いずれもこれから社会文化学科で学ぶために必要な基本的知識を学ぶための科目です。高校までの歴史の授業では学べなかった琉球・沖縄史の特徴と広がりをしっかりと学んでほしいと思います。（講義は原則として対面形式で実施します。）

到達目標

①　琉球・沖縄史の具体的なできごとを、理解することができる。
②　琉球・沖縄史の具体的なできごとについて、自ら調べることができる。
③　琉球・沖縄史の具体的なできごとについて、根拠に基づいて、論理的に説明することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	琉球沖縄史への招待（4/12：宮城）	参考文献の読み込み
2	旧石器時代・沖縄貝塚時代（4/19：宮城）	参考文献の読み込み
3	九州－沖縄の貝交易、宮古八重山の先史文化（4/26：宮城）	参考文献の読み込み
4	グスク時代（5/10：宮城）	参考文献の読み込み
5	古琉球から近世琉球へ―終わりと始まり―（5/17：深澤）	レジュメの参考文献にあたる
6	近世の琉球社会①－地方行政・身分・階層－（5/24：深澤）	レジュメの参考文献にあたる
7	近世の琉球社会②－割り振られた特産物－5/31：深澤）	レジュメの参考文献にあたる
8	琉球王国と琉球社会―琉球併合と近世琉球の終わり―（6/7：深澤）	レジュメの参考文献にあたる
9	旧慣温存期の沖縄県政（6/14：市川）	第1週から第8週分の復習
10	日清・日露戦争と沖縄社会（6/21：市川）	前回の復習
11	大正・昭和初期の沖縄と経済振興（6/28：市川）	前回の復習
12	「風土病」と近代の沖縄（7/5 市川）	前回の復習
13	戦時下の沖縄社会（沖縄戦）（7/12：秋山）	配布資料の精読
14	戦後復興から島ぐるみ闘争へ（7/19：秋山）	配布資料の精読
15	日本復帰に託されたもの（7/26：秋山）	配布資料の精読
16		

テキスト・参考文献・資料など

①　テキスト
宮城弘樹・秋山道宏・野添文彬・深澤秋人編『大学で学ぶ沖縄の歴史』（吉川弘文館、2023年）を教科書として指定するので、朝野書房などで各自購入のこと。
②　参考文献
各回の内容に関する参考文献は、講義の中で紹介する。

学びの手立て

①　履修の心構え
社会文化学科では、1年次の学年末に、2年次から始まる領域ゼミを選択することとしている。本講義はそうした領域選択の参考にもなることを意識して受講してもらいたい。
②　学びを深めるために
講義で学んだ具体的な歴史の事実や関連事項については、講義中に紹介された文献を読んだり、博物館・資料館を訪ねたりして自ら確認するとともに、そうした事実の概要や意義について、自分なりの説明を考える習慣を身につけてほしい。

評価

4人の担当者が100点満点で評価した結果を合計し、100点に換算したものを最終成績とする。
なお、担当者ごとの評価方法と割合は下記の通りとする。
宮城：小テスト（30%）とレポート（70%）　　深澤：レポート（100%）
市川：小テスト（30%）とレポート（70%）　　秋山：レポート（100%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

①　次のステージ　本科目で学んだ具体的な知識を、後期開設の概論科目で理論化、体系化できるようにしてください。
②　関連科目　1年次後期の概論科目（考古学概論、歴史学概論、平和学概論ほか）、2年次以降の考古先史領域や歴史領域の関連科目。

※ポリシーとの関連性　前近代における沖縄の対外関係（主に中国との関係を軸に）を捉えるための歴史的思考力、視野を身につける。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 琉中交流史	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	土２	2
担当者 -山田　浩世	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

本講義は、14世紀後半から19世紀後半における琉球と中国との交流史（対外関係・国際関係）を中心に、東アジア・東南アジア世界における琉球の位置づけやありようを歴史的に考え捉えることを目標とする。また、座学の他に具体的な各種史料や絵図、地図などを通して受講者が自ら情報を整理し考えることで、歴史的な思考力や視野を実践的に身につけることも目指します。

メッセージ

本講義では、担当教員が講義するほかに、課題に対し受講者間での討議を通じて沖縄の東アジアにおける位相を考えていきます。自分が生きている社会の成り立ちやありようを楽しみながら考えましょう。講義を通じてさまざまな事象を多角的・重層的に理解できるようになることを期待します。

到達目標

講義を通じて沖縄の歴史・文化を国際的な視野、関係から捉えられるようになることができる。講義を通じて中国との関係を中心とする東アジア・東南アジアの国際関係の中での琉球のありようを多角的に理解し、重層的な沖縄文化の成り立ちを歴史的に理解でき、また国際的な視野で歴史・文化を考える視野を身につけ考えることができるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義の進め方および講義導入（重層的な沖縄）	シラバスをよく読むこと
2	琉球文化圏の成立と中国陶磁器	配布資料の復習と整理
3	三山時代の沖縄とクニのかたち	配布資料の復習と整理
4	交易の中の琉中交流史〔交易構造を考える〕	配布資料の復習と整理
5	琉球王国の外交と東南アジア貿易	配布資料の復習と整理
6	琉球王国の交易と二つの繁栄	配布資料の復習と整理
7	倭寇的状況と琉球―マージナルな世界の中の琉球	配布資料の復習と整理
8	中間考査	講義１～７の配布資料の整理
9	テスト解説＆島津侵入事件を考える	配布資料の復習と整理
10	近世琉球の貿易と日中関係	配布資料の復習と整理
11	首里那覇港図屏風を読む（上）	配布資料の復習と整理
12	首里那覇港図屏風を読む（下）	配布資料の復習と整理
13	琉球の小国外交から考える	配布資料の復習と整理
14	料理から見る中琉日関係	配布資料の復習と整理
15	琉球処分と琉中関係	配布資料の復習と整理
16	期末考査	講義９～１５の配布資料再読

テキスト・参考文献・資料など

授業は配布資料で行い、担当教員より配布します。必要な文献などは、授業の中で適宜紹介します。

学びの手立て

配布した資料をもとに座学形式で進める。講義中の重要事項などはメモし、琉中関係史からどのような問題が見えてくるのかを積極的に理解することを求め、歴史を観察する能力の涵養を目指す。①自ら考えることを重視するため講義への積極的な参加を望みます。②他の受講者の迷惑とならないよう遅刻はしないこと。③配布資料を通じて授業を行うが欠席した場合や受講した際は内容の整理・復習を心懸けること。

評価

中間考査（５０点：講義１～７の内容を問う）と期末考査（５０％：講義９～１５の内容を問う）に討議への積極的な参加などの授業態度や出席状況などを加味して評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

本講義終了後は、獲得した新たな視点や思考方法を活かし、社会や歴史を継続して考えていくことを望みます。

※ポリシーとの関連性　専門分野における調査・研究能力を育成し、卒業論文作成を目的とする「演習科目」　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	領域演習	通年	木４	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：藤波　潔　後期：深澤　秋人	２年	藤波：fujinami@okiu.ac.jp 深澤：a.fukazawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

社会文化学科では、領域演習を「専門領域における調査・研究の基礎を構築する」科目として位置づけている。したがって、本演習では、歴史学の専門的な研究方法の基礎を修得させることを目的とする。具体的には、歴史研究に不可欠な工具類の活用法、専門文献の収集法、基礎的な歴史概念やフィールドワークを踏まえた歴史事象の理解を目的とする。

メッセージ

歴史領域の受講生は、３年次の演習Ｉで前近代史と近現代史の２つのゼミに分かれることになる。そのため、演習Ｉを担当する２人の教員で領域演習を担当するので、３年次以降の演習選択の参考にしてもらいたい。

到達目標

（１）琉球・沖縄史に関係する基本的な歴史概念や歴史事象を理解することができる。
（２）歴史研究に必要な研究書や専門論文を収集し、概要を読解することができる。
（３）歴史研究に不可欠な工具類やデータベースを利用することができる。
（４）歴史史料読解の基本的能力を習得できる。
（５）フィールドワークに積極的に参加し、五感を活用して歴史理解を深めようとする姿勢を持つことができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス（担当：藤波１～15回）	シラバス内容の理解
2	歴史研究の全体像	ワークシートの作成・提出
3	基本的な事実の把握①（基本文献の理解）	ワークシートの作成・提出
4	基本的な事実の把握②（研究工具の理解）	ワークシートの作成・提出
5	基本的な事実の把握③（博物館の利用）	ワークシートの作成・提出
6	フィールドワーク実習①（県内博物館の訪問）	ワークシートの作成・提出
7	先行研究の調査①（CiNiiの利用）	ワークシートの作成・提出
8	先行研究の調査②（史学雑誌の利用）	ワークシートの作成・提出
9	フィールドワーク実習②（波之上地区の訪問）	ワークシートの作成・提出
10	歴史資料の収集①（歴史資料の多様性の理解）	ワークシートの作成・提出
11	歴史資料の収集②（歴史資料の所在の理解）	ワークシートの作成・提出
12	フィールドワーク実習③（歴史資料の収集）	ワークシートの作成・提出
13	歴史資料の読解①（公文書資料の読解）	ワークシートの作成・提出
14	歴史資料の読解②（公文書資料読解演習）	ワークシートの作成・提出
15	歴史資料の読解③（公文書資料読解演習の回答）	ワークシートの作成・提出
16	イントロダクション、後期の授業計画の確認（担当：深澤16～31回）	到達目標の確認
17	『沖縄県史』と県内市町村史の刊行状況	レジュメの参考文献にあたる
18	県内市町村史の資料編―文献資料集に接する―	課題提出の準備
19	近世琉球の地域社会－宜野湾間切我如古村の世界－	字我如古の小字を再確認する
20	我如古旧集落のフィールドワーク	課題提出の準備
21	「日記総目録」の解題を読む	『琉球王国評定所文書』にあたる
22	「日記総目録」を読む①	史料を音読して事実関係を理解する
23	「日記総目録」を読む②	史料を音読して事実関係を理解する
24	「日記総目録」を読む③	史料を音読して事実関係を理解する
25	「日記総目録」を読む④	史料を音読して事実関係を理解する
26	「日記総目録」を読む⑤	課題取り組みへの準備
27	琉球・沖縄史研究と比嘉春潮	『比嘉春潮全集』全５巻にあたる
28	「ある筆算人の一生」を読む①	課題の作成
29	「ある筆算人の一生」を読む②	課題の作成
30	「ある筆算人の一生」を読む③	課題の作成
31	まとめ、３年次に向けて	課題の提出、到達目標の再確認

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用せず、レジュメ・プリントを配付する。 参考文献は、適宜紹介する。
	学びの手立て ① 社会文化学科２年次を対象とした学科専門必修科目である。 ② １年次の学年末に提出した領域演習希望届に基づき、歴史領域に配属された者だけが履修できる。 ③ ゼミは、学生の主体的な学びによって成り立つので、積極的な参加が求められる。 ④ 前期、後期の詳細な内容は、それぞれの担当者が１回目の授業の際に説明する。
	評価 上記の到達目標の達成を指標として、前期、後期それぞれ100点で評価し、合算して総合成績とする。なお、担当者ごとの評価方法と割合は、下記の通りとする。 藤波：事実確認（30%）、先行研究調査（20%）、フィールドワーク（20%）、史料読解（30%）の各課題 深澤：４回の課題（80%）、授業参加度（20%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 歴史領域の２年次は、領域演習の他に「社会調査法Ⅰ・Ⅱ」「外国語資料講読演習Ⅰ・Ⅱ」が必修科目となっている。それぞれクラス指定があるので、指定されたクラスで受講すること。 また、異文化理解科目のうち１科目以上が選択必修科目となっているが「アジア史」は必ず履修すること。 歴史研究にとって史料読解は不可欠の能力なので、「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」は早めに修得することを勧める。

※ポリシーとの関連性　専門分野に関する調査・研究の基礎を構築するための演習科目

［　　／演習］

科目基本情報	科目名 領域演習	期 別	曜日・時限	単 位
		通年	木４	4
	担当者 前期：崎濱　佳代　後期： 秋山　道宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		２年	講義時間およびオフィスアワーに対応する	

学びの準備

ねらい

社会文化学科２年次の「社会・平和領域」の学生を対象として、ゼミナール形式の授業を行う。社会文化学科で取り組む調査・研究の基礎を構築するために、専門用語・概念の理解および専門的な調査の方法を身につけることを目的とする。

メッセージ

専門的な学びの基礎をしっかりと身につけること。

到達目標

専門的な調査・研究方法の基礎を修得し、３年次の演習と実習に対応できる能力を身につける

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	社会学とはなにか：これから学ぶこと	授業で指示した課題に取り組む
2	自己紹介	授業で指示した課題に取り組む
3	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（家族）	授業で指示した課題に取り組む
4	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（地域）	授業で指示した課題に取り組む
5	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（生活）	授業で指示した課題に取り組む
6	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（社会的役割）	授業で指示した課題に取り組む
7	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（社会関係資本と連帯）	授業で指示した課題に取り組む
8	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（社会問題）	授業で指示した課題に取り組む
9	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（グローバル化と現代①）	授業で指示した課題に取り組む
10	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（グローバル化と現代②）	授業で指示した課題に取り組む
11	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（グローバル化と現代③）	授業で指示した課題に取り組む
12	ビブリオ・バトル①	授業で指示した課題に取り組む
13	ビブリオ・バトル②	授業で指示した課題に取り組む
14	ビブリオ・バトル③	授業で指示した課題に取り組む
15	ビブリオ・バトル④	授業で指示した課題に取り組む
16	後期の課題と進め方について	配布資料の精読と確認
17	平和学の入門的文献に関する報告とディスカッション①	文献の精読と報告の準備
18	平和学の入門的文献に関する報告とディスカッション②	文献の精読と報告の準備
19	平和学の入門的文献に関する報告とディスカッション③	文献の精読と報告の準備
20	平和学の入門的文献に関する報告とディスカッション④	文献の精読と報告の準備
21	平和学の入門的文献に関する報告とディスカッション⑤	文献の精読と報告の準備
22	新聞記事に関する報告とディスカッション①	新聞記事の調査と報告の準備
23	新聞記事に関する報告とディスカッション②	新聞記事の調査と報告の準備
24	フィールドワーク課題についての説明①課題・目的・参加態度	配布資料の精読と確認
25	フィールドワーク課題についての説明②調査計画の立て方についての説明	配布資料の精読と確認
26	調査の対象と目的に関する議論と報告	配布資料の精読と確認
27	調査の実施についての議論と報告	関連情報の収集と報告の準備
28	調査報告とディスカッション①	調査内容のまとめと報告の準備
29	調査報告とディスカッション②	調査内容のまとめと報告の準備
30	調査報告とディスカッション③	調査内容のまとめと報告の準備
31		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 【前期】 ①輪読する社会学の入門的文献については、授業で配布する。 ②ビブリオ・バトルについては、テーマに関する本を各自選定・準備して対応する。 【後期】 各回に必要な文献・資料については講義内で提示する。
	学びの手立て 課題に取り組む熱意とチームワークが不可欠である。
	評価 【前期】参加姿勢20%、各種課題への取り組み40%、報告内容および提出状況40% 【後期】参加姿勢30%、課題への取り組みと報告内容70%

学びの継続	次のステージ・関連科目 3年次の演習Ⅰおよび実習につながる

※ポリシーとの関連性　南島を考古学という専門領域で見ることを学ぶ科目であり、その方法について実地で学び、スキルを身につける。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	領域演習	通年	木４	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：宮城　弘樹　後期：新里　貴之	２年	研究室5-417-1（新里）、417-2（宮城）を訪ねること	

学びの準備

ねらい

実際に発掘調査によって出土した出土品に関する学説について理解することができる。考古学における分布調査、発掘調査の方法と記録法、そして発掘調査報告書を作成するまでの一連の流れを理解できる。

メッセージ

考古学の方法を実地で身につけることのできる科目です。遺跡の発掘調査は破壊行為であることを充分に認識し、周到な計画と準備、注意を必要とすることを学んでください。

到達目標

１）考古学の専門用語を理解する。
２）考古学の研究法を学ぶ。
３）専門的な論文や発掘調査報告書を読んで理解することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	前期ガイダンス	シラバスを精読すること
2	考古学とはどんな学問か？	配布資料を精読すること
3	発掘調査報告書の文献の探し方	配布資料を精読すること
4	遺構について（1）	配布資料を精読すること
5	遺構について（2）	各班課題に取り組むこと
6	人工遺物について（1）	配布資料を精読すること
7	人工遺物について（2）	各班課題に取り組むこと
8	自然遺物について（1）	配布資料を精読すること
9	自然遺物について（2）	各班課題に取り組むこと
10	考古学で読み解く社会（1）	配布資料を精読すること
11	考古学で読み解く社会（2）	各班課題に取り組むこと
12	遺物・遺構を紹介をしよう（1）	各自発表を準備すること
13	遺物・遺構を紹介をしよう（2）	各班課題に取り組むこと
14	発掘調査の準備	配布資料を精読すること
15	前期まとめ	期末レポートを提出
16	後期ガイダンス	シラバスを精読すること
17	論文・発掘調査報告購読　1	随時遺跡関連論文・報告書を精読
18	論文・発掘調査報告購読　2	随時遺跡関連論文・報告書を精読
19	日誌・図面の整理　1	随時遺跡関連論文・報告書を精読
20	日誌・図面の整理　2	随時遺跡関連論文・報告書を精読
21	遺物注記・接合　1	随時遺跡関連論文・報告書を精読
22	遺物注記・接合　2	随時遺跡関連論文・報告書を精読
23	遺物の分類・集計　1	随時遺跡関連論文・報告書を精読
24	遺物の分類・集計　2	随時遺跡関連論文・報告書を精読
25	遺物実測　1	随時遺跡関連論文・報告書を精読
26	遺物実測　2	随時遺跡関連論文・報告書を精読
27	遺物実測　3	随時遺跡関連論文・報告書を精読
28	遺物実測　4	随時遺跡関連論文・報告書を精読
29	遺物実測　5	随時遺跡関連論文・報告書を精読
30	遺物実測　6	随時遺跡関連論文・報告書を精読
31	期末課題	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など １）テキスト：特定のテキストは指定しない。 参考文献：高宮廣衛『先史古代の沖縄』第一書房　1991年 鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版会　1988年 ほか、講義において随時紹介する。
	学びの手立て ①「履修の心構え」 出欠確認については、毎回厳格に実施する（遅刻・欠席は事前の[直前ではない]連絡が必要）。 考古学はモノから歴史を学ぶ学問である。モノの取り扱いには最新の注意を払うこと。 ②「学びを深めるために」 発掘調査報告書を作成するため、専門用語・知識の理解が必要である。参考となる発掘調査報告書に目配りすること。
	評価 １）随時課す試験・期末テスト（50%）。各自発表・平常点（50%）。 ２）無断の遅刻・欠席10回以上は「不可」とする。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「南島先史学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「考古学特講Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」「考古学概論２」。 遺跡を理解するには、多様な視点が必須となるため、社会文化学科科目を広く受講すること。

※ポリシーとの関連性　本演習では、民俗学・文化人類学分野が扱う民俗・文化的な個別事象を、フィールドワークを通じて理解するための基礎を学ぶ。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	領域演習	通年	木４	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：石垣　直　後期：阿利　よし乃	２年	石垣（nishigaki@oku.ac.jp） 阿利（y.ari@okiu.ac.jp）	

学びの準備

ねらい

本演習の目的は、民俗学ならびに文化人類学の根幹をなす調査・研究手法である「フィールドワーク」（現地調査)を通じて、対象社会・文化の諸テーマ／トピックに対する理解を深め、その調査成果を整理・分析し、報告書・論文としてまとめる作法の基礎を学ぶことにある。

メッセージ

①テーマ設定→②関連情報の収集・検討→③フィールドワーク→④調査データの整理・分析・発表（他者への説明・説得）。このプロセスを大学時代に経験することは、学生たちが本学卒業後どの分野に進もうとも、必ず役に立つはずである。社会文化学科の真骨頂であるフィールドワークから、ぜひ多くのことを学んで欲しい。

到達目標

民俗学および文化人類学分野における調査・研究の基礎を理解し、フィールドワークを実践することができるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス＆大学での学びとライフ・プランニング	学習計画とライフプラン構想
2	報告・論文作成の作法（１）	報告・論文の作法を理解する
3	報告・論文作成の作法（２）	報告・論文の作法を理解する
4	報告・論文作成の作法（３）	報告・論文の作法を理解する
5	フィールドワークの作法（１）	FWの作法を理解する
6	フィールドワークの作法（２）	FWの作法を理解する
7	ミニ・フィールドワーク	FWを実践する
8	基本文献の輪読（１）	課題文献を読解する
9	基本文献の輪読（２）	課題文献を読解する
10	基本文献の輪読（３）	課題文献を読解する
11	基本文献の輪読（４）	課題文献を読解する
12	基本文献の輪読（５）	課題文献を読解する
13	課題発表（１）	発表の準備と振り返り
14	課題発表（２）	発表の準備と振り返り
15	課題発表（３）＆前期のまとめ	発表＆前期の振り返り
16	予備日	予備日
17	ガイダンス	
18	研究計画書作成①	調査テーマ構想、文献読込み
19	研究計画書作成②	研究計画の検討、話し合い
20	研究計画書作成③	研究計画の検討、話し合い
21	グループ発表①	発表準備、振り返り
22	グループ発表②	発表準備、振り返り
23	グループ発表③	発表準備、振り返り
24	聞き書きの方法	質問項目の検討、作成
25	聞き書きの実践	文献の読込み
26	ミニ・フィールドワーク①	データ整理
27	ミニ・フィールドワーク②	データ整理
28	フィールドノートの整理法	データ整理
29	調査項目の設定	文献の読込み、調査目的の設定
30	後期のまとめ、ゼミ選択に向けて	後期の振り返り
31	予備日	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 石垣：日本文化人類学会（監修）2011『フィールドワーカーズ・ハンドブック』世界思想社 阿利：髙岡弘幸・島村恭則・川村清志・松村薫子編　2019『民俗学読本－フィールドへのいざない』風響社
	学びの手立て 沖縄各地の祭りやイベントに関心を持ち、その内容を調べてみよう。まずは現場（フィールド）に足を運んで、そこで見聞きしたことを、ノート、レコーダー、カメラ、ビデオなどを用いて、記録してみよう。その際、現地の事情に詳しい話者との出会いは重要である。こうして得られた情報を関連する先行研究や資料などが提供する情報と組み合わせて整理することで、あなたは対象社会・文化の構造・メカニズムを理解することができる。
	評価 演習への参加姿勢を重視し、総合的に評価する（平常点：60点、課題：40点）。 教員によっては、期末試験・課題レポートや個別発表／班発表を課す場合がある。

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄文化入門、民俗学概論、文化人類学概論、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、琉球アジア文化論、文化人類学理論、etc.

※ポリシーとの関連性　専門分野における学問体系及び調査・研究技能の基本を理解する「基礎科目」　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 歴史学概論	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火２	2
担当者 藤波　潔	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室（5434）、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、歴史を学ぶ目的を確認した上で、人間が過去の出来事をどのように認識してきたのかについて考察します。また、歴史認識をめぐる摩擦という現代的課題について、その問題の所在を幾つかの事例に基づいて把握します。これらにより、歴史を学ぶことにおける人間と社会の関係を理解し、その前提に立って歴史を学ぶことの意義を考えられるようにすることを目的とします。

メッセージ

①　この科目は、社会文化学科１年時を対象とした、学科専門の必修科目です。
②　「学問体系の基本を理解する」ことを目的とした「基礎科目」として位置づけられていますので、「学問としての歴史学」を学びます（日本史や世界史のような通史を学ぶのではありません）。

到達目標

（１）特定の歴史理論について、その理論が登場した当時の時代や社会との関わりから説明することができる。
（２）現代社会の状況を踏まえつつ、「歴史問題」の実態を理解し、その問題の所在を自らの言葉で論理的に表現することができる。
（３）歴史認識の歴史に関わる人物や基本的な歴史理論を修得し、特定の歴史理論について論理的に説明できる。
（４）歴史認識に関係する資料を読解し、その結果を表現できる。
（５）時間外学習に主体的に取り組み、「学問としての歴史」を学ぼうとする姿勢を有することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	09/19 ガイダンス：講義に関するルールは何か？	シラバス記載内容の理解
2	09/26 イントロダクション：なぜ、どのように歴史を学ぶのか？	ワークシートの作成・提出
3	10/03 社会と歴史認識の関係①（ギリシア・ローマ①）	ワークシートの作成・提出
4	10/17 社会と歴史認識の関係②（ギリシア・ローマ②）	ワークシートの作成・提出
5	10/24 社会と歴史認識の関係③（ヨーロッパ中世社会の特徴）	ワークシートの作成・提出
6	10/31 社会と歴史認識の関係④（中世社会と普遍史の成立）	ワークシートの作成・提出
7	11/07 社会と歴史認識の関係⑤（ルネサンス的歴史認識）	ワークシートの作成・提出
8	11/14 社会と歴史認識の関係⑥（啓蒙主義の時代と進歩史観）	ワークシートの作成・提出
9	11/21 社会と歴史認識の関係⑦（19世紀ヨーロッパ世界とロマン主義）	ワークシートの作成・提出
10	11/28 社会と歴史認識の関係⑧（ランケと近代歴史学の成立）	ワークシートの作成・提出
11	12/05 社会と歴史認識の関係⑨（唯物史観とアナール派）	ワークシートの作成・提出
12	12/12 現代の「歴史問題」①（独仏間の事例）	ワークシートの作成・提出
13	12/19 現代の「歴史問題」②（日韓間の事例①）	ワークシートの作成・提出
14	01/09 現代の「歴史問題」③（日韓間の事例②）	ワークシートの作成・提出
15	01/16 現代の「歴史問題」④（問題の所在と克服へ向けて）	ワークシートの作成・提出
16	レポート型学期末試験	レポート試験の準備

テキスト・参考文献・資料など

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付します。
主な参考文献は、下記の通りです。
①山本博文『歴史をつかむ技法』（新潮社、2013年）、②弓削達『歴史学入門』（東京大学出版会、1986年、③E.H.カー『歴史とは何か』（岩波書店、1962年）、④南塚信吾『世界史なんていらない？』（岩波書店、2007年）、他

学びの手立て

①　履修の心構え
　単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。講義をしっかりと聴き、重要な点はメモを作成した上で、ノートの作成に取り組んで、ワークシートを作成・提出するようにしてください。
②　学びを深めるために
　講義内容を振り返ることのできる、自分独自の「ノート作成術」を確立してください。ノートは、講義中に作成する「メモ」、講義資料、板書内容等に基づいて、講義の後に復習を兼ねて作成するものです。また、講義内容を振り返り、理解度を確認するためにワークシートを課します。ワークシートは評価の対象とします。

評価

到達目標（１）の評価　：レポート（30%）　　到達目標（２）の評価　：レポート型学期末試験（30%）
到達目標（３）（４）の評価：ワークシートの内容（25%）
到達目標（５）の評価　　：ワークシートの提出（15%）
による総合評価とします。なお、それぞれの評価基準については、最初の講義の時に説明します。なお、出席が講義回数の３分の２に満たない者は、レポートと試験の評価の対象外です。

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会文化学科専門科目の１年次対象の基礎教育科目は、他に５科目あります。これらの科目を履修して、それぞれの専門分野の学問体系の基礎を学んだ上で、２年次の領域演習や、３年次以降の演習Ⅰ・Ⅱを選択するようにしてください。

※ポリシーとの関連性　専門分野における個別テーマについて深く学ぶための発展科目

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	歴史学特殊講義Ⅱ	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-藤田　明良	２年	fujita@sta.tenri-u.ac.jp	

学びの準備

ねらい

前近代のアジア各地の人・者・情報の交流や,各国・各地域の自他認識について、近年の学術研究の成果を学ぶ。起源神話と実際の起源の相違、交流の交差点となる地域の特色、自他認識の類型と現実の外交や交流の様相、対外戦争によって醸成される敵国イメージなどを素材に、国家を越えたグローバルな歴史の見方を獲得する。

メッセージ

沖縄は歴史上、アジアの海域交流において重要な役割を担っており、アジア各地の人々と多様な関係性を有していた。文献資料や考古学・人類学の成果をもとに沖縄を要とする海のネットワークを政治・経済・社会・文化について各方面から光をあてていきたい。

到達目標

1.前近代のアジア諸地域の交流についてポイントとなる事象を理解し、説明できる。
2,アジア各国の起源について伝承や言説と学術研究の成果との相違を理解する。
3.前近代アジアにおける自他認識の類型について理解する。
4.国際交流や相手国イメージが平和時と戦時においてどのように変化するかを知る。
5,自国と他国の関係について相手国の意見や立場も踏まえた複眼的思考ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	海から見る歴史とは?	配布プリントに基づく予習と復習
2	アジア海域の自然条件	配布プリントに基づく予習と復習
3	スンダランドと黒潮の道	配布プリントに基づく予習と復習
4	日本人はいつ誕生したか?	配布プリントに基づく予習と復習
5	アジアの自他認識:エスノセントリズム	配布プリントに基づく予習と復習
6	アジアの自他認識:中華思想	配布プリントに基づく予習と復習
7	アジアの自他認識:浄穢思想	配布プリントに基づく予習と復習
8	海域史フィールドワーク:中城	配布プリントに基づく予習と復習
9	海域史フィールドワーク:浦添	配布プリントに基づく予習と復習
10	海域史フィールドワーク:那覇	配布プリントに基づく予習と復習
11	アジアの海域交流と沖縄:政治と外交	配布プリントに基づく予習と復習
12	アジアの海域交流と沖縄:経済と貿易	配布プリントに基づく予習と復習
13	アジアの海域交流と沖縄:文化と飲食	配布プリントに基づく予習と復習
14	アジアの海域交流と沖縄:航海と信仰	配布プリントに基づく予習と復習
15	地球史と海域史と沖縄史	レポートテーマに基づくノート整理
16	期末レポート作成	

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】配布プリント、映像資料、予習復習用プリント。
【参考文献】羽田正編『海から見た歴史:東アジア海域に漕ぎだす1』東京大学出版会、村井章介『古琉球:海洋アジアの輝ける王国』角川書店、『(新訂版)歴代宝案の栞』沖縄県教育委員会

学びの手立て

教室での講義は、映像資料やプリントを使用をもとに、受講者はノートを作成する。また、毎回の授業において、予習・復習用プリントを配布・回収、評価して返却する。

評価

毎回の予習復習プリントの評価60%。期末レポートの評価40%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

アジア考古学、アジア史、アジア社会文化論Ⅰ、アジア社会文化論Ⅱ、アジア社会文化論Ⅲ、アジア社会論、アジア文化概論、沖縄前近代史Ⅰ、沖縄前近代史Ⅱ、考古学特講Ⅰ、古文書講読Ⅰ、古文書講読Ⅱ